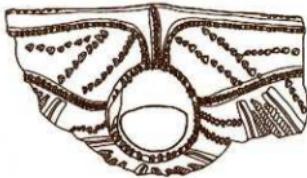


# 永福寺山遺跡

EIFUKUJIYAMA SITE

—昭和40・41年発掘調査報告書—



1997.3

盛岡市教育委員会

# 永福寺山遺跡

—昭和40・41年発掘調査報告書—

1997.3

盛岡市教育委員会



卷頭写真 1. 永福寺山遺跡出土弥生土器



卷頭写真 2. 永福寺山遺跡出土統繩文土器



卷頭写真3. 永福寺山遺跡出土土師器



卷頭写真4. 永福寺山遺跡出土アメリカ式石鏃・勾玉・管玉

## 序　　言

盛岡市には古くは1万年以上も昔の縄文時代草創期の遺跡から、新しくは岩手公園の盛岡城跡に代表される江戸時代の遺跡まで、約500ヶ所の遺跡が確認されています。これらの遺跡の大半は地下に埋もれているもので、「埋蔵文化財」として扱われていますが、昭和40年代以降の急激な市街化や大規模開発の波に押され、破壊・消滅してしまったものも数多くあります。

当市において文化財保護の立場から発掘調査事業が本格的に行われる以前の昭和40・41年に、岩手大学と盛岡市公民館（現盛岡市中央公民館）が共同で小津川地区の永福寺山遺跡において学術調査を行いました。その結果、現在でも盛岡周辺では発掘例が少ない弥生時代終末～古墳時代初頭の遺構・遺物が発見され、調査当時より該期の貴重な資料と評価を受けておりました。遺跡はその調査直後に宅地造成のため大部分が消滅しておりますが、今回の報告書刊行により遺跡の価値が再認識され、盛岡の歴史を語る上で貴重な資料になるものと想われます。

最後になりましたが、当時岩手大学教授として発掘調査を御指導下さった故草間俊一先生の御冥福をお祈りするとともに、調査資料の収集に御協力下さいました関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成9年3月

盛岡市教育委員会

教育長　佐々木　初朗

## 例　　言

- 1 本書は、盛岡市山岸に所在する永福寺山遺跡において、昭和40・41年に行われた発掘調査の報告書である。
  - 2 当遺跡の名称については、過去に「永福寺裏山遺跡」の名称も用いられたが、本書では市登録の「永福寺山遺跡」の名称を用いるものとする。
  - 3 本書は、岩手大学、盛岡市中央公民館、岩手県立博物館等に保管されていた発掘調査資料、採集資料をもとに作成しており、所在不明の資料については過去の報告等を参考とした。
  - 4 本書の作成にあたって用いた資料の現状は本文中に記した。
  - 5 本書は、主に弥生時代終末期から古墳時代前期の遺構・遺物についての報告であり、純文時代の遺構・遺物についての詳細は別途報告予定である。
  - 6 遺物の図版は、土器は1/2スケール、石器・石製品は2/3スケール、鉄製品は1/2スケールとした。
  - 7 本書の編集は、盛岡市教育委員会文化課 津嶋知弘、神原雄一郎、黒須靖之、武田良夫、八木光則、似内邦路、室野秀文、菊池与志和、藤岡光男、三浦陽一、太田代由美子、佐々木真史が協議して行い、津嶋、神原、黒須、武田が執筆を担当した。
  - 8 資料の借用については、岩手県立博物館に御協力を賜った。また、報告書作成にあたり、下記の方々より御助言、御協力を賜った。記して謝意を表する。  
(五十音順、敬称略)  
青木誠、荒井降、荒井眞志紀、井上雅孝、日下和寿、佐藤嘉広、高瀬克範、高橋信雄、  
江秀人、宮水勝也、美崎博物館、藤沢敦、福田裕二、宮宏明、村川大
- 整理作業補助員（五十音順）  
芦垣直樹、天沼芳子、泉山紀代子、内山陽子、鹿野奈保美、蘇田アエ子、北村尚江、  
小松愛子、佐々木奈子、下平喜代美、庄司民子、白澤和子、高橋ツヤ、竹花栄子、中島京子、  
平野淑子、藤田友子、藤澤幸子、藤原政人、藤原美知子、三浦栄美、三上良子、水野彰子、  
村山伊津子、吉田貴美

# 目 次

卷頭写真	
序 言	
例 言	
II 次	
挿図目次	
表目次	
写真目次	
T 遺跡の環境	
1 遺跡の位置と周辺の地形 ······	1
2 周辺の遺跡 ······	2
II 調査の経過	
1 調査に至る経緯 ······	4
2 調査の概要 ······	4
III 資料の概要	
1 永福寺山遺跡をめぐる研究史 ······	7
2 資料の整理 ······	9
IV 掘出された遺構・遺物	
1 遺構の検出状況 ······	1 2
2 縄文時代の遺構と遺物 ······	1 2
3 古墳時代の遺構 ······	1 2
4 上横墓出土遺物 ······	2 0
5 トレンチ出土遺物 ······	2 9
6 採集遺物 ······	3 2
V 盛岡周辺の関連遺跡 ······	4 3
VI 遺構・遺物の検討	
1 土壙墓 ······	6 0
2 土器 ······	6 2
3 アメリカ式石鏡 ······	7 2
4 勾玉・管玉 ······	7 3
5 鉄製品 ······	7 3
VIIまとめ ······	7 5
引用・参考文献 ······	7 7
報告書抄録 ······	8 1
写真図版	

## 挿図目次

第1図 永福寺山遺跡の位置	2	第20図 レンチ出土土器 (5)	27
第2図 地形分類と周辺の遺跡分布	3	第21図 レンチ出土土器 (6)	28
第3図 永福寺山遺跡全体図	5	第22図 レンチ出土土器 (7)	29
第4図 第1次～3次調査区全体図	13	第23図 採集土器 (1)	30
第5図 土壙墓1～5平面図	14	第24図 採集土器 (2)	31
第6図 上塙墓1～5断面図	15	第25図 アメリカ式石錐	32
第7図 土壙墓1出土土器	17	第26図 鉄錐・勾下・管下	32
第8図 十塙墓2・3出土土器	17	第27図 盛岡周辺の閉連溝跡分布図	49
第9図 上塙墓4出土土器	17	第28図 前九年遺跡・人新町遺跡出土遺物	50
第10図 土壙墓5出土土器 (1)	18	第29図 宿田遺跡・仲ノ木平遺跡・大原遺跡・ 黒石野遺跡出土遺物	51
第11図 土壙墓5出土土器 (2)	19	第30図 台太郎遺跡・新茶所遺跡出土遺物	52
第12図 十塙墓5出土土器 (3)	20	第31図 八卦遺跡出土遺物	53
第13図 土壙墓6出土土器	20	第32図 錢神沢遺跡採集遺物	54
第14図 土壙墓7出土土器 (1)	21	第33図 一本松遺跡採集遺物 (1)	55
第15図 土壙墓7出土土器 (2)	22	第34図 一本松遺跡採集遺物 (2)	56
第16図 レンチ出土土器 (1)	23	第35図 一本松遺跡採集遺物 (3)	57
第17図 レンチ出土土器 (2)	24	第36図 一本松遺跡採集遺物 (4)	58
第18図 レンチ出土土器 (3)	25	第37図 月見山遺跡・武道遺跡・芋田遺跡採集遺物	59
第19図 レンチ出土土器 (4)	26		

## 表 目 次

第1表 上塙墓出土土器点数表	16	第7表 レンチ出土土器観察表 (3)	37
第2表 レンチ出土土器點数表	16	第8表 レンチ出土土器観察表 (4)	38
第3表 土壙墓出土土器観察表 (1)	33	第9表 レンチ出土土器観察表 (5)	39
第4表 十塙墓出土土器観察表 (2)	34	第10表 レンチ出土土器観察表 (6)	40
第5表 レンチ出土土器観察表 (1)	35	第11表 採集土器観察表 (1)	41
第6表 レンチ出土土器観察表 (2)	36	第12表 採集土器観察表 (2)	42

## 写真目次

卷頭写真1 永福寺山遺跡出土弥生土器	写真1 永福寺山遺跡十塙墓 (1)
卷頭写真2 永福寺山遺跡出土統縄文土器	写真2 永福寺山遺跡上塙墓 (2)
卷頭写真3 永福寺山遺跡出土土師器	写真3 永福寺山遺跡出土統縄文土器 (1)
卷頭写真4 永福寺山遺跡出土アメリカ式石錐・ 勾玉・管玉	写真4 永福寺山遺跡出土統縄文土器 (2)
	写真5 永福寺山遺跡出土鉄錐
	写真6 永福寺山遺跡出土鉄錐 (X線)
	写真7 錢神沢遺跡採集土器
	写真8 一本松遺跡採集土器

# I 遺 跡 の 環 境

## 1. 遺跡の位置と周辺の地形

永福寺山遺跡は、盛岡市街地の東部、山岸三丁目（当時は山岸字中村）・下米内字寺並地内に所在する（第1図）。

盛岡市周辺は地質構造上、北上帯の主要な境界である早池峰構造帯の西縁部にあり、北部北上帯と南部北上帯の双方を含む地域となっている。北部北上帯に属する山地では中起伏山地の外山山地、低起伏山地の工山山地が位置し、南部北上帯に属する山地では、中起伏山地と小起伏山地の双方で構成されている手代森山山地が位置する。その両者にはさまれた早池峰構造帯に属する山地は先第一系からなる北上山地の西縁部にあたり、北上川の近くにまで迫っており、高森山(626m)を中心とする高森山山地と、朝鳥山(607m)を中心とする朝鳥山山地の中起伏山地、さらにその西につづく大日向山山地、岩山(341m)や大森山(381m)を含む達石山山地などの小起伏山地および四十四田丘陵で構成されている。

また盛岡市街および周辺地の平坦部の地形は大きくは3区分され、ひとつは北上川以西零石川以北川以北で、岩手山の火山活動に伴う火碎流堆積物が火山灰砂台地（荒沢台地）を形成し、沖積平野はあまり発達していない地域である。繩文時代草創期・早期を主体とした大新町遺跡、繩文時代中期を主体とした大館町遺跡などが所在し、平安時代の集落跡も複合している。またひとつは北上川以西零石川以南で、零石川の影響による冲積段丘（砂礫段丘Ⅰ）が広がっており、零石川以南奈良・平安時代の集落跡が各所にみられ、9世紀初頭に志波城が造営された地域である。さらにひとつは北上川以東でその支流となる中津川、梁川流域に発達した低位段丘（砂礫段丘Ⅲ）、北上川以東中位段丘（砂礫段丘Ⅱ）の地域がある。西流域は建石山山地を開拓しながら西流し、山地を出た地点から冲積段丘を形成して北上川と合流する。したがって一部を除き上～中位段丘（洪民火山灰層上部以上をのせる砂礫段丘Ⅰと分れ火山灰層をのせる砂礫段丘Ⅱ）があまり発達せず、小起伏山地・丘陵地Ⅱが低位段丘・氾濫平野と接している（第2図）。

本遺跡は、大日向山地南西端の、中津川にはり出した舌状丘陵の頂部付近に立地し、南を流れる中津川からの直線距離は約200m、比高差は約30mある。遺跡の所在する丘の南裾に真言宗永福寺があり、丘の通称である「永福寺山」はこれに由来する。この寺は幕政時代に盛岡藩主の崇敬があつかった寺院として著名である。発掘調査当時、遺跡はほぼ全面が畠地となっていたが、北側の浅い谷にはリンゴが植栽され、そこに続く斜面は牧草地として利用されていた。遺跡周辺も畠地と水田が続く郊外の風景が展開していたが、昭和40年代から市街化が進行し、現在遺跡とその周辺の大半が住宅地に変貌している。

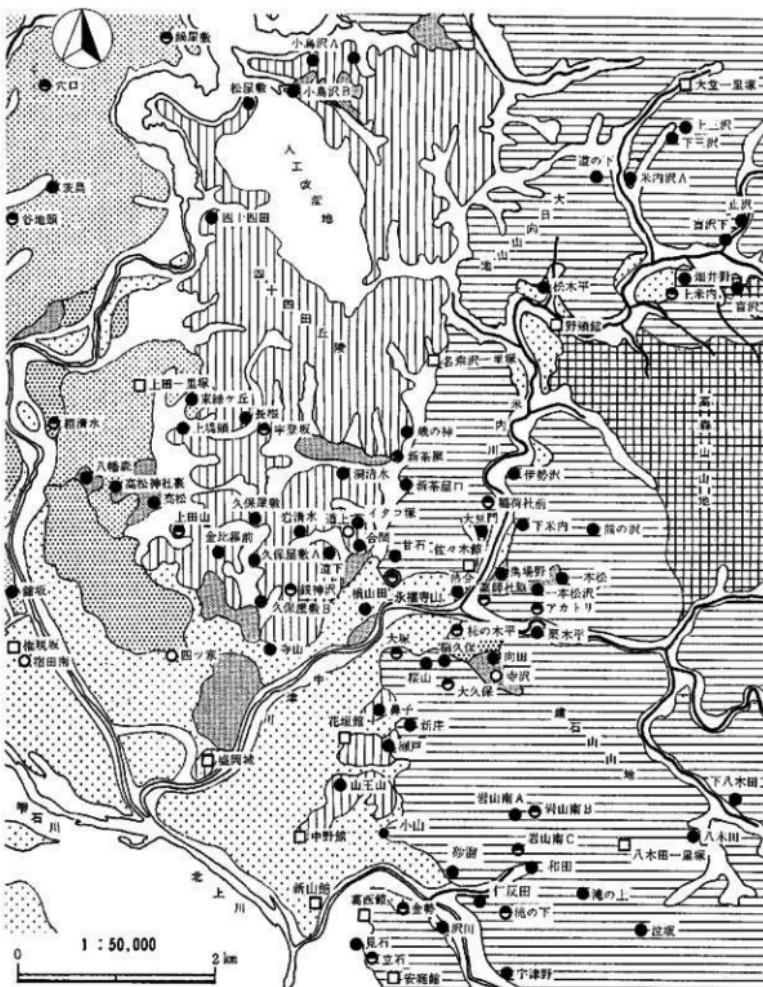
## 2. 周辺の遺跡

**中津川流域** 遺跡の所在する中津川流域では、特に支流の米内川との合流点付近に多くの遺跡が分布している。合流点の北側には落合遺跡があり、縄文時代後期の配石遺構、縄文時代後期・晚期の土壞群、中世の集落跡などが調査されている。また南側には柿ノ木平遺跡があり、縄文時代中期大木8b式期の集落跡、平安時代の集落跡などが確認されている。また、柿ノ木平遺跡の南には縄文時代中期の集落跡と考えられる種久保遺跡が存在したが、住宅用地造成によりほとんど未調査のまま消滅している。合流点から米内川を少し遡ると稻荷社前遺跡、大豆門遺跡、熊ノ沢遺跡などがあり、熊ノ沢遺跡からは縄文時代早期・前期の土器が、稻荷社前遺跡からは縄文時代中期・後期、弥生時代の土器が出土している。また米内川上流域においても畠井野遺跡、上米内遺跡など多くの遺跡が分布し、上米内遺跡では縄文時代中期大木8b式期の集落跡が確認されている。中津川上流域においては、八木田Ⅰ～Ⅴ遺跡が大規模に調査され、縄文時代前期の大集落と縄文時代中期～晚期、平安時代の集落が確認されている。また、大島遺跡では縄文時代後期の小集落が調査されている。

**四十四田丘陵南端部** 遺跡の西方、四十四田丘陵南端部にも多くの遺跡が分布し、歲ノ神遺跡、新茶屋遺跡からは縄文時代早期の土器が出土し、錢持沢遺跡からは縄文時代晚期、弥生時代後期の土器が出土している。



第1図 永福寺山遺跡の位置 (1:50,000)



中起伏山地

扇状地および  
扇錐性扇状地

砂礫段丘III

(低位段丘)

● 縄文時代

● 縄文時代～古代

○ 古代

□ 中世・近世



小起伏山地



火山灰砂台地



谷底平野

および

氾濫平野



丘陵地I



砂礫段丘II

(中位段丘)

第2図 地形分類と周辺の遺跡分布

## II 調査の経過

### 1. 調査に至る経緯

昭和38年春、岩手大学教授草間俊一と盛岡市公民館吉田義昭が盛岡市オミ坂遺跡の発掘調査を行い、弥生土器が出土したことが報道された。当時、永福寺山において遺物を採集していた武田良夫は、その土器片が同じく弥生土器に該当するのではないかと考え、採集した土器片を盛岡市公民館に持参した。吉田は、そのうちの何点かが北海道で出土する後北式土器であると考え、慶應大学教授江坂輝弥に拓影を送ったところ、その土器が確かに後北式土器であること、北海道に分布の中心を持ち、青森県の下北半島などに數ヵ所出土した遺跡のあることが報告され、岩手県でも県北の軒米に出上例があることがわかった。

#### 試掘調査

昭和38年秋、吉田義昭、武田良夫、名久井文明は、永福寺山の頂上部分で遺物が最も濃密に分布している地点において、 $2\text{m} \times 2\text{m}$ の範囲の試掘調査を行った。表土は薄く、30cm程度で地山に達したが、楕円形をした土壤基が1基検出され、その北側上面には、小形の壺形土器があたかも供えられるように置かれていた。この土器は現在、所在不明であるが、大きさは野球ボール大で全面がヘラミガキされ、外面が赤彩されていた。底部には穿孔があり、口縁部が欠損しているものの、ほぼ完形に近かった。

その後、江坂教授の勧めもあり、岩手大学と盛岡市公民館による発掘調査が計画され、昭和40年春から実施のはこびとなった。そのため、武田は何度も遺跡を訪れ表面採集を行い、発掘調査地点の選定を行った。丘の長軸に沿って、東西のはば全面に終末期の弥生土器が散布していたが、頂上付近 $40\text{m} \times 30\text{m}$ の範囲には後北式土器と古式土器の破片が発見された。散布の多いこの地点からは、アメリカ式石鏃5点、菅矢2点、鎌らしい鉄片も採集することができた。

### 2. 調査の概要

#### 調査期日

第1次調査	昭和40年 3月29日	～	4月 2日
第2次調査	昭和40年11月 5日	～	11月10日
第3次調査	昭和41年 4月 6日	～	4月11日

#### 調査方法

1次調査では3本、第2次調査では2本、第3次調査では11本のトレンチを設定し、遺構の検出された部分は拡張して調査を行った。調査面積は合計約400m<sup>2</sup>である。



第3図 永福寺山遺跡全体図（昭和40年填）

### 調査体制

#### 発掘調査担当者

岩手大学教授 草間俊一 盛岡市公民館 古田義昭 盛岡郵便局 武田良夫

#### 発掘調査参加者

岩手大学学生 相内康子 荒武文 石丸史子 泉恵子 及川和子 小野寺章 川又正則

久保泰 熊谷久 熊坂覚 小坂重勝 近藤君代 斎藤哲 菅原弘子

中村知代 花石郁子 原穂子 人首育子 山本誠

盛岡市公民館 古田達夫

### 調査経過

**1次調査** 第1次調査は、遺物の散布の多い頂上付近にトレンチを入れることから開始された。層位の状況は、耕作により搅乱された表土(Ⅰ層)が10~20cmあり、腐食土を含み黒色を呈していた。その下位に、黒褐色で下層ほど黄色を増す層(Ⅱ層)があり、10~20cmで地山に達していた。発掘調査開始後間もなく、勾正が出土し、試掘調査すでに確認されていた土塙墓4(2号堅穴)に並ぶように土塙墓5(3号堅穴)が検出され、北側の縁が縄文時代の陥し穴と重複していた。当時は陥し穴という遺構の認識がまだなく、遺物の出土もなかったことから不明なままであった。そして土塙墓3(1号堅穴東)の底面に近い部分からは刀子が出土し、土塙墓1(6号堅穴)の北側の小ピットからも鉄鎌が出土した。

**2・3次調査** 第2次調査では、第1次調査地点付近あるいはトレンチの延長線の遺構の有無について、また第3次調査ではそれ以前の調査で対象とされたった地点についても調査を行った。出土遺物の量から言えば、回を重ねるごとに減少していった。

### 調査後の経過

発掘調査は、当時の新聞やテレビで報じられ、盛岡市公民館では遺物の洗浄・接合が行われた。その後、草間俊一・古田義昭は各機会をとらえて発掘成果を発表し、昭和41年10月に北上市で開催された日本考古学協会大会では会場で出土遺物が展示され、研究者の注目を集めることとなった。そのため報告書の刊行が計画されたものの、発掘記録の多くが所在不明となり、また外部の展示に貸し出された遺物が行方不明となるなどの事態が起こったため、報告書作成は挫折してしまった。

そして、第3次調査の4年後の昭和45年、発掘調査地点を含む遺跡の大部分は住宅団地の造成により大きく削平され、消滅した。

### III 資 料 の 概 要

#### 1. 永福寺山遺跡をめぐる研究史

永福寺山遺跡の採集資料が紹介されたのは、吉田義昭(1963)によるものが最初である。吉田は、武田良夫とともに採集した土器片13点の拓本を図示し、江坂輝弥により「後北式土器」であることが確認されたと報告している。また、それらの土器と同時に採集された細い撫糸文のある土器片については「当地方に広く分布発見されている縄繩文土器の破片」と述べている。

この報文がきっかけとなり、1965・66年(昭和40・41年)に3次にわたる発掘調査が行われたが、その発掘成果・出土遺物については、様々に公表されることとなった。

吉田義昭・武田良大(1970)は、後北式土器の出土した盛岡周辺の遺跡を紹介する中で、永福寺山遺跡の発掘成果を「数箇の葛籠状の竪穴とその内外から江別式土器、五領式に併行すると思われる古式土師器、勾玉、鉄鎌、その他天王山系の弥生式土器、縄文中期の大木式土器の破片が出土した」と述べ、後北式土器の拓本2点を図示している。そして、出土した「江別式」土器片と「五領式に比定すべき」土器片については、「伴出している」としながらも「副葬品か否かまたはセットの関係などが判明していないことから「発掘に立合った者達」は「その相互の年代に大きな差はないだろうと考えている」と慎重に表現している。

その後、吉田義昭(盛岡市中央公民館1972)は永福寺山遺跡について、後北式土器片10点、鉄器3点、土輪墓1基の写真を掲載し、土師器編年表において岩手の「永福寺山I」を宮城の「塩釜」、南関東の「五領・前野町式」と、「永福寺山II」を「南小泉」、「和泉式」と並行させているが、その詳細は説明されていない。

武田良大(1978)は、永福寺山遺跡採集の弥生土器の拓本25点を図示し、「交差刺突文、沈線文、撫糸文が特徴的な天王山式土器に後続する型式のもの」で、「アメリカ帶石鑑を伴出す」と述べている。また発掘調査の成果については、後北式土器9点、土師器7点の写真を掲載し、「後北式土器と土師器」が「天王山系土器とは散布範囲を異にしていた」と述べ、土師器については「頸部に刻目ある隆帯をめぐらした壺形土器」を「塩釜式」に、「器面を鏡磨きされた」ものを「南小泉式」に比定し、「後北式がどれに伴うものか、或いは前後するものか断定するまでにはいたらなかった」と述べている。

また高橋昭治・武田良大(1982)は、岩手県内における後北式土器出土遺跡の集成と考察の中で永福寺山遺跡の発掘成果にふれ、検出された土墳墓について底面の長軸方向の両端に浅い柱穴があったこと、また周囲にも柱穴らしいものを持つものがあることから、「屋根状構造物」を想定している。また、遺物については後北式土器2点、古式土師器2点の拓本を図示し、土師器については、

「第一類 円形浮文、棒状浮文をもつ壺形土器、刷毛目痕の明瞭で頸部に隆帯のある壺形土器」

「第二類 兜磨きの痕の頸着な壺、高坏」

「第三類 一、「壺の中間的なもの」」

の3つに分類し、「第一類」を「五領式に並行」、「第二類」を「和泉式に並行」とした。そして「棒状浮文のある壺形土器と、頸部に隆帯ある壺形土器」の隆帯がとともに「断面三角形を呈しその上に刻目を施している」ことから「後北式土器に施された手法そのままであり、土師器が製作される際、その手法を借用したもの」と考え、「後北C2式土器は五領式の土師器に並行する可能性が高い」と述べている。

以上のような、当時の発掘調査関係者によって公表されたもの以外にも、発掘資料が掲載されている文献がある。

伊東信雄(1974)は、永福寺山遺跡出土のものとして「複合口縁で、その下端に円文貼付けを有する」土師器1点、「後北C式土器」8点の写真を掲載し、「その出土状態をすなおに解説するならば亦穴式土器と後北C式土器とこの土師器とは同時存在であって、四世紀の土師器が盛岡地方にはいって来た時には、その地方ではまだ亦穴式土器が使用されており、しかも同時に北方からは後北C式がはいって来たと認めざるを得ない」と述べている。

新田賛(水沢市教委1978)は、永福寺山遺跡出土上の土師器42点、鉄器3点、勾正1点の写真を掲載し、高山遺跡出土土師器との比較検討を行っているが、「掲載した写真同版の多くは保管場所が不明であり、実際に検討することができなかった」と述べている。そして草間俊一より「古式土師器と後北C式などの共伴関係を示す資料はなく、むしろ、遺構として確認された土壙跡に後北C式が伴う」との教示を受けたことを述べている。

国生尚(1978)は、永福寺山遺跡について、草間俊一提供の古式土師器33点、後北式土器13点、勾正1点、鉄器3点の写真を掲載している。

また高橋信雄(1982)は、永福寺山遺跡出土土器の再検討を行う中で、後北式土器と土師器の共伴関係について「遺物の出土状況からして共伴する可能性は強いと考える」と積極的に評価し、土師器については「塩釜式」と「南小京II式」の「2つの時期に分けて考えるべき」と指摘している。また「後北C2式」の土器群については断面観察から、Aタイプ（断面が黒色で表面のみ黄褐色、胎土は粗で薄手）とBタイプ（断面が褐色から赤褐色、胎土は密で土師器と酷似し、厚手）の2つに分類し、「施文法でも若干の相違が認められる」としている。そして永福寺山遺跡でのみ両タイプが混在し、土師器も2つの時期があることから、それらが対応関係にある可能性を指摘し、A、Bタイプを時間差とする考えを示した。

中村五郎(1982)は、「永福寺山出土の江別式土器にみられる隆帯と古式土師器の棒状浮文」について「後のある断面三角の隆帯をつけ、さらに細い刻目を加える」という「技法の共通点」を指摘し、「江別式」と「塩釜式」が並行し、実年代は4世紀という考え方を示している。またその後、永福寺山遺跡出土の円形浮文のある壺については「畿内地方の庄内式」並行している(中村1992)。

以上のように、永福寺山遺跡の発掘成果・出土遺物は多くの研究者によって公表・紹介され、重要な指摘がなされたものの、正式な報告書が刊行されなかつたこともあり、その実態があまり明確でないまま評価されてきたと言えよう。近年では、増加しつつある該期の遺物・遺構の調査例を基に、土器群の相互関係を検討する考察が提示されてきている。

斎藤邦雄(1993)は、岩手県内出土の後北式土器、終末期弥生土器の検討を行う中で、「古式土器」との関連を否定するものではないが、現状では当地に見られる後北C2・D式土器は在地の弥生終末期土器群との関わりの中で存在し、その関係はむしろ古式土器との関連よりも強いと考えられる」と述べ、「天王山式相当段階」と「後北C2・D式前半段階」、「赤穴式相当段階」と「後北C2・D式後半段階」をそれぞれ並行関係におく考え方を示している。

上野秀一(1992)は、北海道内出土の終末期弥生土器と東北地方出土の終末期弥生土器とを比較検討し、道内の層位的共伴関係から、「天王山式期」に後続する「福島県の編年でいう踏瀬大山式からト玉台式に対応する時期」に「後北C2・D式前半期」が並行するという考え方を示している。

また、石井淳(1994)は、永福寺山遺跡の出土例からは「後北式土器と古式土器との明顯な共伴関係を証明することは不可能」と述べ、その他の研究成果から、後北C2・D式土器、「天王山式土器群」最終末、床内式から布留式、を並行関係としている。

しかし、現在においても永福寺山遺跡の発掘成果が貴重なものであることは確かであり、現状での資料の提示と検討により、終末期弥生土器・後北式土器・古式土器等の出土状況や共伴関係、検出された土壤層の実態などを明確にすることは、該期研究に必要不可欠と考えられる。

## 2. 資料の整理

昭和40年・41年に行われた永福寺山遺跡の発掘調査における出土遺物、図面、記録、および表面採集遺物は、盛岡市中央公民館、岩手県立博物館、岩手大学、武田良夫により分散して保管されていた。今回の報告書作成にあたり可能な限り資料収集を行ったものの、発掘調査から約30年を経過していることから所在不明の遺物や図面がある上、当時の図面・記録も十分でなく不明な点も多いことから、遺物・図面・記録の現状、資料の問題点と報告の方針を明確にする必要があると考えた。

### 遺物の現状

永福寺山遺跡の発掘調査における出土遺物、表面採集遺物については、盛岡市中央公民館と岩手県立博物館に保管されており、それぞれの内訳は次のとおりである。

盛岡市中央公民館：1・2次調査出土遺物、3次調査出土遺物、武田良夫採集遺物

岩手県立博物館：3次調査出土遺物、武田良夫採集遺物

しかし、これらの資料を整理した結果、過去に永福寺山遺跡出土として写真等で公表されている遺物の一部が所在不明となっていることが確認された。特に円形浮文のある複合II縁の壺の口縁部破片、S字伏II縁をもつ台付甕の口縁部破片、口頭部を欠く小形丸底鉢の半完形成品、刀子など(伊東1974、水沢市教育委1978、国生1978)重要な遺物の所在が不明となっている。

今回整理することができた発掘資料の状態は次のとおりであった。

盛岡市中央公民館保管遺物 - 土器・石器：水洗・注記済(一部注記なし)

鉄器：保存処理済、注記なし

勾正：水洗済、注記なし

岩手県立博物館保管遺物 士器・石器：水洗・注記済

これらの遺物について、その注記の内容を検討すると次のようにまとめられる。

盛岡市中央公民館保管 1・2次調査出土遺物

- ・発掘調査の月日を示すと考えられる数字
- ・現場でのトレンチ・グリッド名を示すと考えられるアルファベットと数字
- ・現場での遺構名・番号を示すと考えられる記述
- ・遺物包含層の層位を示すと考えられるローマ数字

盛岡市中央公民館保管 3次調査出土遺物

- ・発掘調査の年月日を示すと考えられる数字
- ・現場でのトレンチ・グリッド名を示すと考えられるアルファベットと数字
- ・現場での遺構名と考えられる記述

岩手県立博物館保管 3次調査出土遺物

- ・遺跡の略号と調査年を示すと考えられる記述
- ・現場でのトレンチ・グリッド名を示すと考えられるアルファベットと数字
- ・現場での遺構名を示すと考えられる記述

#### 図面・記録の現状

当時の図面・記録については武田良夫によって保管されており、内訳は次のとおりである。

図面

- ① 1～3次調査のトレンチ・遺構配置の平面図（方眼紙、平板測量、1/100）2枚
- ② 1・2次調査検出の上層墓4基と陥し穴の平面図（方眼紙、平板測量、1/20）1枚
- ③ 1・2次調査検出の土塙墓6基と陥し穴の断面図（方眼紙、1/20）5枚
- ④ 1・2次調査のトレンチの上層断面図（方眼紙、1/20）2枚
- ⑤ 3次調査検出のフ拉斯コ形土壙・焼土・柱穴群の平面図（方眼紙、平板測量、1/20）1枚
- ⑥ 3次調査Aトレンチ検出のフ拉斯コ形土壙の上層断面図（方眼紙、1/20）1枚
- ⑦ 3次調査Bトレンチの上層断面図（方眼紙、1/100）1枚
- ⑧ 3次調査Cトレンチ検出の土塙の断面図（方眼紙、1/20）1枚
- ⑨ 3次調査Dトレンチ検出の堅穴住居跡の断面図（方眼紙、1/20）3枚
- ⑩ 3次調査Fトレンチ検出の土壙・柱穴の断面図（方眼紙、1/20）3枚
- ⑪ 3次調査Gトレンチの土層断面図（方眼紙、1/20）1枚
- ⑫ ⑪をトレース・色分けした平面図（トレーシングペーパー、1/100）1枚
- ⑬ ⑫をトレースした平面図（トレーシングペーパー、1/20）1枚
- ⑭ 3次調査Aトレンチ検出フ拉斯コ形土壙のトレースした平面図・土層断面図（トレーシングペーパー、1/20）1枚

調査日誌：昭和41年4月6日、8日、9日、10日、11日の計5日分（第3次調査）

写真：土塙墓を撮影したモノクロ写真プリント2枚（どの土塙墓かは不明）

## 資料の問題点と報告の方針

以上のような状況の資料を整理するにあたり、以下の点が問題となつた。

- ① 1・2次調査検出の土壙墓のうち、「1号竪穴」「5号竪穴」の1/20平面図が存在しない。
- ② 1・2次調査検出の土壙墓・陥し穴、3次調査検出のフラスコ形土壙以外の遺構については、1/20原図が断片的もしくは全く存在せず、詳細が不明である。
- ③ 盛岡市中央公民館保管遺物について、その注記から1次、2次調査出土遺物を区分することが難しい。
- ④ 1・2次調査における現場でのトレンチ名が平面図の平板測量原図に記入されておらず、遺物の注記とトレンチ配置図の対照が難しい。  
これらの問題点を受け、今回の報告書作成は以下の方針で行うこととした。
- ① 調査区全体図は1/100平板測量原図。トレース図をもとに作成するが、当時の図の修正は極力行わない。
- ② 遺構図は1/20平面図と断面図がある程度照合できる「1～3号竪穴」、「6号竪穴」についてのみ作成するが、当時の図の修正は極力行わない。その他については図面が断片的で詳細も不明なため遺構図の作成は行わない。
- ③ 平面図における1・2次調査のトレンチ名は「1・2次トレンチ1」～「1・2次トレンチ5」の名称を新たに与え、遺物の注記との関係は検討課題とする。
- ④ 平面図における3次調査のトレンチ名は「3次Aトレンチ」～「3次Kトレンチ」の名称を用い、遺物の注記と対応するものとする。
- ⑤ 上塙墓については、「土壙墓1～7」の名称を新たに与え、当時の名称とは以下のように対応するものとする。  
土壙墓1=6号竪穴、土壙墓2=1号竪穴西半、土壙墓3=1号竪穴東半、  
土壙墓4=2号竪穴、土壙墓5=3号竪穴、土壙墓6～4号竪穴、土壙墓7=5号竪穴
- ⑥ 縄文時代の遺構については「陥し穴」「フラスコ形土壙」「竪穴住居跡」「焼土」の名称を新たに与え、遺物の注記との対応は検討課題とする。

## IV 検出された遺構・遺物

### 1. 遺構の検出状況

3次にわたる発掘調査の結果、縄文時代の堅穴住居跡1棟、陥し穴1基、フ拉斯コ形土壙1基、古墳時代の土壙墓7基、時期不明の土壙9基、焼土2基が検出された（第4図）。ほとんどの遺構は丘陵の頂部付近に集中し、斜面部からは少量の上器が出上したのみである。また、丘陵頂部一帯には弥生時代終末期の上器片も散布していたが、発掘調査では該期の明確な遺構は検出されなかった。

### 2. 縄文時代の遺構と遺物

永福寺山遺跡では、縄文時代の堅穴住居跡や土壙、焼土遺構が検出されていることが全体図からわかるものの、土壙墓5に切られる陥し穴と3次Aトレンチで検出されたフ拉斯コ形土壙の平面図・断面図以外は詳細が不明である。

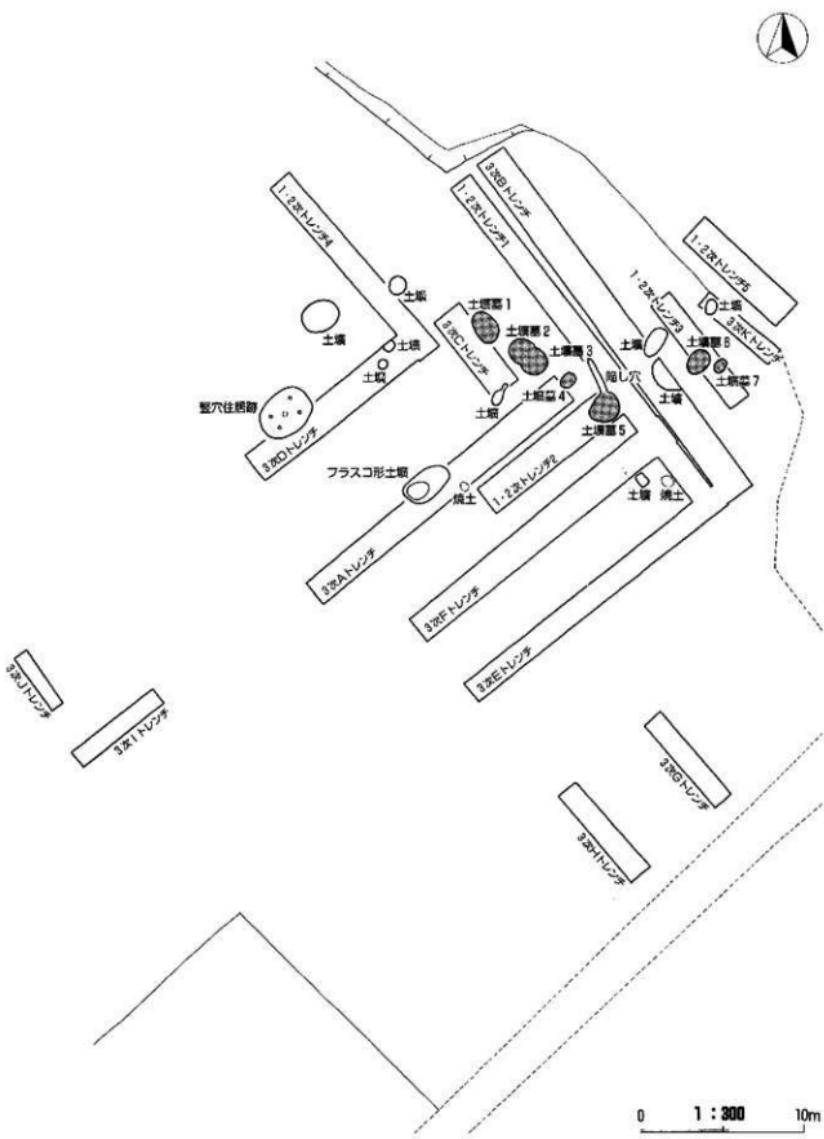
遺物については、ほぼ調査区全域で縄文時代早期から後期までの遺物が出土している。縄文時代中期の大木8a式が主体的であるが、少量ながら縄文時代早期の日計式、後期の円削式もみられる。

### 3. 古墳時代の遺構

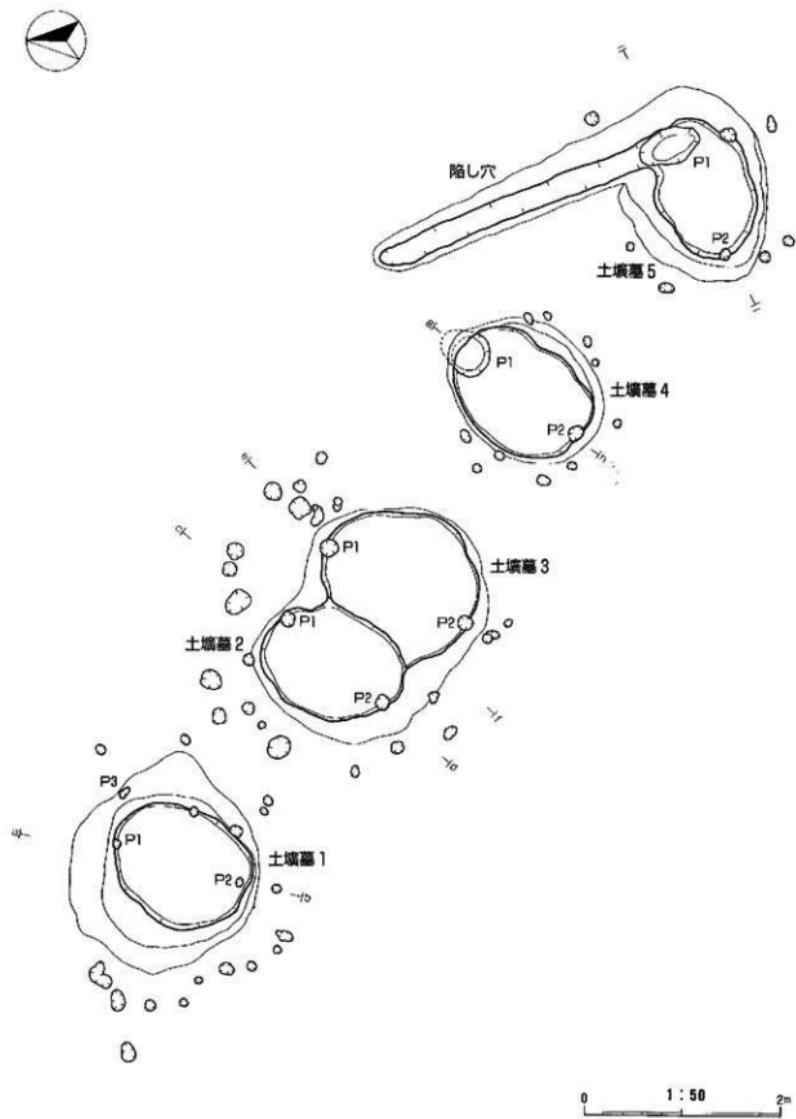
永福寺山遺跡からは、古墳時代の土壙墓が計7基検出されている（第5・6図）。土壙墓の平面形は北東-南西方向に長軸線をもつ橢円形で、丘陵頂部南縁に北西方向から南東方向へ並列し、土壙墓2、3が重複している。なお、以下の事実報告は当時の図面をもとに観察・計測等を行っており、土壙墓の長軸線は底面長軸両端に掘り込まれる一对のピット中央を通す線とした。

#### 土壙墓1（6号堅穴）

位置	土壙墓2の東側に隣接する	平面形	橢円形	
規模	長軸上端1.42m・下端1.39m、短軸上端1.14m・下端1.04m、深さ0.81m	長軸線の傾き	N18°E	
壁の状態	ほぼ直壁	底の状態	平坦	
ピット	長軸両端の壁直下より2口のピット（P1・2）が検出され、P1は直径0.08m、深さ0.19m、P2は直径0.09m、深さ0.21mである。			
遺物の出土状況	土壙墓の北東側に近接するピット（P3）より鉄鏃が2点重なって出土			



第4図 第1次～3次調査区全体図



第5図 土壌堆1~5平面図

### 土壙墓2(1号竪穴西半)

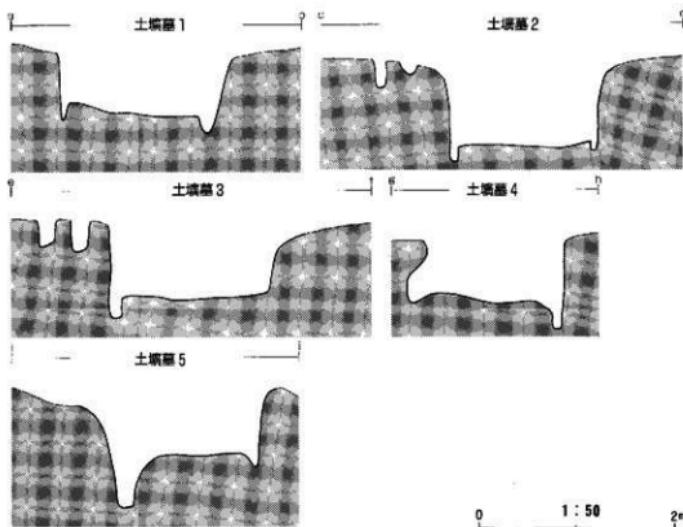
位置 土壙墓1の東側に隣接する 平面形 楕円形 新旧関係 当時は土壙墓3より新しいと認識  
規模 長軸上端1.34m・下端1.34m、短軸上端1.14m・下端1.06m、深さ0.84m 長軸線の傾き N31°E  
壁の状態 ほぼ直壁 底の状態 平坦  
ピット 長軸向端の壁直下より2口のピット(P1・2)が検出され、P1は直径0.17m・深さ0.18m、P2は直径0.14m・深さ0.12mである。

### 土壙墓3(1号竪穴東半)

位置 土壙墓4の西側に隣接する 平面形 楕円形 新旧関係 当時は土壙墓2より古いと認識  
規模 長軸上端1.61m・下端1.54m、短軸1.22m以上・下端1.10m以上、深さ0.61m  
長軸線の傾き N22°E 壁の状態 ほぼ直壁 底の状態 平坦  
ピット 長軸両端の壁直下より2口のピット(P1・2)が検出され、P1は直径0.13m、P2は直径0.11m・深さ不明である。  
遺物の出土状況 底面中央部付近より刀子が1点出土しているが、現在は所在不明である。

### 土壙墓4(2号竪穴)

位置 土壙墓5の西側に隣接する 平面形 楕円形  
規模 長軸上端1.50m・下端1.14m、短軸上端1.20m・下端1.04m、深さ0.62m 長軸線の傾き N36°E  
壁の状態 ほぼ直壁だが、長軸北東端に袋状ピットが掘り込まれる。  
底の状態 北東から南西に傾斜し、底面はやや凸凹である。



第6図 土壙墓1～5断面図

**ピット** 長軸北東端の壁より111の袋状ピット (P1)、南西端底面より111のピット (P2) が検出されている。P1は北東端壁の上部より掘り込まれ、北西—南東幅が0.31m、壁からの奥行きは0.45mである。P2は直径0.14m、深さ0.12mである。

**遺物の出土状況** 試掘調査時に北側上面より上師器の小形壺が出土しているが、現在は所在不明である。

#### 土壙墓5 (3号堅穴)

**位置** 土壙墓4の東側に隣接する **平面形** 楕円形 **重複関係** 繩文時代の陥し穴と重複  
**規模** 長軸上端1.47m・下端1.31m、短軸上端1.12m・下端0.91m、深さ0.64m **長軸線の傾き** N58°E  
**壁の状態** ほぼ直壁 **底の状態** 平坦

**ピット** 長軸両端の壁直下より2口のピット (P1・2) が検出されている。P1は長軸0.58m・短軸0.38m、深さ0.23m、P2は直径0.10m、深さ0.14mである。

#### 土壙墓6 (4号堅穴)

**位置** 1・2次トレンチ3中央部 **平面形** 平面形 楕円形?  
**規模** 長軸? 上端1.57m・下端0.93m、短軸不明、深さ0.73m **長軸線の傾き** 不明  
**壁の状態** 外傾して立ち上がる **底の状態** 平坦

#### 土壙墓7 (5号堅穴)

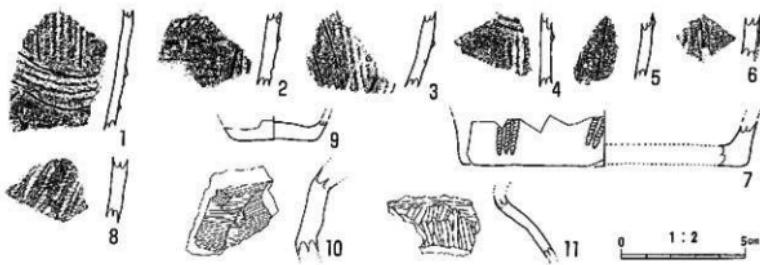
**位置** 1・2次トレンチ3中央部 **平面形** 楕円形?  
**規模** 長軸? 上端1.02m・下端1.00m前後、短軸不明、深さ0.31m **長軸線の傾き** 不明  
**壁の状態** ほぼ直壁 **底の状態** 平坦  
**ピット** 長軸の一端より111のピットが検出され、壁をやや掘り込むことから袋状ピットの可能性を考えられる。壁からの奥行き0.04m、深さ0.09mである。

	土壙墓1			土壙墓2・3			土壙墓4			土壙墓5			土壙墓6			土壙墓7			総計	
	I層	II層	不明	計	I層	II層	不明	計	I層	II層	不明	計	不明	計	上層	下層	不明	計		
寄生土壙	2	3	5	10	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	2	0	1	3	10	
続縄文土器	11	1	12	24	7	11	8	1	9	5	21	28	64	1	1	13	9	8	31	118
上師器	14	0	14	2	9	11	5	0	5	6	15	22	53	6	6	5	12	6	28	112
計	27	4	31	7	16	28	13	1	14	11	37	60	104	7	7	20	21	16	57	249

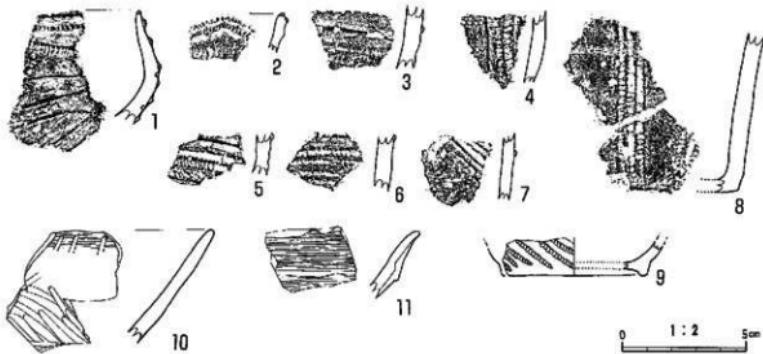
第1表 土壙墓出土土器点数表

	1・2次トレンチ			3次トレンチ										総計				
	I層	II層	不明	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	不明	計		
寄生土器	50	12	103	165	6	34	12	22	31	44	0	0	6	0	0	44	199	364
続縄文土器	126	58	174	356	14	45	8	2	6	18	0	0	1	0	0	13	198	482
上師器	162	78	292	532	22	89	11	20	7	127	4	2	6	0	0	51	328	870
計	338	146	569	1053	42	168	31	44	43	189	6	2	12	0	0	108	643	1986

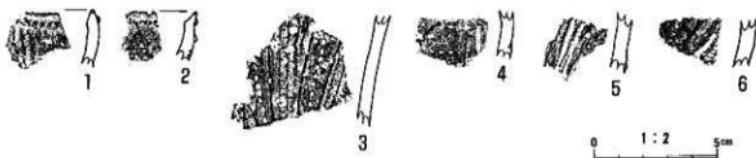
第2表 トレンチ出土土器点数表



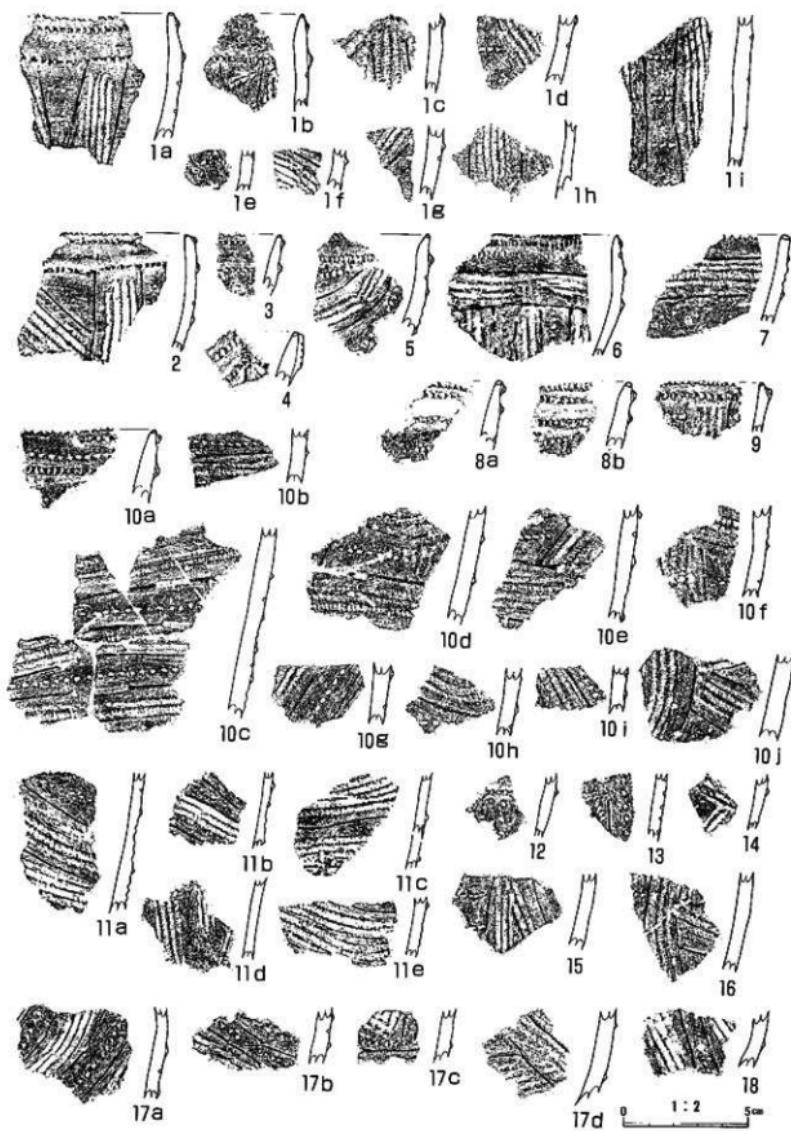
第7図 土壌墓1出土土器



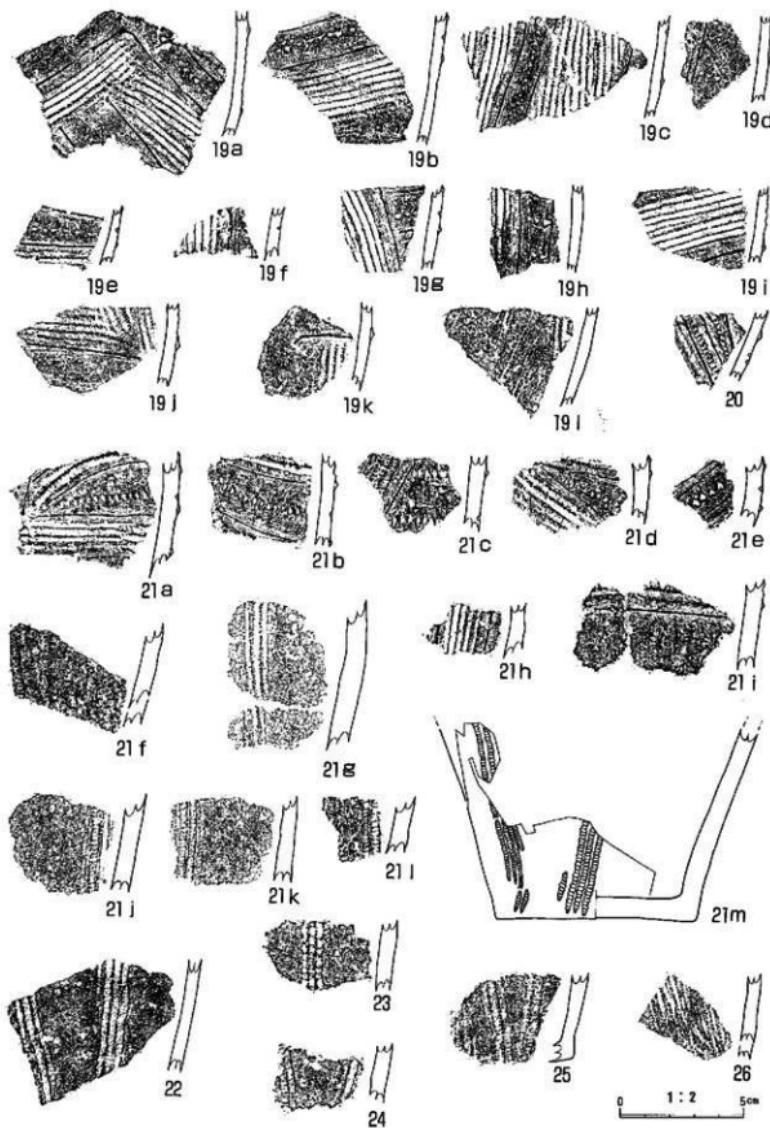
8図 土壌墓2・3出土土器



第9図 土壌墓4出土土器



第10図 土壙墓5出土土器(1)



第11図 土壌窓5出土土器(2)

#### 4. 土壙墓出土遺物

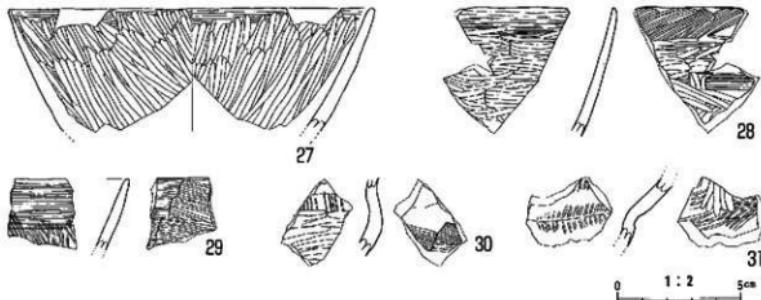
**土器** (第7~15図) 注記から上層墓内出土と考えられる弥生土器、統繩文土器、土師器片は計240点あるが、いずれも小破片が多く、一個体を復元できるものはなかった。各土壙墓からの出土点数は第1表のとおりである。破片数なので一概に比較はできないものの、土壙墓5、7からの出土量が多いようである。弥生土器については、トレンチと比べ出土比率が低いことから、混入と考えられる。統繩文土器と土師器などの土壙墓においてもほぼ同じ比率で出土しているようである。

各土器の特徴等については上巻観察表(第3・4表)を参照されたい。

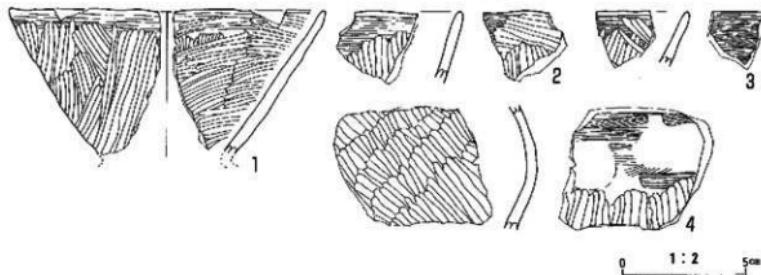
**鉄製品** (第26図1・2) 土壙墓およびその周辺ピットからは刀子1点、鎌2点の計3点の鉄製品が出土しているが、うち現存するのは鎌2点のみである。

刀子は現在所在不明であるが、上層墓3(1号堅穴束)の底面中央付近から出土しており、水沢市高川遺跡の報告書(水沢市教委1978)には「現存最大長7.5cm、幅1.3cm」と記述されている。写真からは目釘穴が認められるが、詳細は不明である。

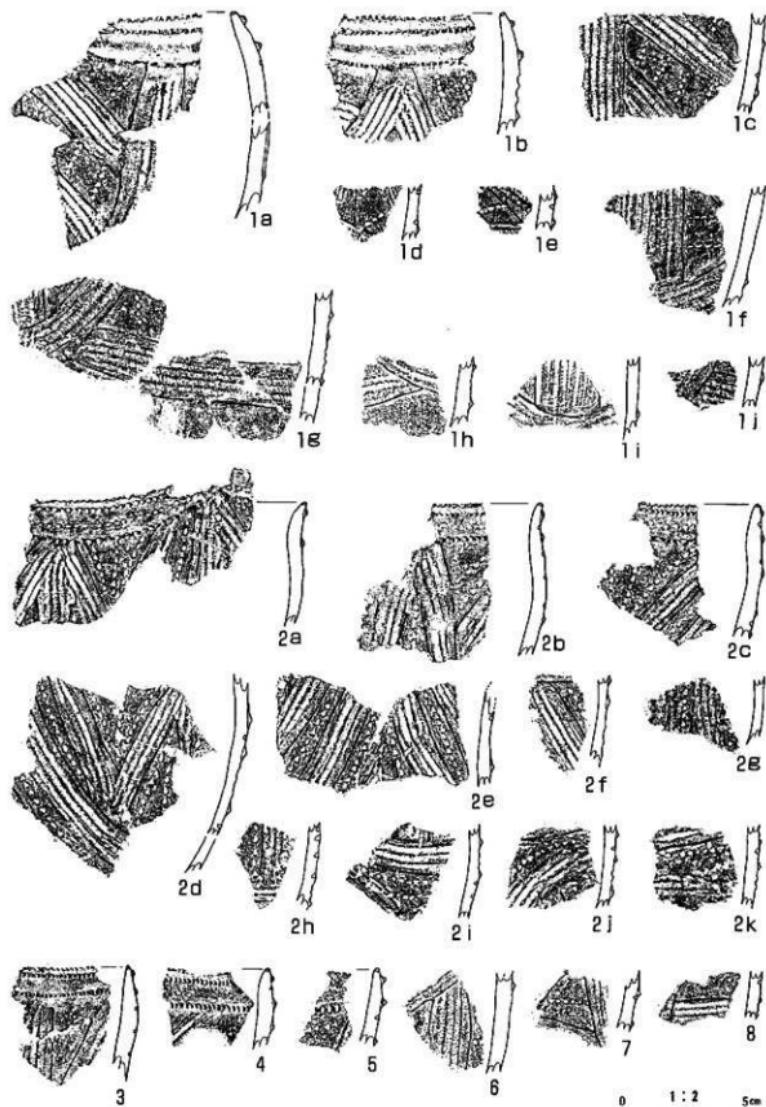
鎌は、土壙墓1(6号堅穴)に近接するピットより2点重なって出土している。26図1は現存長が12.5cm、最大部幅3.4cm、最大部厚0.6cmあり、直刃鎌で、一側面の上縁が刃の切先状に尖り、中央部



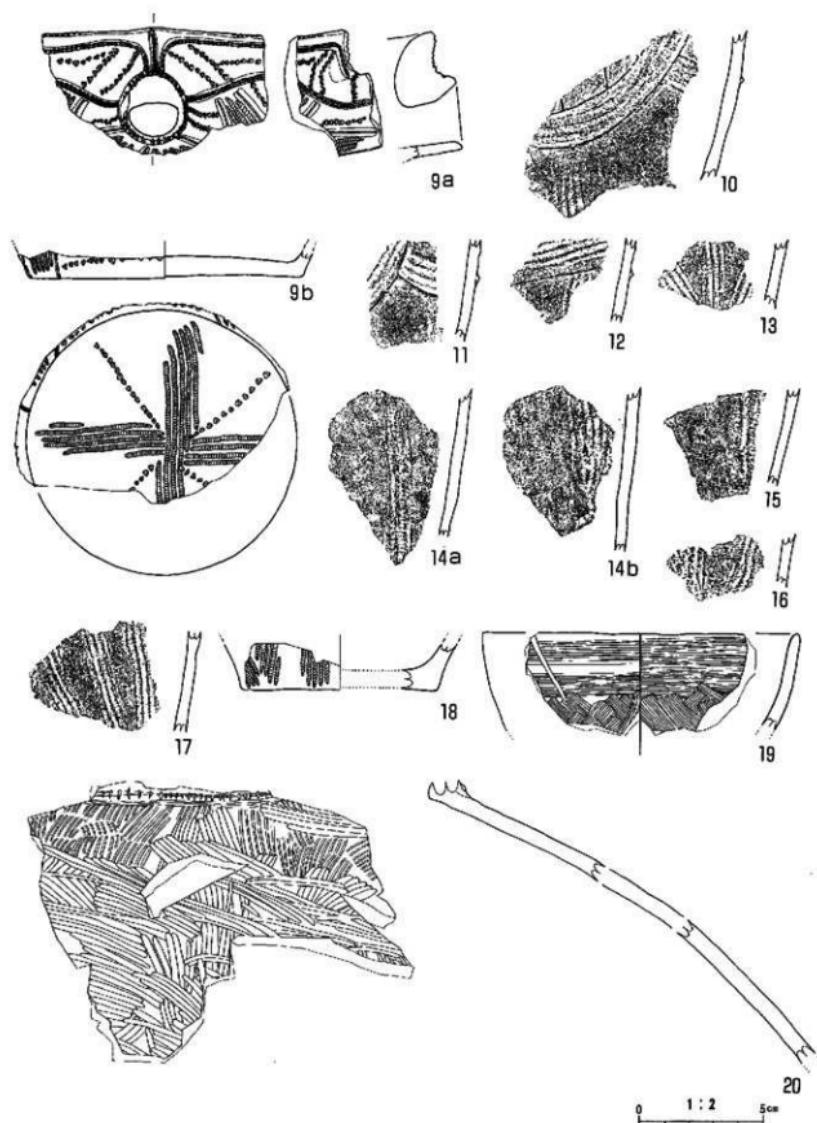
第12図 土壙墓5出土土器(3)



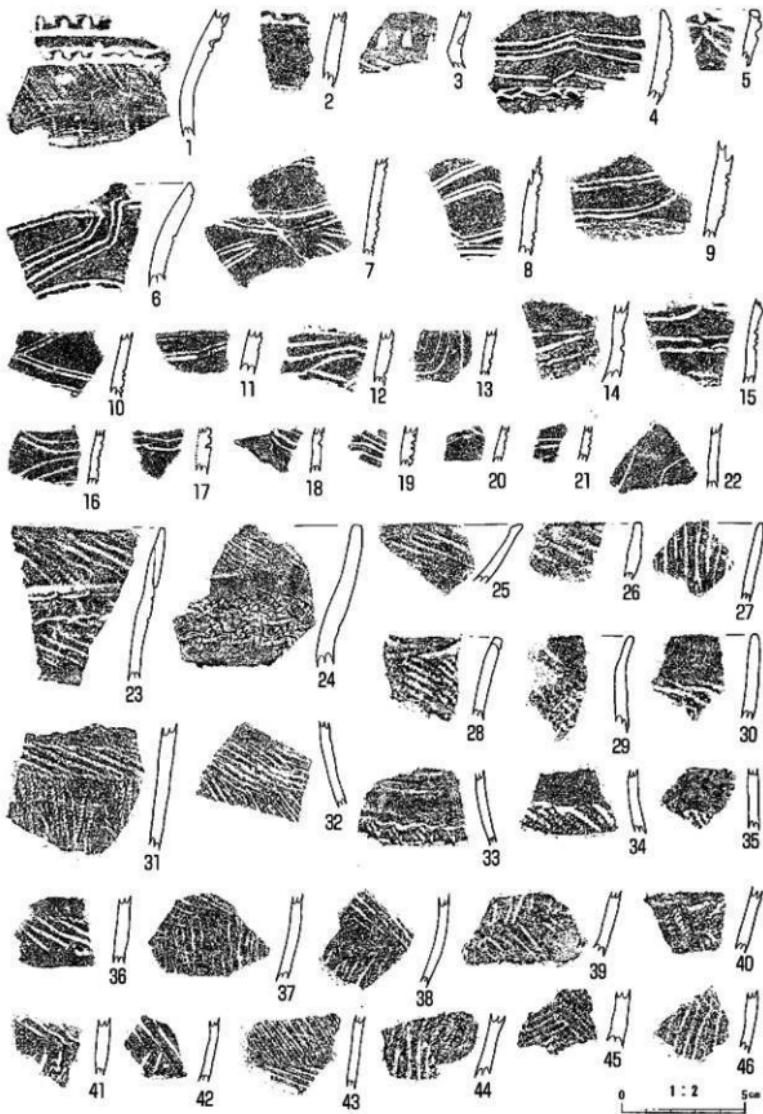
第13図 土壙墓6出土土器



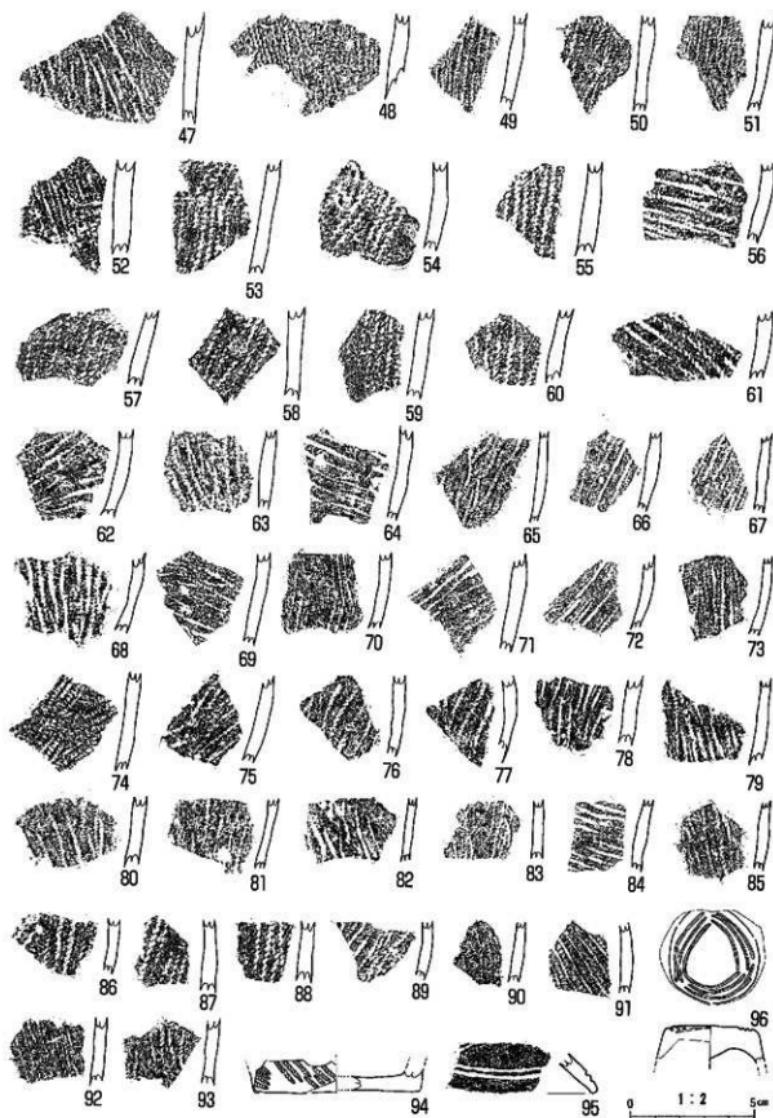
第14図 土壌墓7出土土器(1)



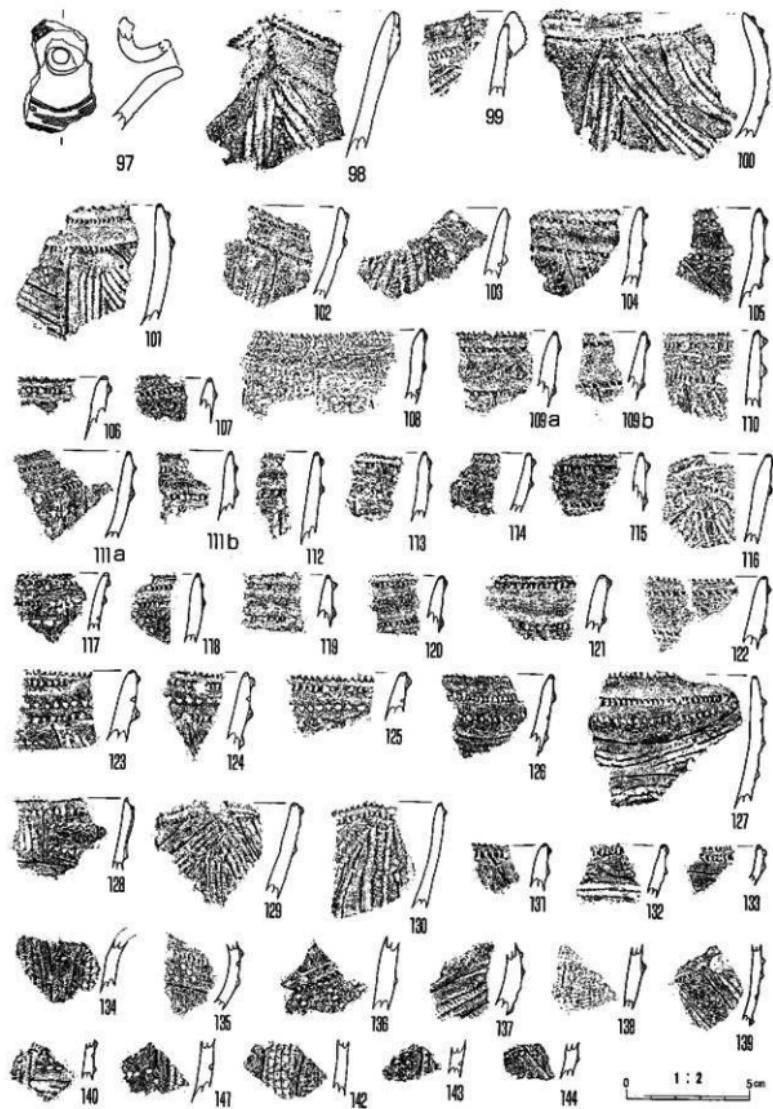
第15図 土壙墓7出土土器(2)



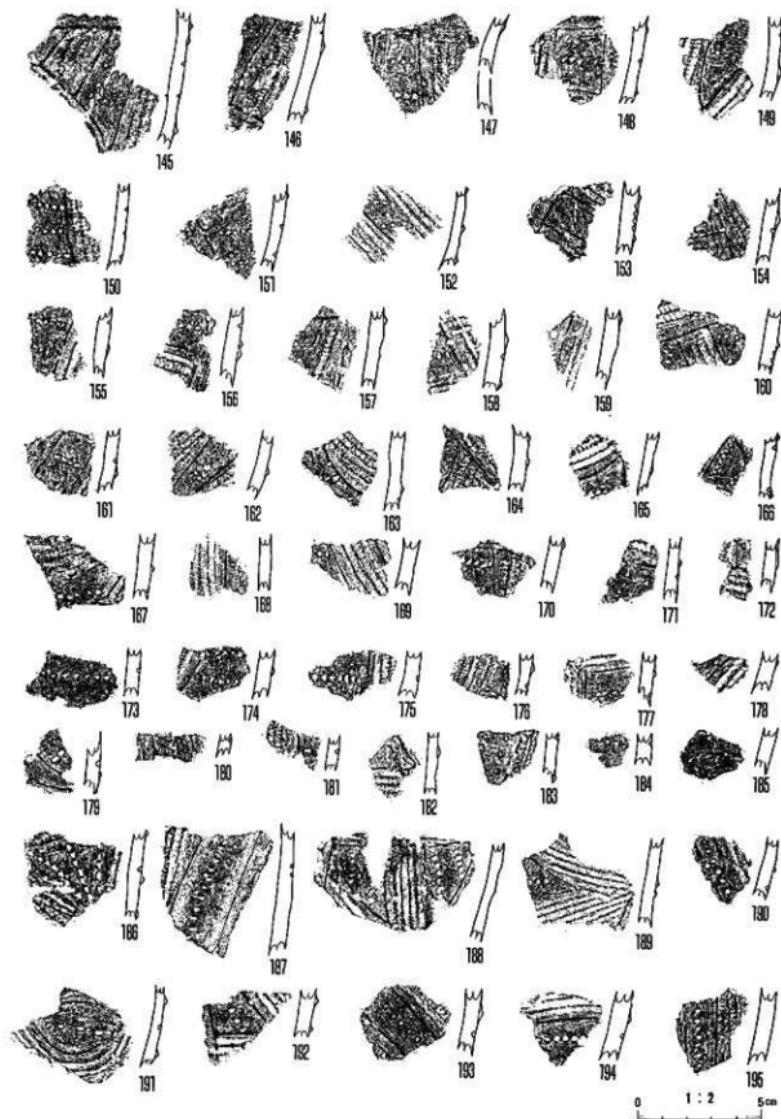
第16図 トレンチ出土土器 (1)



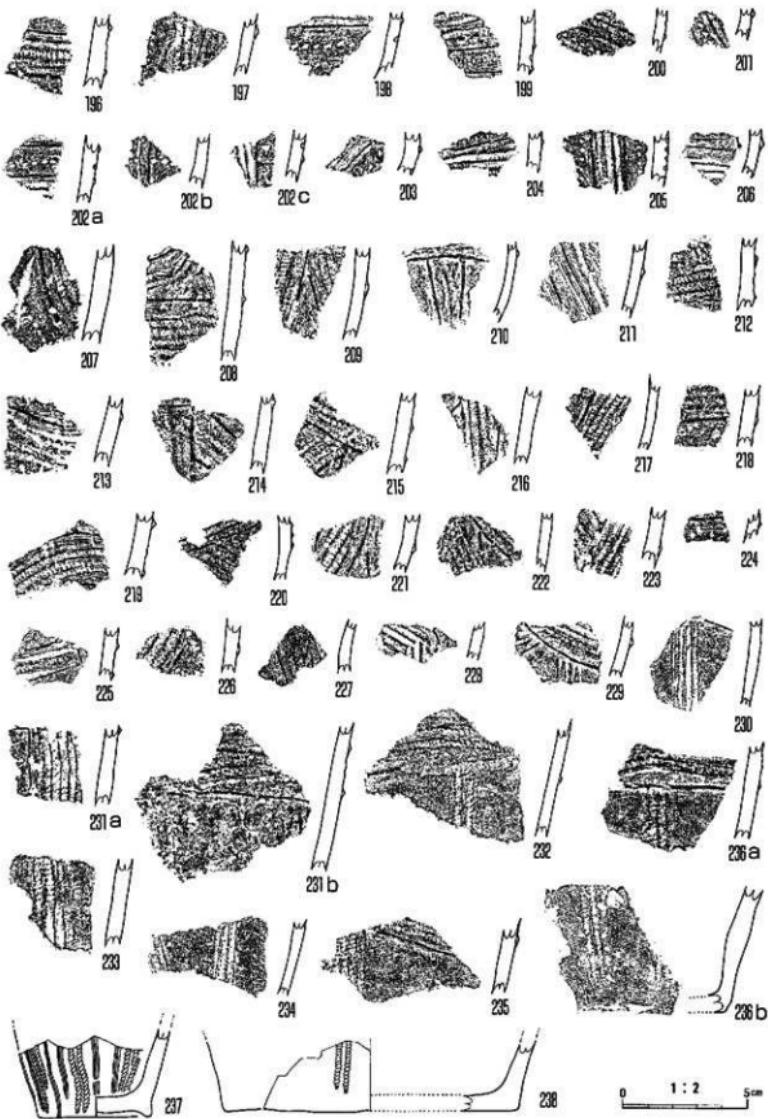
第17図 トレンチ出土土器 (2)



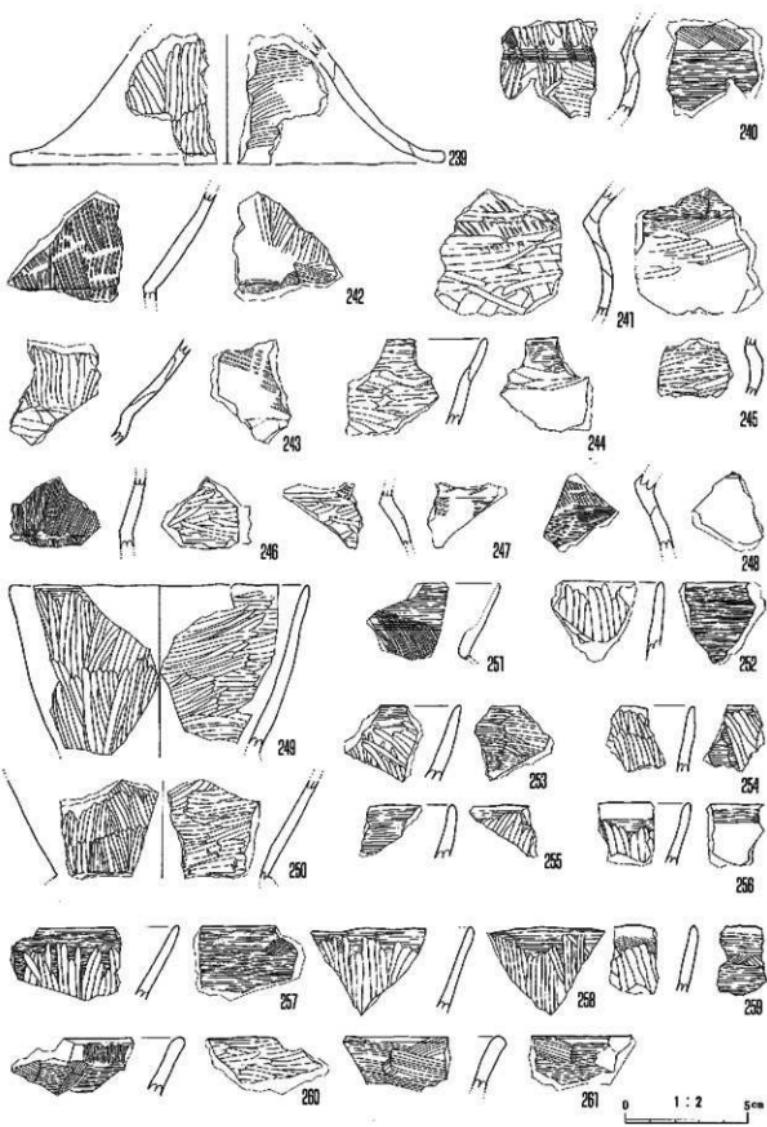
第18図 トレンチ出土土器（3）



第19図 トレンチ出土土器 (4)



第20図 トレンチ出土土器（5）



第21図 トレンチ出土土器 (6)

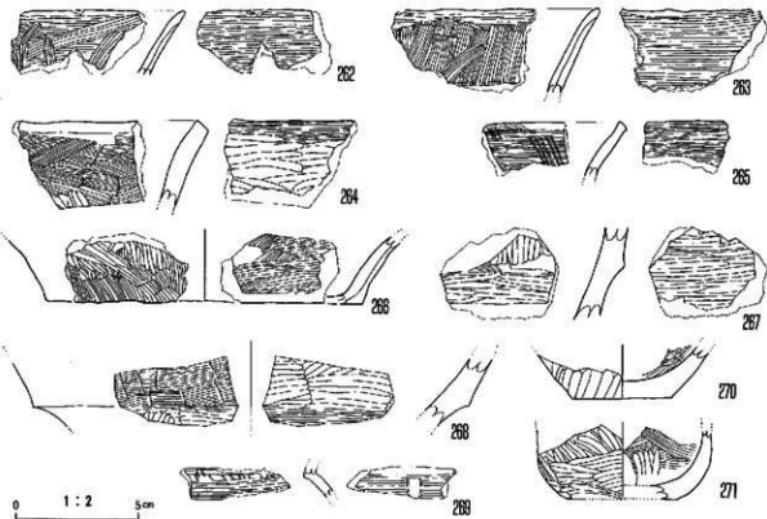
がやや内湾気味になっている。右側縁に折り返しがあり、刃に対してもほぼ直角である。X線写真でも目釘穴は確認されない。26図2は現存長が12.8cm、最大部幅3.8cm、最大部厚0.4cmあり、長方形でわずかに内湾している。両側縁に折り返しがある直刀鋸で、折り返しは刃に対しても直角であったと考えられる。X線写真でも目釘穴は確認されない。

## 5. トレンチ出土遺物

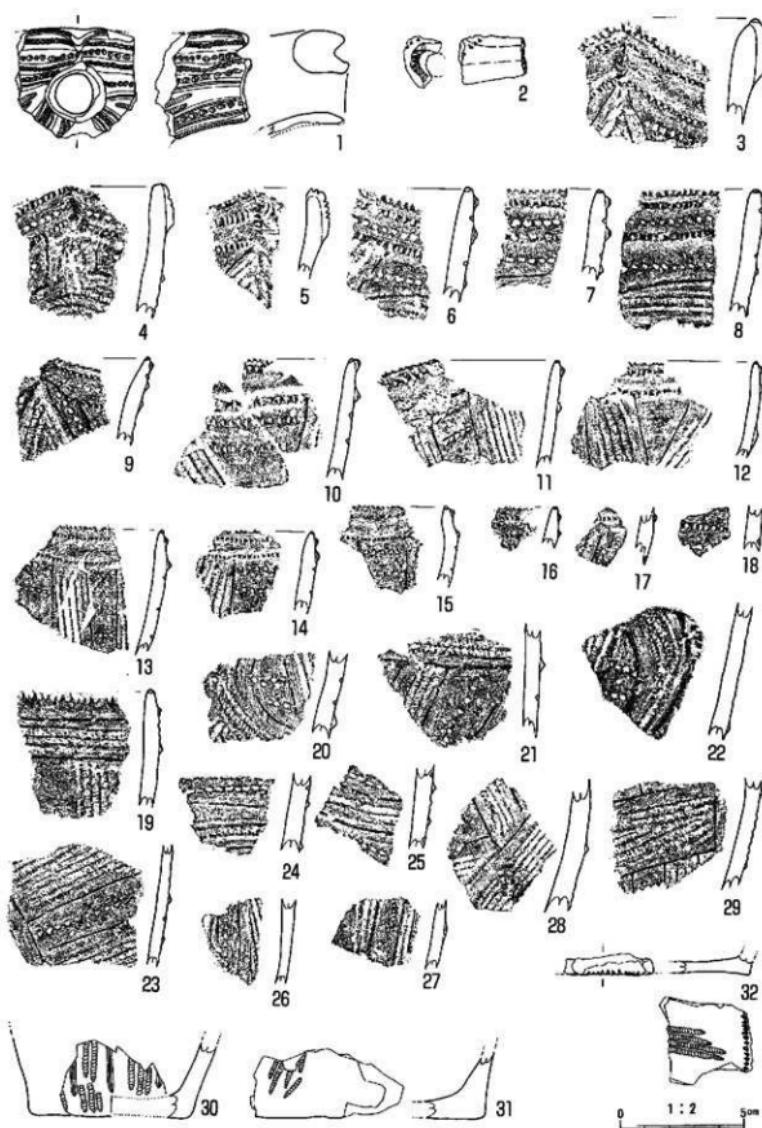
**土器**（第16～22図） トレンチからは計1,696点の弥生土器、統繩文土器、土師器が出土しており、その内訳は第2表のとおりである。1・2次調査では弥生土器、統繩文土器、土師器の出土点数の比率が約1：4：5であるのに対し、3次調査では約3：2：5と弥生土器の比率が高くなっている。1・2次調査ではII層よりI層からの出土点数が多い。また、3次調査ではB・Fトレンチからの出土点数が多いのに対し、周辺のG・H・I・Jトレンチからの出土点数はわずかである。

各土器の特徴等については土器観察表（第5～10表）を参照されたい。

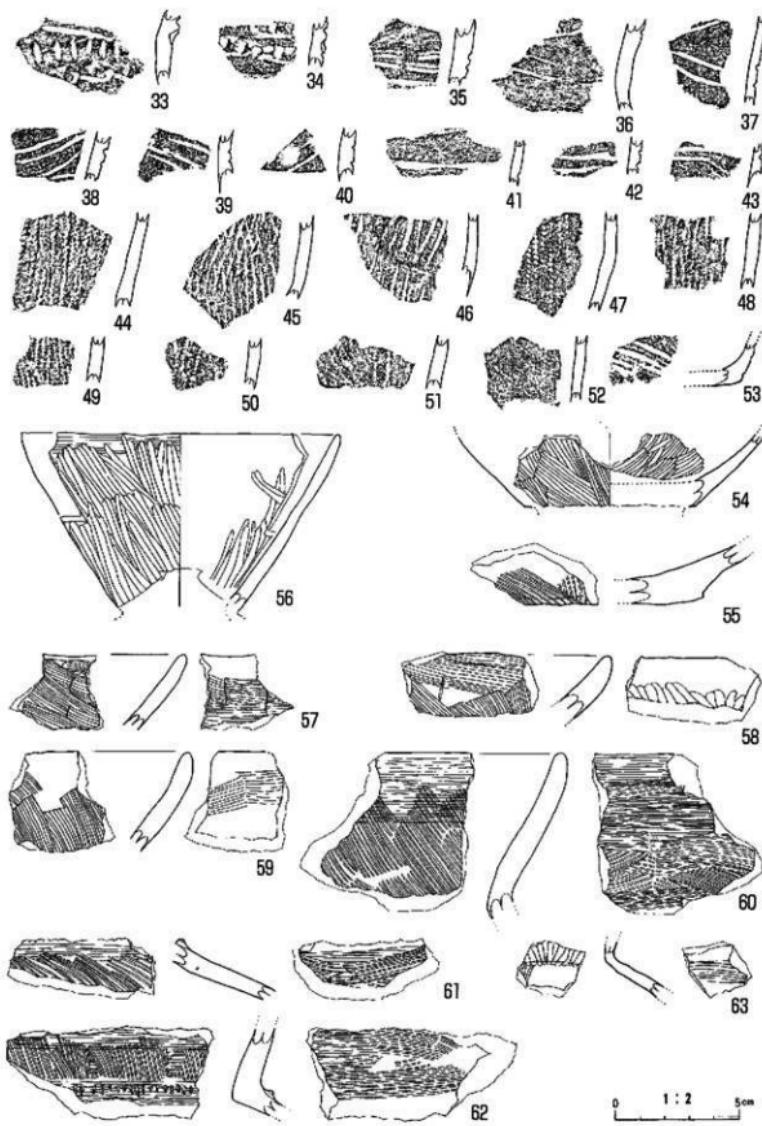
**勾玉**（第26図3） 1次調査のトレンチより勾玉が1点出土している。材質は半透明なメノウで、形態はC字形、片面穿孔である。尾部がやや尖って、頭部その他に整形時の稜が残り、断面形は正確な楕円形をなしていない。全長は22.2mm、幅14.3mm、厚さ7.0mm、重量3.2gである。



第22図 トレンチ出土土器（7）



第23図 採集土器 (1)



第24図 採集土器（2）

## 6. 採集遺物

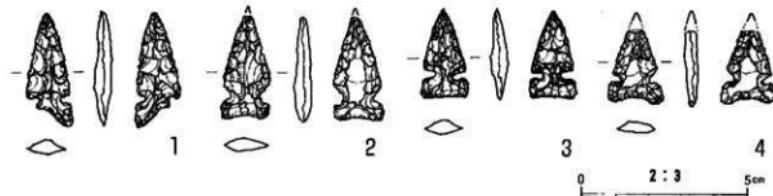
永福寺山遺跡では、発掘調査前から武田良夫により多くの遺物が採集されている。

**土器** (第23・24図) 計326点の弥生土器、統繩文土器、上師器が採集されており、その内訳はそれぞれ46点、42点、238点と点数的には上師器が多い。

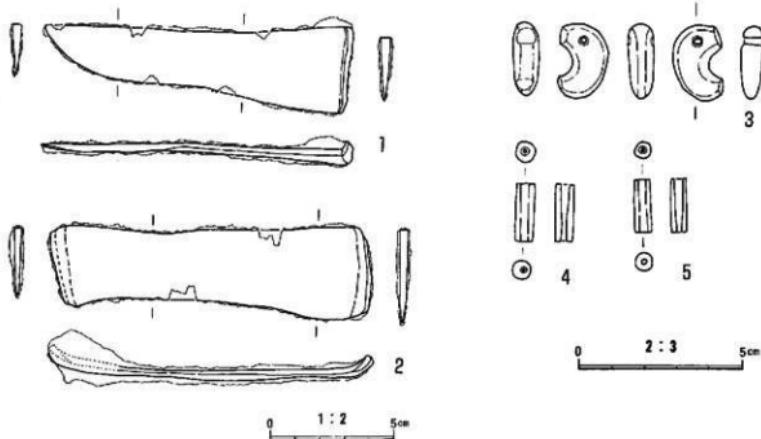
各土器の特徴等については土器観察表(第11・12表)を参照されたい。

**管玉** (第26図4・5) 2点採集されている。いずれも材質は碧玉で、片面穿孔である。第26図4は全長が17.5mm、径5.5mm、重量0.9gであり、5は全長が15.8mm、径5.0mm、重量0.6gである。

**アメリカ式石鏃** (第25図) 5点採集されているうち、現存するのは4点のみである。石材は全て頁岩であり、第25図1の基部、2・4の先端部が欠損している。第25図1は全長が34.2mm、幅13.7mm、厚さ4.9mm、重量1.6g、2は全長が30.9mm、幅15.0mm、厚さ4.5mm、重量1.9g、3は全長が26.3mm、幅14.1mm、厚さ4.4mm、重量1.1g、4は全長が21.8mm、幅16.5mm、厚さ3.6mm、重量1.1gである。



第25図 アメリカ式石鏃



第26図 鉄鎌・勾玉・管玉

第3表 土壤墓出土土器觀察表(1)

捕獲	次回放	標器番号	種別	種類	形状・文様・地文・前部調整・胎土など	皮膚化・類似等
0 - 16	1 - 2	土標器5	I 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩・帯繩文・三角形刻突、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面コゲ
0 - 17	1 - 2	土標器5	II 純縄文	繩縄文	体部下半:被羅繩・帯繩文・三角形刻突、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面コゲ
0 - 14	1 - 2	土標器5	純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩・帯繩文・三角形刻突、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面コゲ・ベンガラ
1 - 19	1 - 2	土標器5	II 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩・帯繩文・三角形刻突、体部下半:帯繩文、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面コゲ・ベンガラ
1 - 20	1 - 2	土標器5	一 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩・三角形刻突、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
1 - 21	1 - 2	土標器5	II 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩・三角形刻突、体部下半:帯繩文、底部:ミガキ、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
1 - 23	1 - 2	土標器5	I 純縄文	繩縄文	体部下半:土標繩、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
2 - 28	1 - 2	土標器5	II 純縄文	繩縄文	体部下半:土標繩、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
24	1 - 2	土標器5	一 純縄文	繩縄文	体部下半:土標繩、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
25	1 - 2	土標器5	II 純縄文	繩縄文	体部下半:土標繩、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
26	1 - 2	土標器5	一 生	生	体部上半:附加胎土糞	外・内面スス
3 - 27	1 - 2	土標器5	土標繩	荷物	口縁部:ヨコナデ+タテハラミガキ、内面:ヨコナデ+タテハラミガキ、胎土:ウンモ含む	外・内面朱
3 - 28	1 - 2	土標器5	土標繩	荷物	口縁部:ヨコナデ+ヨコハラミガキ、内面:ナデ+ヘラミガキ、胎土:ウンモ含む	外・内面朱
2 - 29	1 - 2	土標器5	土標繩	荷物	口縁部:ハケメ+ヨコナデ、内面:ヨコナデ、胎土:ウンモ含む	外・内面朱
2 - 30	1 - 2	土標器5	土標繩	荷物	口縁部:ハケメ+ヘラナデ、内面:ヘラナデ、胎土:ウンモ含む	外・内面朱
2 - 31	1 - 2	土標器5	一 土標繩	荷物	口縁部:ハケメ、内面:ヨコハラミガキ、内面:ヘラナデ+ハラミガキ	外・内面朱
3 - 1	1 - 2	土標器5	土標繩	生	口縁部:ヨコナデ+タテハラミガキ、内面:ヨコナデ+タテハラミガキ、胎土:クンモ含む	外・内面朱
3 - 2	1 - 2	土標器5	土標繩	生	口縁部:ヨコナデ+タテハラミガキ、内面:ヨコナデ+タテハラミガキ	外・内面朱
3 - 3	1 - 2	土標器5	土標繩	生	口縁部:ヨコナデ+タテハラミガキ、内面:ヨコナデ	外・内面朱
3 - 4	1 - 2	土標器5	土標繩	生	口縁部:ヨコナデ+タテハラミガキ、内面:ヨコナデ	外・内面朱
14 - 1	1 - 2	土標器5	下 純縄文	繩縄文	体部:タグ+ミガキ、内面:ハラミナデ+ヘラミガキ、口縫部:ナシ、口縫前:陸繩+木平行+キサミ、体部上半:被羅繩・帯繩文・円形刻突、体部下半:被羅文、内面ナデ、胎土:硬質	外面コゲ・ベンガラ
14 - 2	1 - 2	土標器5	下 純縄文	注付口	口縫:波状、キサミ、口縫前:陸繩+木平行+キサミ・三角形刻突、体部上半:被羅繩・帯繩文・三角形刻突、内面ナデ、ミガキ、胎土:硬質	外・内面コゲ
14 - 3	1 - 2	土標器5	上 純縄文	繩縄文	口縫:波状?、キサミ、口縫前:陸繩+木平行+キサミ、体部上半:被羅繩・帯繩文・円形刻突、内面:ナデ、胎土:硬質	外面コゲ
14 - 4	1 - 2	土標器5	上 純縄文	繩縄文	口縫:波状?、キサミ、口縫前:陸繩+木平行+キサミ・三角形刻突、体部上半:被羅繩・帯繩文・三角形刻突、内面ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
14 - 5	1 - 2	土標器5	二 純縄文	繩縄文	口縫:波状?、キサミ、口縫前:陸繩+木平行+キサミ・三角形刻突、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
4 - 6	1 - 2	土標器5	三 純縄文	繩縄文	体部:タグ+ミガキ、内面:ハラミナデ+ヘラミガキ、口縫部:ナシ、口縫前:陸繩+木平行+キサミ、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面コゲ
4 - 7	1 - 2	土標器5	四 純縄文	繩縄文	体部:タグ+ミガキ、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面コゲ
4 - 8	1 - 2	土標器5	五 純縄文	繩縄文	体部:タグ+ミガキ、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
5 - 9	1 - 2	土標器5	上 純縄文	注付口	口縫:波状、キサミ、口縫前:陸繩+木平行+キサミ・三角形刻突、体部上下:被羅繩・帯繩文・三角形刻突、底部:ヨコ繩+横地文+ナデ、三角形刻突+ナデ、胎土:海苔骨粉含む	外面スス・ベンガラ
5 - 10	1 - 2	土標器5	下 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩・帯繩文・円形刻突、体部下半:被羅文、内面:ナデ、胎土:硬質	内面コゲ・白色化粧土
5 - 11	1 - 2	土標器5	下 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩・帯繩文・円形刻突、体部下半:被羅文、内面:ナデ、胎土:硬質	白色化粧土
3 - 12	1 - 2	土標器5	下 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩・帯繩文、体部下半:被羅文、内面:ナデ、胎土:硬質	内面コゲ
5 - 13	1 - 2	土標器5	上 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩、内面:ミガキ、胎土:硬質	-
5 - 14	1 - 2	土標器5	下 純縄文	繩縄文	体部下半:被羅繩、内面:ナデ、胎土:硬質	-
5 - 15	1 - 2	土標器5	上 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面スス
5 - 16	1 - 2	土標器5	下 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩、内面:ナデ、胎土:硬質	外・内面コゲ
5 - 17	1 - 2	土標器5	上 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩、内面:ナデ、胎土:硬質	-
5 - 18	1 - 2	土標器5	下 純縄文	繩縄文	体部上半:被羅繩、内面:ナデ、胎土:硬質	-
5 - 19	1 - 2	土標器5	上 純縄文	繩縄文	口縫部:ヨコナデ+ハラナデ、内面:ヨコナデ+ハラナデ、胎土:ウンモ含む	-
5 - 20	1 - 2	土標器5	上 純縄文	繩縄文	口縫部:ヨコナデ+ハラナデ、内面:ヘラナデ	外・内面スス

第4表 土壙墓出土土器觀察表(2)

第5表 トレンチ出土土器観察表(1)

標図	次元記号・トレンチ番号	部位	種別	名稱	要証・文様・地文・断面調査・胎土など	炭化物・顕微等	
Y - 47	B 2	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 48	A	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 48	-2	土手	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 50	B	E 4	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 51	-2	土手	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 52	B	I	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 53	B	C 2	弥生	鏡	体部:附加条溝文、補缺丸、内面:ナデ	外面スス	
Y - 61	-	C 2	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	外面コマ	
Y - 55	B	E 1	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	外面スス	
Y - 58	B	E 4	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 57	-2	AT 1	I	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	外面スス
Y - 58	-2	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 59	-2	D T 2	I	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
Y - 60	-2	B T 3	I	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
Y - 61	-2	東端	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 63	B	O	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 63	-2	D T 1	I	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ、胎土:ランモ含む	外面スス
Y - 64	B	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 65	-2	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 66	-2	B T 2	I	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
Y - 67	-2	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 68	B	F	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 68	-2	D T 2	I	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
Y - 70	B	F 火	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ?	-	
Y - 71	-2	B T	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ?	-
Y - 72	-2	B T 2	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ?	-
Y - 73	B	D 6	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	外面スス	
Y - 74	-2	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 75	B	F 1	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 76	B	D 8	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 77	B	D 8	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 78	-2	AT 1	I	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
Y - 79	B	D 1	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 80	-2	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 81	B	F 6	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 82	B	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 83	B	E 2	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 84	-2	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 85	-2	B T 3	I	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
Y - 86	B	E 1	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 87	-2	F 1	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 88	B	P	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	外面スス	
Y - 89	B	B 3	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 90	B	B 9	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 91	-2	-	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	
Y - 92	-2	土手	弥生	鏡	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-	

第6表 トレンチ出土土器観察表(2)

押出し器種別	形態	文様	地文	器面調査	胎土など	炭化物・顔料等
17-93 1-2 土手	所生	表	体部: 附加条彫文、内面: ナデ			
17-94 3-	所生	裏	体部下半: 附加条彫文、内面: ナデ			
17-95 3 B 1	所生	表?	縁辺部: 沈彫文、内面: ナデ			
17-96 1-2 AT 6	所生	裏?	頂部: 円形彫線文、内面: ナデ			
18-97 3 A 2	紹織文	注口付	底状。キサミ。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-98 1-2 AT 6	紹織文	縫跡	底状。キサミ。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-99 3 C 1	紹織文	縫跡	底状。キサミ。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-100 1-2 CT 4	紹織文	注口付	底状。キサミ。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			褐色化粧土
18-101 1-2	紹織文	縫跡	底状。キサミ。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-102 3 C 2	紹織文	縫跡	底状。キサミ。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-103 1-2 BT 5	紹織文	注口付	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ?。体部下半: 微隆起+帯彫文。三角形刺突。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-104 1-2 AT 7	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。三角形刺突。内面: ナデ。胎土: 硬質			外側面ヨグ
18-105 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。三角形刺突。内面: ナデ。胎土: 硬質			外面スヌ
18-106 1-2 BT 2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-107 1-	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-108 1-2 AT 8	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+円形刺突。内面: ナデ。胎土: 硬質			外面ヨグ
18-109 1-2 AT 9	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-110 1-2 AT 8	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-111 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-112 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-113 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			外面ヨグ
18-114 1-2 AT 4	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 微隆起+三角形刺突。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-115 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			外面ヨグ
18-116 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。三角形刺突。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 花崗岩			
18-117 1-2 CT 4	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			外面ヨグ
18-118 1-2	紹織文	注口付	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。体部上半: 円形刺突。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-119 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-120 1-2 東堀	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-121 1-2 AT 6	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-122 1-2 AT 8	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-123 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-124 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。円形前突。体部上半: 微隆起。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-125 3 B 6	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織? 本平行+キサミ。三角形刺突。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-126 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-127 1-2 AT 6 抵	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-128 1-2 AT 5	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			外面ヨグ
18-129 3 A	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-130 3 A	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-131 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-132 3 P 3	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-133 3 F 2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-134 1-2	紹織文	注口付	体部上半: 微隆起+帯彫文。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-135 1-2 AT 8 抵	紹織文	注口付	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 微隆起+円形刺突。内面: ナデ。胎土: 硬質			
18-136 1-2	紹織文	縫跡	底状。無文?。口縁部: 陶織+キサミ。体部上半: 円形刺突。内面: ナデ。胎土: 硬質			

第7表 トレント出土土器観察表(3)

押回	次數	並番	所位	種別	器種	鑿跡・文様・地文・器面調整・施土など	炭化物・漆料等	
1	-137	1-2	-	前縁文	底口付	口縫線・施墨・キサミ、体部上半: 敷墨線・帯織文、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-138	1-2 A T 7	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、体部上半: 敷墨線・帯織文、内面: ナデ、施土: 硬質	外面スヌ・内面ヨグ	
1	-139	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、体部上半: 敷墨線・帯織文、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-140	3	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、体部上半: 敷墨線・帯織文、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-141	1-2	-	前縁文	深鉢	体部上半: 敷墨線・帯織文、内面: ナデ、施土: 硬質	内面ヨグ	
1	-142	1-2 A T 7	-	前縁文	深鉢	体部上半: 敷墨線・帯織文、内面: ナデ、施土: 硬質	外面ヨグ	
1	-143	1-2	-	前縁文	深鉢	体部上半: 敷墨線・帯織文、内面: ナデ、施土: 硬質	外面スヌ	
1	-144	3	B10	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	外見スヌ
1	-145	1-2 A T 6	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	外見スヌ	
1	-146	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	外見スヌ	
1	-147	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-148	1-2 A T 7	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-149	3	B10	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-
1	-150	1-2 A T 10	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-151	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-152	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	内面ヨグ	
1	-153	1-2 A	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	外面スヌ	
1	-154	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	外見スヌ	
1	-155	3	P 1	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-
1	-156	1-2 A T 9	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	内面ヨグ	
1	-157	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-158	1-2 A T 11	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-159	1-2 A T 8	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-160	1-2 A T 9	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-161	1-2 A T 6	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-162	1-2 A T 8	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-163	1-2 A T 7	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	外面スヌ	
1	-164	1-2	F 2	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	外見ヨグ	
1	-165	3	A 4	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	白色化粧土	
1	-166	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-167	3	A 4	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-168	1-2 A T 8	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	外面ヨグ	
1	-169	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-170	1-2 A T 8	H	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-171	3	B 7	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-172	3	B 4	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-173	3	B 7	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-174	3	B 8	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-175	1-2 A T 12	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	外見スヌ	
1	-176	3	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	ベンガラ	
1	-177	1-2	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-178	3	B 7	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-179	3	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-180	3	B 7	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-181	3	-	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	
1	-182	1-2 A T 11	I	前縁文	深鉢	口縫線・施墨・キサミ、三角形削尖、内面: ナデ、施土: 硬質	-	

第8表 トレンチ出土土器観察表(4)

番号	次元直角・ソリ	位	種別	器種	調査・文様・地文・器面調整・施土など	炭化物・顕微等
19-183	3	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
19-184	12	-	帆織文	縫針	体部上半 三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:薄荷色針合色	-
19-185	B7	-	帆織文	縫針	体部上半 三角形刺突、内面:ミガキ、胎土:硬質	外表面スス 内面コグ
19-186	12	C T 4	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	白色化粧土
19-187	12	A T 9	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
19-188	12	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
19-189	12	B T	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:被施縫針合色	-
19-190	8	B 8	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
19-191	8	B 6	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	内面コグ 白色化粧土
19-192	2	A T 9	II	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
19-193	2	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
19-194	-	B 9	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内形刺突、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
19-195	-	A T 9	II	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、円形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-196	12	A T 8	II	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
20-197	12	A T 9	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、円形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	外表面コグ
20-198	12	A T 9	II	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ミガキ、胎土:硬質	-
20-199	2	A T 10	II	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-200	2	A T 11	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-201	3	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-202	2	A T 11	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内形刺突、内面:ミガキ、胎土:軟質	外表面スス
20-203	3	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:硬質	-
20-204	2	B T 1	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-205	2	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、円形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	白色化粧土
20-206	3	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:硬質	-
20-207	2	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、円形刺突、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
20-208	2	A T 9	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
20-209	2	A T 8	II	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
20-210	3	B 6	-	帆織文	体部下半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:硬質	外内面スス
20-211	2	A T 8	II	帆織文	体部下半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:軟質	-
20-212	2	A T 9	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-213	3	B 7	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
20-214	2	A T 10	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-215	12	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-216	2	A T 11	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	白色化粧土 内面コグ
20-217	2	正字	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-218	12	A T 8	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
20-219	2	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
20-220	12	A T 4	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-221	12	A T 6	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:硬質	外表面スス
20-222	12	A T 5	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-223	2	B 7	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ミガキ、胎土:軟質	-
20-224	3	C 2	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、三角形刺突、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-225	2	-	帆織文	縫針	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-226	2	A T 8	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	-
20-227	2	A T 4	I	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	外表面スス
20-228	3	F 1	-	帆織文	体部上半 被施縫+帯織文、内面:ナゲ、胎土:硬質	-

第9表 トレンチ出土土器観察表(5)

埋因	文書記載・ルーツ	位置	種別	特徴	表面	文様・文様・地文・構面・裏面	施土など	皮化物・顔料等
20-229	B 6	-	腕輪文	体部上半: 喜馬越・帝國文、内面: ミガキ、船土: 硬質				-
20-230	-2 AT 5	I	腕輪文	体部上半: 喜馬越・帝國文、内面: ナデ、船土: 硬質				外内面スス
20-231	-2 AT 8	I	腕輪文	体部上半: 喜馬越・帝國文、体部下半: 布滿文、内面: ミガキ・ナデ、船土: 硬質				外面スス
20-232	A 2	-	腕輪文	体部上半: 喜馬越・帝國文、体部下半: 布滿文、内面: ミガキ、船土: 硬質				外削スス
20-233	B A 1	-	腕輪文	体部下半: 布滿文、内面: ミガキ、船土: 硬質				内面ヨグ
20-234	-2	-	腕輪文	体部下半: 布滿文、内面: ナデ、船土: 硬質				-
20-235	-2	-	腕輪文	体部上半: 喜馬越・布滿文、体部下半: 布滿文、内面: ナデ、船土: 硬質				-
20-236	-2 AT 7	I	腕輪文	体部上半: 喜馬越・布滿文、体部下半: 布滿文、底部: ナデ、内面: ミガキ・ナデ、船土: 硬質				外面スス
20-237	-2	-	腕輪文	体部下半: 喜馬越・布滿文、底部: ナデ、内面: ナデ、船土: 硬質				-
20-238	-2 AT 8	I	腕輪文	体部下半: 布滿文、底部: ナデ、内面: ナデ、船土: 硬質				-
21-205	B A 8	-	腕輪文	体部下半: 布滿文、内面: ナデ、船土: 硬質				-
21-240	-	-	土師器	腹部: ハケメト・ラミガキ、内面: ヘラナデ				-
21-241	-2 CT 4	D	土師器	腹部: ヘラナデ・イヌヘラミガキ、内面: ナデ				外内面スス
21-242	-2 BT 2	I	土師器	腹部: ヘラナデ・ハラナデテクゼリ・ヘラミガキ、内面: ヘラナデ+ヘラミガキ				外面スス
21-243	-2 AT 4	I	土師器	腹部: ハケメト、内面: ヘラナデ+ヘラミガキ				外面スス
21-244	-2	-	土師器	口縁部: ヘラミガキ、内面: ハケメト				-
21-245	B D 2	-	土師器	腹部: ヘラミガキ、内面: ナデ+ヘラミガキ、船土: ウンモ含む				内面朱
21-246	B 4	-	土師器	腹部: ナナズ、内面: ヘラミガキ				外内面朱
21-247	-	-	土師器	口縁部: ハマキ・ヨコナデ				外面スス
21-248	-	-	土師器	体部上半: ハマ・内面: ナデ				内面朱
21-249	-2 CT 3	H	土師器	口縁部: ヨコナデ+ヘラミガキ、内面: ヘラミガキ				外内面朱
21-250	-	-	土師器	腹部: ヘラミガキ、内面: ヘラミガキ				-
21-251	-	-	土師器	口縁部: ヘラミガキ、内面: ナデ				-
21-252	-	-	土師器	口縁部: ヘラミガキ、内面: ナデ				-
21-253	B F 2	-	土師器	口縁部: ヨコナデ+ヘラミガキ、内面: ヘラミガキ				-
21-264	-2 BT 4	H	土師器	口縁部: ナデ+ヘラミガキ、内面: ヨコナデ+ヘラミガキ				-
21-265	-2	-	土師器	口縁部: ヨコナデ+ヘラミガキ、内面: ヨコナデ+ヘラミガキ、船土: ウンモ含む				外内面朱
21-266	-2 AT 9	I	土師器	口縁部: ヨコナデ・ラミガキ、内面: ヨコナデ				-
21-257	-	-	土師器	口縁部: ナデ+ヘラミガキ、内面: ナデ、船土: ウンモ含む				内面朱
21-258	C 1	-	土師器	口縁部: ヨコナデ+ヘラミガキ、内面: ヨコナデ+ヘラミガキ				-
21-259	-2	-	土師器	口縁部: ヨコナデ+ヘラミガキ、内面: ハケメト+ヨコナデ				-
21-260	G	-	土師器	口縁部: ヘラナデ、内面: ヘラミガキ				内面スス
21-261	B D 9	-	土師器	口縁部: ヨコナデ、内面: ヨコナデ				-
22-262	■	-	土師器	口縁部: ナデ、内面: ヨコナデ				外内面スス
22-263	F 1	-	土師器	口縁部: ヨコナデ+ヘラナデ、内面: ヨコナデ				外面スス
22-264	■	-	土師器	口縁部: ラミ・ラミガキ、内面: ナデ+ヘラミガキ				-
22-265	-2	-	土師器	口縁部: ヘラナデ・ヨコナデ、内面: ヨコナデ				-
22-266	D 9	-	土師器	口縁部: 有致・ヘラナデ+ヘラミガキ、内面: ヘラナデ				外面朱
22-267	D 9	-	土師器	口縁部: 有致・ヘラナデ・頭部: ヘラミガキ、内面: ヘラミガキ				外面朱
22-268	-2	-	土師器	口縁部: 有致・ヘラナデ、内面: ヨコナデ、船土: ウンモ含む				-
22-269	-2 BT 1	I	土師器	口縁部: ヘケメト+ヨコナデ、内面: ヨコナデ				外面朱
22-270	A 6	-	土師器	底部: ヘラミガキ、内面: ナデ				-
22-271	B 6	-	土師器	底部: ヘラミガキ、内面: ヘラナデ+ヘラミガキ、船土: ウンモ含む				外面朱

第10表 トレンチ出土土器観察表(6)

探区	次回発掘年・ルーツ	面位	層別	断面	鉱物・文様・地文・器皿調査・胎土など	炭化物・顕料等
23 - 1 表層	-	面積文	柱口付	口唇: 破状?・キサミ、口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・三角形刺突・体部上: 袋隆縫・帯縫文、内面: ナデ、胎土: 硬質	-	
23 - 2 表層	-	統縫文	柱口付	口唇: 三角形刺突・キサミ・内面: ナデ、胎土: 硬質	-	
23 - 3 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状・キサミ、口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・体部上半: 敷隆縫・帯縫文、内面: ナデ、胎土: 硬質	-	
23 - 4 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・円形刺突・体部上半: 敷隆縫・帯縫文・円形刺突・内面: ナデ	-	
23 - 5 表層	-	統縫文	深鉢	胎土: 破質	-	
23 - 6 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状?・キサミ、口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・円形刺突・体部上半: 敷隆縫・帯縫文・円形刺突、内面: ナデ、ミガキ、胎土: 破質	外面スズ	
23 - 7 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状?・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・円形刺突・体部下部: 敷隆縫・円形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	-	
23 - 8 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状?・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・円形刺突・体部上半: 敷隆縫・帯縫文・円形刺突、内面: ミガキ、胎土: 破質	-	
23 - 9 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・三角形刺突・体部上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	-	
23 - 10 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状?・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・三角形刺突・体部上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突、内面: ナデ、胎土: 破質	-	
23 - 11 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・体部上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突・内面: ナデ、胎土: 硬質	外内面ヨグ	
23 - 12 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・三角形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	外内面スズ	
23 - 13 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・体部上半: 敷隆縫・円形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	外内面ヨグ・外面スズ	
23 - 14 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状?・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・体部上半: 敷隆縫・帯縫文・円形刺突・内面: ナデ、胎土: 硬質	白色花崗石	
23 - 15 表層	-	統縫文	柱口付	口唇: 破状・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・体部上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	赤色花崗石	
23 - 16 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状?・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・内面: ナデ、胎土: 硬質	白色花崗石	
23 - 17 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・体部上半: 敷隆縫・円形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	白色花崗石	
23 - 18 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状?・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・体部上半: 三角形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	-	
23 - 19 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 破状?・キサミ・口縁部: 陶縫2本平行・キサミ・体部上半: 敷隆縫・帯縫文、内面: ナデ、胎土: 硬質	外内面ヨグ	
23 - 20 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・円形刺突、内面: ナデ、胎土: 破質	-	
23 - 21 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突、内面: ナデ、胎土: 破質	-	
23 - 22 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・円形刺突、内面: ナデ、胎土: 破質	-	
23 - 23 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・円形刺突、内面: ナデ、胎土: 破質	-	
23 - 24 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・円形刺突、内面: ナデ、胎土: 破質	-	
23 - 25 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	-	
23 - 26 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	-	
23 - 27 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突、内面: ナデ、胎土: 硬質	白色花崗石	
23 - 28 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突、内面: ナデ、ミガキ、胎土: 硬質	外内面ヨグ	
23 - 29 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 上半: 敷隆縫・帯縫文・三角形刺突、内面: ナデ、ミガキ、胎土: 破質	-	
23 - 30 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 下半: 敷隆縫・帯縫文、内面: ナデ、胎土: 破質	-	
23 - 31 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 下半: 敷隆縫・帯縫文、内面: ナデ、胎土: 破質	-	
23 - 32 表層	-	統縫文	深鉢	口唇: 下半: 敷隆縫・帯縫文、内面: ナデ、胎土: 破質	-	
24 - 33 表層	-	余生	深鉢	口唇: 破状?・円形刺突・帯縫文、内面: ナデ	-	
24 - 34 表層	-	余生	深鉢	口唇: 破状?・円形刺突・帯縫文、内面: ナデ	-	
24 - 35 表層	-	余生	深鉢	口縁部: 余生文(2本沈縫)、内面: ナデ	-	
24 - 36 表層	-	余生	深鉢	体部上半: 深状沈縫文?・内面: ナデ	-	
24 - 37 表層	-	余生	深鉢	体部上半: 深状沈縫文?・内面: ナデ	-	
24 - 38 表層	-	余生	深鉢	体部上半: 深状沈縫文?・内面: ナデ	-	
24 - 39 表層	-	余生	深鉢	体部上半: 深状沈縫文?・内面: ナデ	外面スズ	

第11表 採集土器観察表(1)

番号	灰陶直線・レバ層位	種別	器種	装飾・文様・地文・帶面調整・刷毛など	炭化物・顔料等
24-40	表層	-	盆生	底部上半:波状沈線文?、内面:ナデ 体部上半:沈線文、内面:ナデ	-
24-41	表層	-	盆生	体部上半:沈線文、内面:ナデ	-
24-42	表層	-	盆生	体部上半:沈線文、内面:ナデ	-
24-43	表層	-	盆生	体部上半:波状沈線文?、内面:ナデ	-
24-44	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-45	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-46	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-47	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-48	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-49	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-50	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-51	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-52	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-53	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-54	表層	-	盆生	体部:附加条溝文、内面:ナデ	-
24-55	表層	-	土師器	外筋:ヘラミガキ、内面:ヘラミガキ	外内面朱
24-56	表層	-	土師器	底部:ハケヌ	-
24-57	表層	-	土師器	口縁:ヨコナデ+タテヘラミガキ、内面:ヘラミガキ	-
24-58	表層	-	土師器	口縁:ヨコナデ、内面:ヨコナデ	外内面朱
24-59	表層	-	土師器	口縁:ヘラナデ、内面:ヘラミガキ	外内面朱
24-60	表層	-	土師器	口縁:ヘラナデ+ヨコナデ、内面:ハケヌ+ヨコナデ、粘土:ウンモ苔む	-
24-61	表層	-	土師器	底部:陰線+キザミ、体部上半:ハケヌ+ヨコナデ、内面:ハケヌ+ヨコナデ	-
24-62	表層	-	土師器	ハケヌ+ヨコナデ+楕線+キザミ、内面:ハケヌ	外面朱
24-63	表層	-	土師器	ヘラミガキ、内面:ヨコナデ	-

第12表 採集土器観察表(2)

## V 盛岡周辺の関連遺跡

近年、岩手県内においても、終末期の弥生土器や続縄文土器、古式土師器が出土したり、関連遺構が検出される例が増えているが、ここでは北上川上流域である盛岡周辺（西根町、岩手町、玉山村、滝沢村、零石町、盛岡市）における該期の遺跡について集成をおこなった（遺跡の番号は、第27図の遺跡分布図と対応する）。なお、盛岡市教育委員会で調査を行った遺跡のうち未報告のものの詳細は後日報告予定であるので、間述する遺物についてのみ一部を図化し掲載した。また、採集遺物についても一部を図化し掲載した。

- 1 幕坪遺跡（西根町寺田字幕坪、高橋・武田1982）  
立地：丘陵の中の沢 遺物：北大I式、弥生終末？ 出土状況：表面採集（高橋昭治）
- 2 上斗内Ⅲ遺跡（西根町寺田字上斗内、（財）岩手県埋蔵文化財センター1984）  
立地：松川支流沿いの丘陵低位段丘 年次・主体：S57（財）県埋文センター 遺構：なし  
遺物：北大I式 出土状況：遺構外
- 3 堤切遺跡（西根町平館字堤切、斎藤1993） 遺物：後北式？
- 4 御堂鍛音上遺跡（岩手町御堂、岩手町教委1995） 遺物：後北C2-D式 山：状況：表面採集（高橋昭治）
- 5 小山沢Ⅰ遺跡（岩手町小山沢、高橋・武田1982） 遺物：後北C2-D式？
- 6 尾呂部Ⅰ遺跡（岩手町沼宮内字尾呂部、草間1976） 遺物：弥生終末？
- 7 大坊Ⅱ遺跡（岩手町大坊、岩手県立博物館1982） 遺物：赤穴式 出土状況：表面採集（高橋昭治）
- 8 大安良遺跡（岩手町沼宮内、草間1976） 遺物：弥生終末？
- 9 苗代沢C遺跡（岩手町苗代沢、高橋1965、佐藤1976、高橋・武田1982）  
立地：北上川北岸の河岸段丘 遺物：後北C2-D式 出土状況：表面採集（高橋昭治）
- 10 犬袋遺跡（岩手町犬袋、高橋・武田1982）  
立地：北上川の河岸段丘 遺物：後北C2-D式 山：状況：表面採集（高橋昭治）
- 11 霊岡遺跡（岩手町一方井字久保、草間1976） 遺物：弥生終末？
- 12 仏沢遺跡（岩手町黒石字仏沢、草間1976、斎藤1993） 遺物：赤穴式
- 13 大股開拓遺跡（岩手町一方井18地割、岩手町教育委員会1996）  
立地：七時雨山山麓丘陵地 年次・主体：H7岩手町教委 遺構：なし 遺物：赤穴式  
出土状況：表土、表面採集（高橋昭治）
- 14 黒内開拓遺跡（岩手町一方井字黒内、草間1976） 遺物：弥生終末？
- 15 仙波堤遺跡（岩手町久保字沢口、草間1976） 遺物：弥生終末？
- 16 稲荷山遺跡（岩手町浮島、高橋・武田1982）  
立地：浮島古墳群北の丘陵突端 遺物：後北C2-D式 出土状況：表面採集（高橋昭治）
- 17 新道平遺跡（岩手町川上、草間1976） 年次・主体：S49岩手人学 遺物：赤穴式

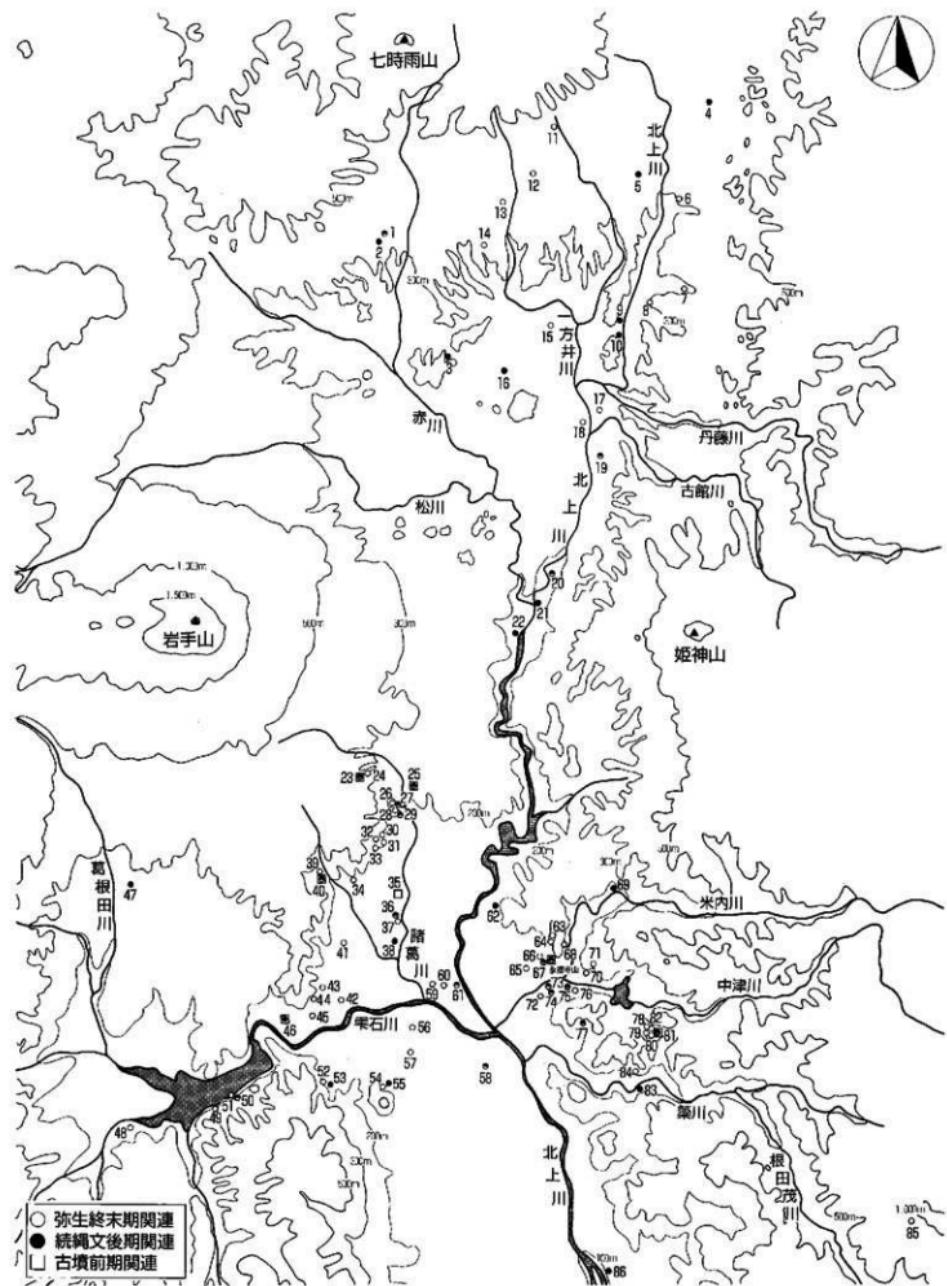
- 18 川口Ⅱ（川口松原）遺跡（岩手町子指、草間1976） 遺物 弥生終末？
- 19 川口Ⅰ遺跡（岩手町川口12地割二ツ森、（財）岩手県埋蔵文化財センター1984）  
立地：北上川東岸の低位段丘 年次・主体：S57.58（財）県埋文センター 遺構：土壙墓？  
遺物：赤穴式、後北C2-D式 出土状況：遺構外
- 20 芦田遺跡（玉山村芦田、吉田・武田1970、高橋・武田1982、第37回）  
立地：北上川東岸の段丘端部 遺物：後北C2-D式 出土状況：表面採集（武田良夫）
- 21 武道遺跡（玉山村武道、高橋・武田1982、第37回）  
立地：北上川東岸の段丘端部 遺物：赤穴式、後北C2-D式 出土状況：表面採集（武田良夫ほか）
- 22 下田八幡館（牡丹野）遺跡（玉山村淡浜牡丹野、吉田・武田1970、佐藤1976）  
立地：北上川西岸の台地 遺物：後北C2 D式 出土状況：表面採集（武田良夫）
- 23 大石渡V遺跡（滝沢村滝沢字大石渡、滝沢村教育委員会1995、岩手考古学会1996）  
立地：諸葛川支流に挟まれた山地緩斜面 年次・主体：H6.7滝沢村教委 遺構：焼土  
遺物：赤穴式、後北C2 D式、塚釜式、ラウンドスクレイパー、黒曜石  
出土状況：焼上内およびその周辺、遺構外
- 24 大石渡Ⅲ遺跡（滝沢村滝沢字大石渡、滝沢村教育委員会1995） 遺物：弥生終末？
- 25 大石渡遺跡（滝沢村滝沢字上中村、大石渡、滝沢村教育委員会1993）  
立地：木賊川と諸葛川に開析された緩斜面 年次・主体：H4滝沢村教委 遺構：土壙墓？  
遺物 赤穴式、後北C2 D式、ラウンドスクレイパー、黒曜石、管玉 出土状況：上層埋土上ほか
- 26 湯舟沢Ⅱ遺跡（滝沢村滝沢字湯舟沢、滝沢村教育委員会1991ほか滝沢村教委の御教小）  
立地：市兵衛川沿いの低位段丘 年次・主体：H2滝沢村教委 遺構：なし 遺物：天王山式  
出土状況：遺構外
- 27 湯舟沢Ⅲ遺跡（滝沢村滝沢字湯舟沢、滝沢村教育委員会1986）  
立地：市兵衛川沿いの低位段丘 年次・主体：S57.58滝沢村教委、（財）県埋文センター  
遺構：住居跡 遺物：天王山式、後北C2-D式 出土状況：住居埋土、遺構外
- 28 湯舟沢Ⅳ遺跡（滝沢村滝沢字湯舟沢、滝沢村教育委員会1986）  
立地：市兵衛川沿いの低位段丘 年次・主体：S57.58滝沢村教委、（財）県埋文センター  
遺構：なし 遺物：天王山式 出土状況：遺構外
- 29 湯舟沢Ⅹ遺跡（滝沢村滝沢字湯舟沢、滝沢村教育委員会1986）  
立地：市兵衛川沿いの低位段丘 年次・主体：S57.58滝沢村教委、（財）県埋文センター  
遺構：なし 遺物：天王山式、後北C2-D式 出土状況：遺構外
- 30 湯舟沢XIV遺跡（滝沢村滝沢字湯舟沢、滝沢村教育委員会1990）  
立地：市兵衛川沿いの低位段丘 遺物：天王山式 出土状況：表面採集（滝沢村教委）
- 31 湯舟沢XX遺跡（滝沢村滝沢字湯舟沢、滝沢村教育委員会1995）  
立地：市兵衛川沿いの低位段丘 遺物：弥生終末？ 出土状況：表面採集（滝沢村教委）
- 32 けやきの平団地遺跡（滝沢村滝沢字湯舟沢、滝沢村教育委員会1995） 遺物：弥生終末？
- 33 外山Ⅳ遺跡（滝沢村滝沢字外山、滝沢村教育委員会1991）  
立地：諸葛川支流に開析された南東緩斜面 遺物：赤穴式 出土状況：表面採集（滝沢村教委）
- 34 狐洞山遺跡（滝沢村滝沢字平蔵沢、滝沢村教育委員会1995） 遺物：弥生終末？

- 35 耳取遺跡（滝沢村滝沢字耳取、滝沢村教育委員会1986）  
立地：諸葛川と支流による谷底平野に接する緩斜面 年次・主体：S59.60(1次)滝沢村教委  
遺構：なし 遺物：埴輪式 出土状況：遺構外
- 36 室小路15遺跡（滝沢村滝沢字室小路、滝沢村教委の御教示）  
年次・主体：H8滝沢村教委 遺物：赤穴式、後北C2-D式 出土状況：遺構外
- 37 室小路10遺跡（滝沢村滝沢字室小路、滝沢村教育委員会1995） 遺物：弥生終末？
- 38 高柳遺跡（滝沢村鶴洞字高柳はか、滝沢村教育委員会1987）  
立地：諸葛川西岸の低位段丘 年次・主体：S60.62(2,3次)滝沢村教委 遺構：なし  
遺物：北大III式、黒曜石 出土状況：古墳時代の遺構埋土、遺構外
- 39 仏沢II遺跡（滝沢村鶴洞字鬼越、滝沢村教育委員会1995） 遺物：弥生終末？
- 40 仏沢III遺跡（滝沢村鶴洞字鬼越、滝沢村教育委員会1987,1993,高橋與右衛門・高橋信雄1991）  
立地：沢沿いに形成された緩斜面 年次・主体：S61.II2滝沢村教委 遺構：土壙墓？  
遺物：赤穴式、後北C2-D式、埴輪式、ラウンドスクレイバー、黒曜石  
山上状況：包含層、土壤埋土
- 41 御仮屋山館遺跡（滝沢村鶴洞字稻荷、滝沢村教委の御教示）  
年次・主体：H8(試掘)滝沢村教委 遺物：赤穴式 出土状況：試掘トレンチ
- 42 大釜館遺跡（滝沢村人釜字外館、滝沢村教委の御教示）  
年次・主体：H15滝沢村教委 遺物：赤穴式 出土状況：中世の遺構埋土ほか
- 43 参郷の森遺跡（滝沢村大沢字参郷の森、武田1978） 遺物：赤穴式 出土状況：表面採集（武田良夫）
- 44 白山遺跡（滝沢村大釜字白山、滝沢村教育委員会1995） 遺物：弥生終末？
- 45 八幡宮遺跡（滝沢村人釜字八幡、滝沢村教育委員会1995） 遺物：弥生終末？
- 46 仁沢源IV遺跡（滝沢村大笠字仁沢瀬、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993）  
立地：零石川北岸の小岩井台地縁辺 年次・主体：H3(財)県埋文センター 遺構：土壙  
遺物：後北C2-D式、北大式、住社式、ラウンドスクレイバー 出土状況：土壤埋土ほか
- 47 早坂森遺跡（下石町西山、高橋・武田1982）  
遺物：丘陵末端の西に開く沢 遺物：後北C2-D式 出土状況：表面採集（武田良夫）
- 48 伝久遺跡（零石町安庭字伝久、(財)岩手県埋蔵文化財センター1981）  
立地：零石川支流南岸の洪積低位段丘 年次・主体：S49県埋文センター 遺構：なし  
遺物：赤穴式 山上状況：遺構外
- 49 上野遺跡（盛岡市紫字上野、(財)岩手県埋蔵文化財センター1980）  
立地：零石川南岸の尾根状台地先端部 年次・主体：S52県埋文センター 遺構：なし  
遺物：赤穴式 出土状況：包含層内
- 50 繫V遺跡（盛岡市繫字船市、盛岡市教育委員会1995）  
立地：零石川南岸の低位段丘 年次・主体：H6(18次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：赤穴式、後北C2-D式 出土状況：包含層上部
- 51 繫VI遺跡（盛岡市紫字舟内沢、(財)岩手県埋蔵文化財センター1980）  
立地：零石川南岸の山地末端部 年次・主体：S52県埋文センター 遺構：土壤  
遺物：天干山式 出土状況：土壤埋土内

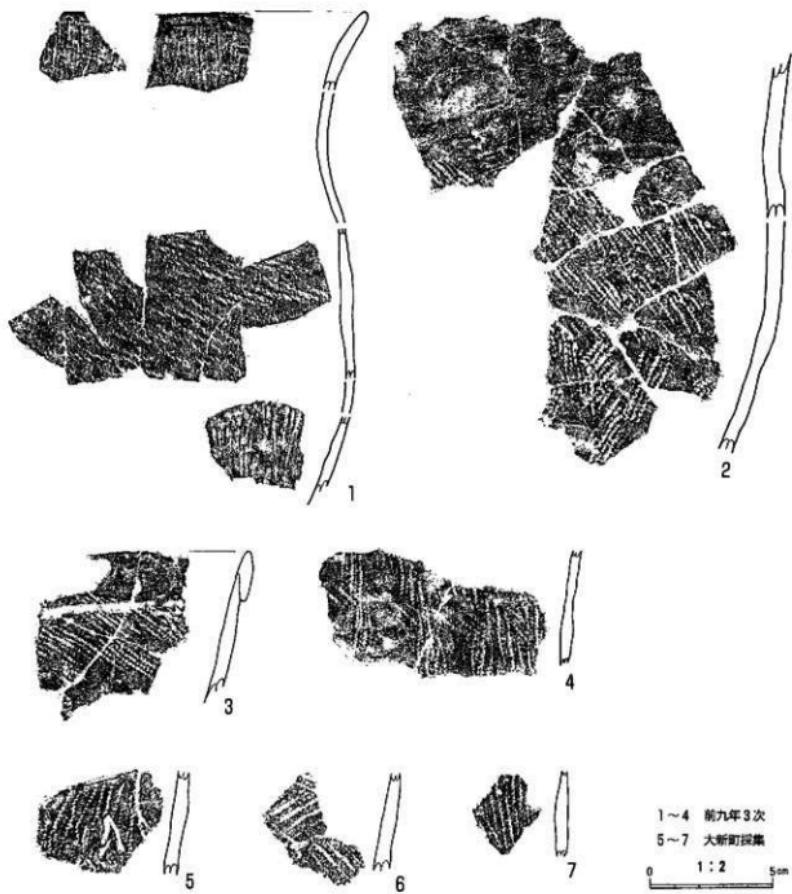
- 52 上猪去遺跡（盛岡市猪去上平、盛岡市教育委員会1991）  
立地：半石川南岸の中位段丘縁辺 年次・主体：H2(1次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：赤穴式 出土状況：平安以降の遺構埋土および包含層
- 53 猪去館遺跡（盛岡市猪去上平、盛岡市教育委員会1989）  
立地：半石川南岸の中位段丘縁辺 年次・主体：S63(1次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：後北C2-D式 出土状況：平安の遺構検査面
- 54 才三坂遺跡（盛岡市上鹿妻蟹沢、盛岡市中央公民館1972）  
立地：飯岡山北側斜面 年次・主体：S38 岩手大学・盛岡市公民館 遺構：なし  
遺物：赤穴式 出土状況：包含層？
- 55 月見山（月山）遺跡（盛岡市上敷岡第23地割山中、吉田・武田1970、第37回）  
立地：飯岡山北東裾部 遺物：後北C2-D式 出土状況：表面採集（武田良夫）
- 56 八卦遺跡（盛岡市中太田八卦、第31回）  
立地：半石川南岸低位沖積段丘 年次・主体：S63,H2(3.4.5次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：赤穴式 出土状況：遺構検出面および表土
- 57 志波城跡（盛岡市下太田方八丁ほか、盛岡市教育委員会1986）  
立地：半石川南岸低位沖積段丘 年次・主体：S55.58(16.30次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：赤穴式 出土状況：遺構外
- 58 台太郎遺跡（盛岡市向中野台太郎、盛岡市教育委員会1987、第30回）  
立地：半石川南岸の低位沖積段丘 年次・主体：S60(3.4次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：赤穴式、後北C2-D式 出土状況：奈良・平安の遺構埋土および表土
- 59 大新町遺跡（盛岡市大新町・南青山町、第28回）  
立地：滝沢台地の南西縁辺 遺物：赤穴式、アメリカ式石器 山土状況：表面採集（盛岡市教委）
- 60 前九年遺跡（盛岡市前九年一・二丁目・大新町、第28回）  
立地：滝沢台地の南縁辺 年次・主体：H5(3次)盛岡市教委 遺構：溝跡 遺物：赤穴式  
出土状況：溝埋土および包含層上部
- 61 宿田遺跡（盛岡市前九年一・丁目、第29回）  
立地：滝沢台地南縁辺 年次・主体：H2(1次)盛岡市教委 遺構：円形周溝、溝、土塙墓？  
遺物：赤穴式、北大I式、南小泉式、ラウンドスクレイバー、黒曜石  
出土状況：遺構埋土および包含層
- 62 黒石野遺跡（盛岡市黒石野1丁目、盛岡市教育委員会1989、第28回）  
立地：四十四田丘陵西縁辺 年次・主体：H元(1次) 遺構：なし  
遺物：ラウンドスクレイバー、黒曜石 出土状況：トレンチ内
- 63 蔵ノ神遺跡（盛岡市山岸名乗、盛岡市教育委員会1985）  
立地：四十四田丘陵南部の東麓緩斜面 年次・主体：S57(1次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：赤穴式 出土状況：表土および遺物包含層上部
- 64 新茶屋遺跡（盛岡市山岸六丁目、第30回）  
立地：丘陵に開まれた南向きの緩斜面 年次・主体：H7(2次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：赤穴式 出土状況：包含層上部

- 65 銀神沢遺跡（盛岡市山岸銀神沢、武田1978、第32図）  
立地：愛宕山南東縁斜面 遺物：天王山式、赤穴式 出土状況：表面採集（武田良夫）
- 66 蓼前遺跡（盛岡市山岸合間、盛岡市教育委員会1972）  
立地：丘陵南斜面 遺物：天王山式 出土状況：表面採集（盛岡市中央公民館）
- 67 犀牛場遺跡（盛岡市山岸三丁目、吉田・武田1970、佐藤1976、高橋・武田1982）  
立地：永福寺山山西裾部 遺物：後北C2-D式 出土状況：表面採集（武田良夫）
- 68 稲荷社前遺跡（盛岡市下米内人豆門、武田1978）  
立地：米内川西岸の小丘陵斜面 遺物：天王山式、赤穴式 出土状況：表面採集（武田良夫）
- 69 向館遺跡（盛岡市上米内米内沢、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1994）  
立地：米内川北岸の小起伏山地裾部 年次・主体：H4（財）県埋文センター 遺構：なし  
遺物：後北C2-D式 出土状況：遺構外
- 70 一本松遺跡（盛岡市下米内一本松、武田1978、第33-36図）  
立地：一本松沢北の小起伏山地尾根 遺物：赤穴式 出土状況：表面採集（武田良夫、盛岡市教委）
- 71 熊ノ沢遺跡（盛岡市下米内一本松）  
立地：一本松沢北の小起伏山地西斜面 遺物：赤穴式 出土状況：表面採集（盛岡市中央公民館）
- 72 鼻子遺跡（盛岡市東新庄二丁目、盛岡市教育委員会1972）  
立地：岩山西麓南斜面 遺物：天王山式 出土状況：表面採集（盛岡市中央公民館）
- 73 前野遺跡（盛岡市浅岸前野）  
立地：中津川南岸の低位段丘 年次・主体：H8(2次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：赤穴式、後北C2-D式 出土状況：包含層内
- 74 大塚遺跡（盛岡市浅岸大塚、第29図）  
立地：中津川南岸の低位段丘 年次・主体：H5(7次)盛岡市教委 遺構：なし  
遺物：赤穴式、北大I式 出土状況：表土
- 75 柿ノ木平遺跡（盛岡市浅岸柿ノ木平、第29図）  
立地：中津川南岸の中位段丘 年次・主体：H8(10次、試掘)盛岡市教委 遺構：土壙墓？  
遺物：赤穴式、後北C2-D式 出土状況：土壙埋土、包含層内、試掘トレンチ
- 76 向田遺跡（盛岡市浅岸向田、盛岡市教育委員会1972）  
立地：岩山北西裾部 遺物：赤穴式 出土状況：表面採集（盛岡市中央公民館）
- 77 岩山南遺跡（盛岡市東中野人久保、盛岡市教育委員会1986）  
立地：蘿川北岸の山間部にある崖鋸性扇状地 年次・主体：S57-59(1~3次)盛岡市教委  
遺構：なし 遺物：赤穴式、後北C2-D式 出土状況：表土および1次堆積層内
- 78 八木田Ⅰ遺跡（盛岡市新庄上八木田、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995）  
立地：八木田沢による谷底平地縁辺の緩斜面 年次・主体：H3(財)県埋文センター  
遺構：陥し穴？（埋土上部に白色火山灰） 遺物：赤穴式 出土状況：遺構外
- 79 八木田Ⅱ遺跡（盛岡市新庄上八木田、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993）  
立地：八木田沢による谷底平地縁辺の緩斜面 年次・主体：H3(財)県埋文センター  
遺構：陥し穴？（埋土上部に白色火山灰） 遺物：なし

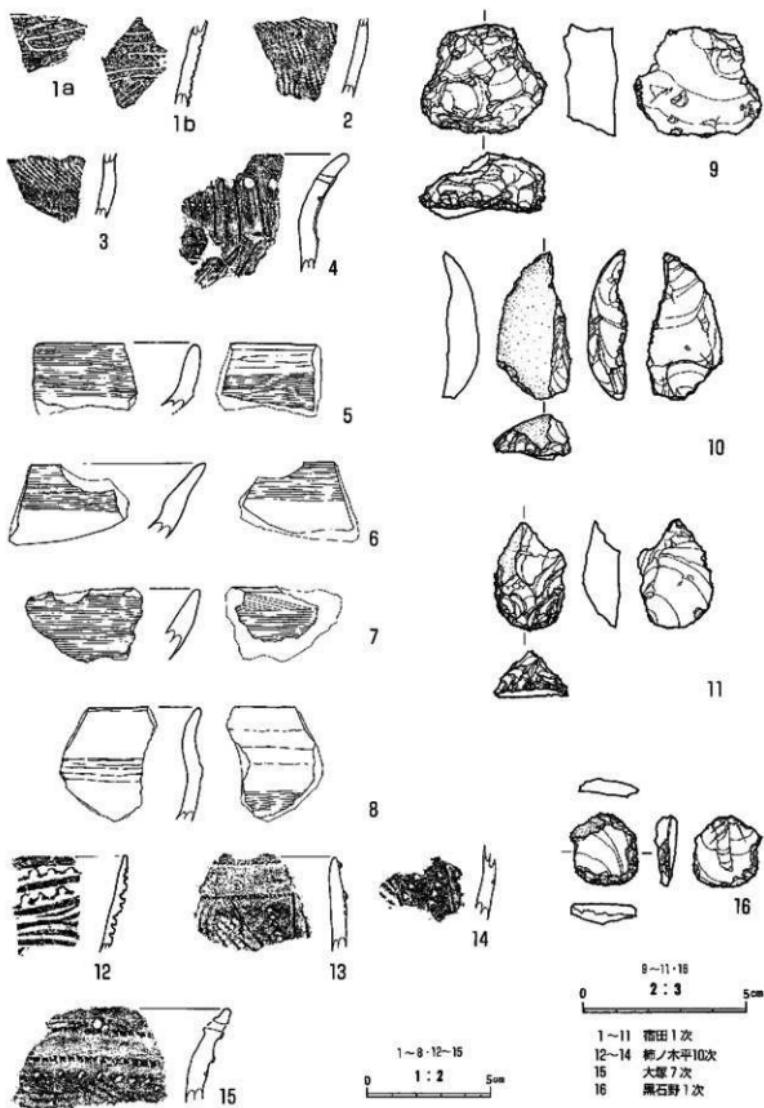
- 80 八木田Ⅲ遺跡（盛岡市新庄上八木田、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992）  
立地：八木田沢による谷底平地縁辺の緩斜面 年次・主体：H2(財)県埋文センター 遺構：なし  
遺物：赤穴式 出土状況：遺構外
- 81 八木田Ⅳ遺跡（盛岡市新庄上八木田、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992）  
立地：八木田沢による谷底平地縁辺の緩斜面 年次・主体：H2(財)県埋文センター  
遺物：赤穴式、後北C2-D式、塩釜式？ 出土状況：平安の遺構検出面、遺構外
- 82 八木田Ⅴ遺跡（盛岡市新庄上八木田、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992）  
立地：八木田沢による谷底平地縁辺の緩斜面 年次・主体：H2(財)県埋文センター 遺構：なし  
遺物：赤穴式 出土状況：遺構外
- 83 川目A遺跡（盛岡市川目第5地割、吉田・武田1970）  
立地：墨川南岸の低位段丘 遺物：後北C2-D式 出土状況：表面採集（武田良夫）
- 84 川目C遺跡（盛岡市川目第6地割、岩手考古学会1996）  
立地：墨川北岸の舌状になった高位段丘 年次・主体：H6.7(1.2次)盛岡市教委  
遺構：陥し穴？（埋土上部に白色火山灰） 遺物：赤穴式 出土状況：陥し穴埋土最下層
- 85 手代木沢岩陰遺跡（盛岡市砂子沢手代木沢、神原1987）  
立地：桐ノ木沢支流の山林内 遺物：赤穴式 出土状況：表面採集（盛岡市教委）
- 86 乙部方八丁遺跡（盛岡市乙部第32地割新田、吉田・武田1970） 遺物：後北式？



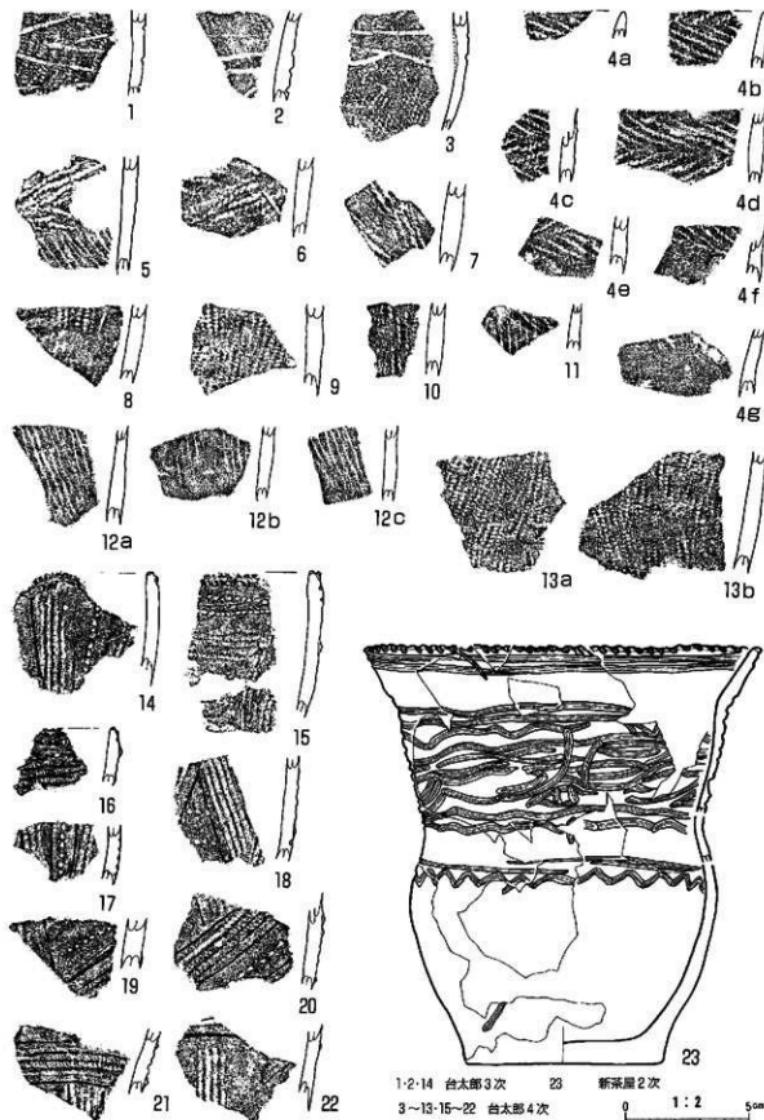
第27図 盛岡周辺の関連遺跡分布図 (1:100,000)



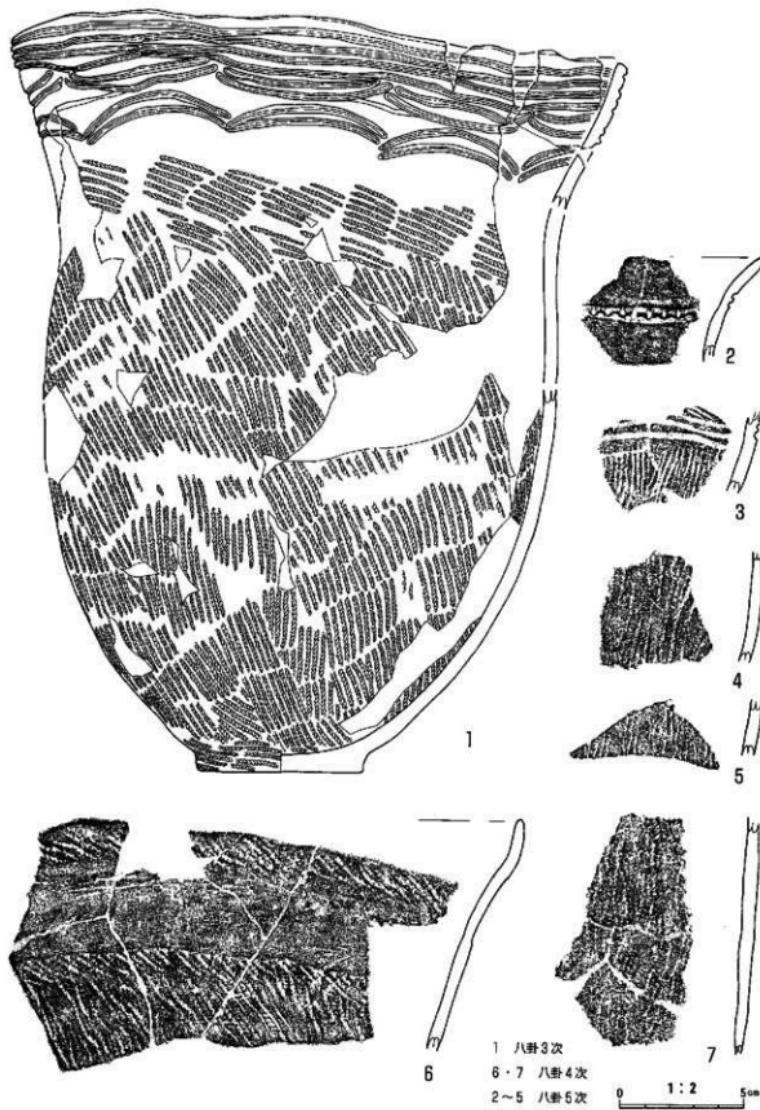
第28図 前九年遺跡・大新町遺跡出土遺物



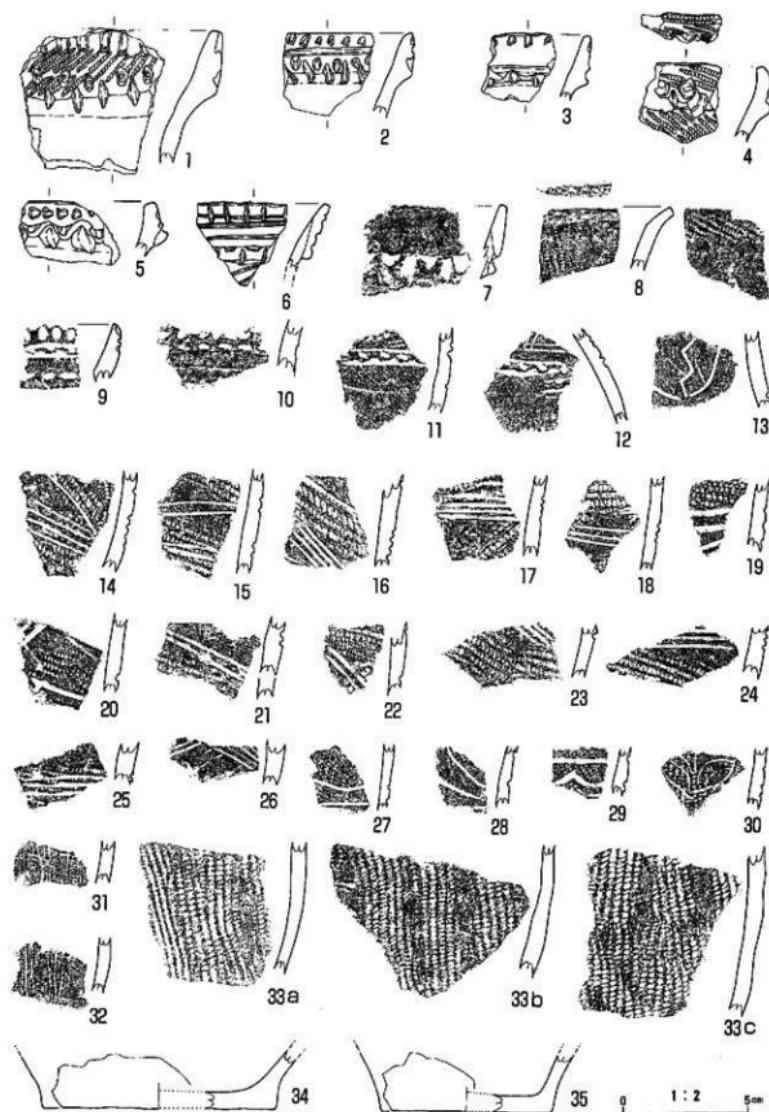
第29図 宿田遺跡・柿ノ木平遺跡・大塚遺跡・黒石野遺跡出土遺物



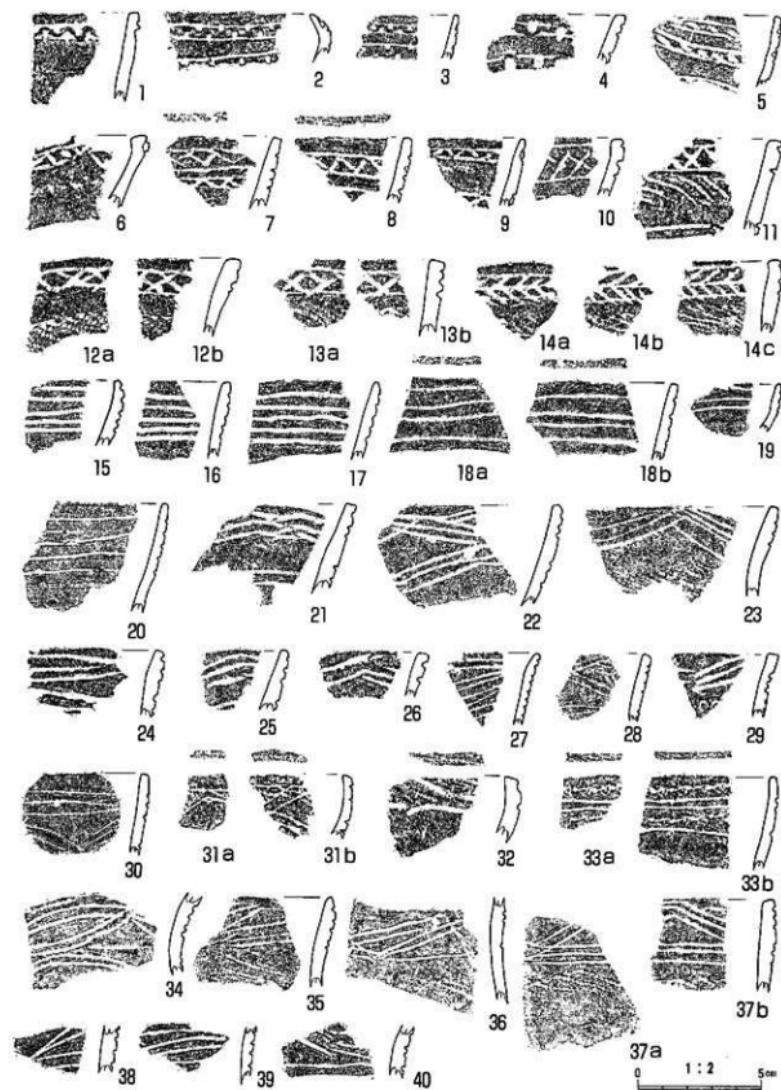
第30図 台太郎遺跡・新茶屋遺跡出土遺物



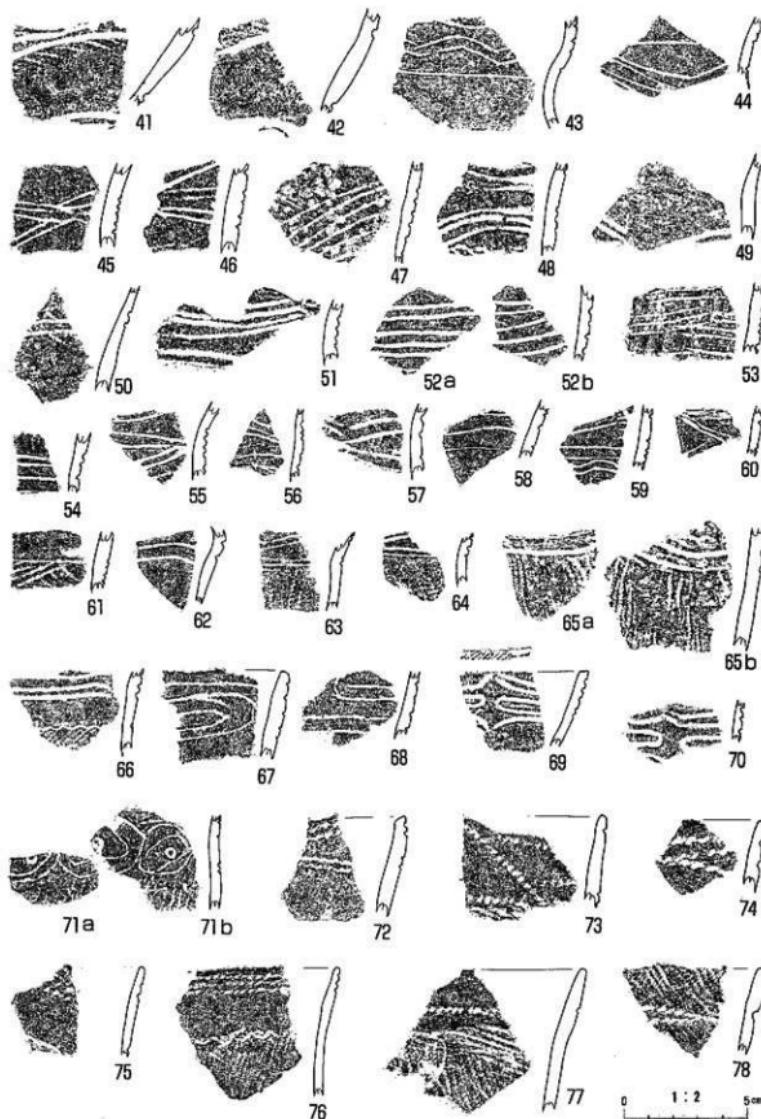
第31図 八卦遺跡出土遺物



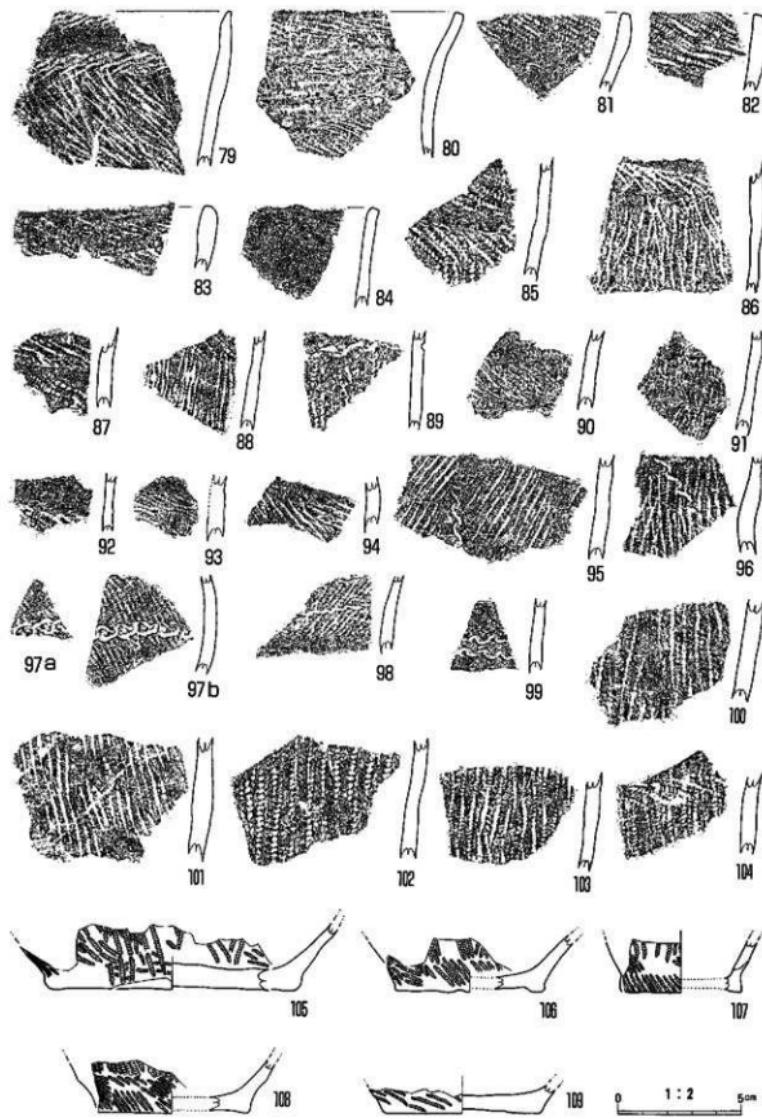
第32図 銭神沢遺跡採集遺物



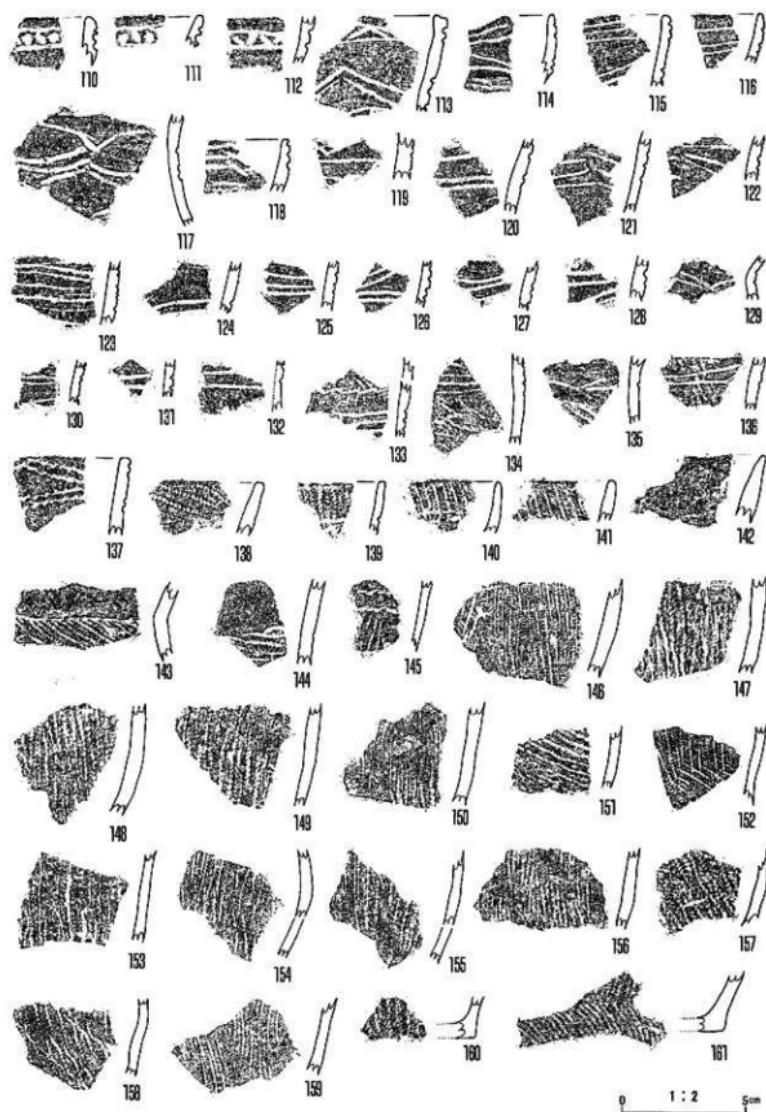
第33図 一本松遺跡採集遺物 (1)



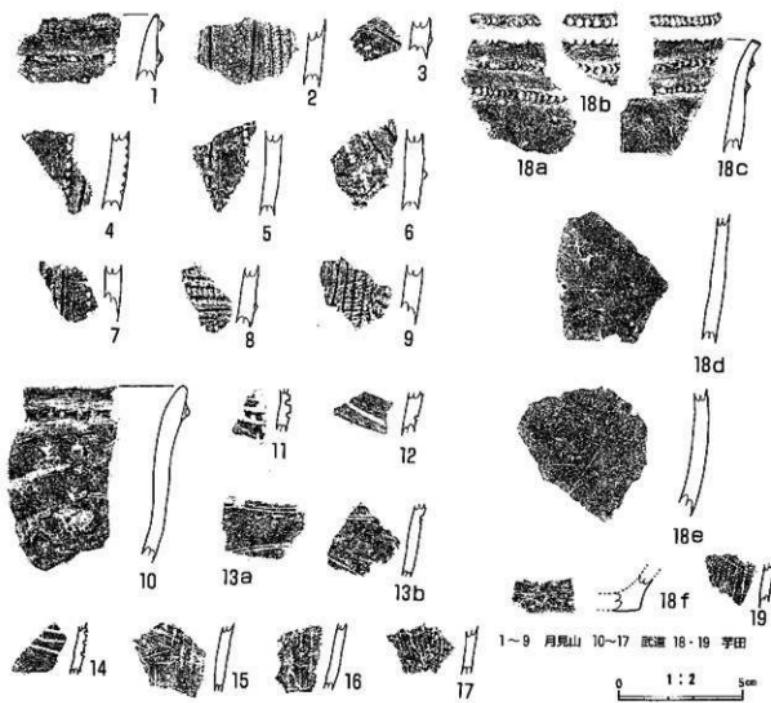
第34図 一本松遺跡採集遺物 (2)



第35図 一本松遺跡採集遺物 (3)



第36図 一本松遺跡探集遺物 (4)



第37図 月見山遺跡・武道遺跡・芋田遺跡探集遺物

## VI 遺構・遺物の検討

### 1. 土壙墓

#### 永福寺山遺跡検出の土壙墓

永福寺山遺跡で確認された土壙墓は、丘陵の頂部東半部において検出されているが、部分的な調査のため遺跡全体での土壙墓の広がりは不明である。土壙墓の構築時期については、後述するようにⅢ・Ⅳ群上器（後北C2-D式期中段階・埴釜式期新段階）の時期と考えられる。以下では比較的詳細のわかる上壙墓1～5について検討を行う。

#### 形態

土壙墓1～5の平面形はすべて楕円形であり、上壙墓1～3の底面には長軸両端に小ピット、土壙墓4・5の底面には長軸端に袋状ピットと小ピットが検出されている。また規模も類似しており、長軸の上端が1.34～1.61m、下端が1.14～1.54m、短軸の上端が1.12～1.22m、下端が0.91～1.10m、深さが0.61～0.84mとなっている。

#### 長軸線

土壙墓の長軸線を底面長軸両端に掘り込まれる一対のピット中央を通す線として当時の図面から計測すると、土壙墓1～5の長軸線の傾きの平均はN36°Eを示し、各上壙墓ではN18°～58°Eと40°の開きがあるが、基本的には北東～南西方向に長軸線を求めて構築されているようである。計測値が近い土壙墓1・3の長軸線の傾きの平均はN20°E、同じく計測値が近い土壙墓2・4の平均はN33.5°Eを示しており、13.5°の差が認められる。また、土壙墓5の長軸線の傾きはN58°Eを示し、上壙墓1～4と比べやや東にあれている。

#### 配図

土壙墓1～5は、北西～南東方向に並列しているが、土壙墓2・3が重複していること、また土壙墓の長軸線の傾きの差から土壙墓1・3、土壙墓2・4という2基・1対の単位が考えられ、調査当時に土壙墓2が土壙墓3より新しいと認識されていることから、土壙墓2・4→土壙墓1・3という構築の時間差が想定される。対となる土壙墓の長軸線間の距離は、土壙墓1・3間が3.55m、土壙墓2・4間が3.32mと近似した数値となっている。

#### ピット群

これら土壙墓周囲にはピット群が検出されている。ピットの径は0.15m前後、深さは0.3m前後あり、各上壙墓の周囲に円～半円状に分布している。当時の図面を検討すると、屈曲する断面のものが多いことから、それらは木根など自然の攪乱である可能性があり、ピット群すべてが土壙墓に付随するものとは考えられない。しかし、土壙墓1の北東にあるP3からは鉄鎌が2点出土しており、埋納施設としてのピットも存在するようである。土壙墓の周囲にピット群が検出された例は少なく、北海道余市町天内山遺跡1・7号墳墓の周間に検出された「柱穴状の小孔」（余市町教育委員会1971）の例はあるが、構築時期が十勝茂寄式期と永福寺山遺跡より新しい時期のものである。

## 北海道・東北北部における土壙墓の形態と変遷

次に、北海道・東北北部より検出されている古墳時代の土壙墓の形態について検討を行う。

なお土壙墓形態の諸特徴については下記のように、平面形をA～E、壁の付属施設をa～e、分類底面の付属施設を1～5に分類した。分類名称については各報文の記載を参照しながら再分類したものである。

〈平面形〉	〈壁の付属施設〉	〈底面の付属施設〉
A 円形	a 片壁下端に袋状ピット	1 片端にピット
B 楔円形	b 片壁上端に張出	2 両端にピット
C 隅丸方形	c a・bに合口土器	3 四隅にピット
D 長方形	d 斜位・横位に土器埋設	4 合口土器
E 方形	e なし	5 なし

円形土壙墓の検出例としては、北海道では、札幌市T361遺跡（札幌市教委1987）、苫小牧市タブコブ遺跡（苫小牧市教委1984）、函館市石倉貝塚（（財）北海道埋蔵文化財センター1996）において多く検出されている。T361遺跡・石倉貝塚ではAe5型の土壙墓が主体であり、少數ながらタブコブ遺跡においてはAc1～3・5型の土壙墓が検出されている。この3遺跡では後北C2-D式期古～中段階の遺物が多く出土している。北海道においては、円形の平面形を基調とし、頭部付近に遺物を副葬する墓制が绳文時代晩期以降、十勝茂寄式期まで地域差を持ちながら躍進される傾向にあるようである。

東北北部では後北式期の円形土壙墓はまだ確認されていない。

楕円形土壙墓の検出例としては、北海道では、後北C2-D式期中～新段階に相当する北海道恵庭市柏木B遺跡（恵庭市教委1981）、石狩町ワッカオイ遺跡（石狩町教委1975, 1976）、余市町大川遺跡（余市町教委1994）において、従来のA型ではなくB～E型の土壙墓が主体となっている。ワッカオイ遺跡ではBd1・Bd5・Be1・Be5型など多様な形態の土壙墓が構築される。

東北北部では、永福寺山遺跡検出の土壙墓がBa1型（土壙墓4・5）・Be2型（土壙墓1～3）である。また、秋田県能代市寒川II遺跡（秋田県教育委員会1988）ではBa1・Be2型の土壙墓が主体となっており、各土壙墓の長軸線はほぼ東西を示し、並列に間隔を持って配置されている。若干の長軸線の傾きの違いから、永福寺山遺跡と同じく2基一対の単位が想定される。1基を除いて各上土壙墓底面からは、周辺品と考えられる後北C2-D式期中段階の深鉢・注口付深鉢が1または2個体出土しており、多くは正立状態にあり、口縁部に欠損（打ち欠き？）が見られる以外は目立った破損はない。一方、埋上より出土した深鉢は底部を欠くなど本来の機能（保存・煮沸）を失わせたものが多い。

このほか付属施設がない土壙墓の例としては、岩手県滝沢村大石渡遺跡（滝沢村教委1993）において、Be5型の土壙墓が北西～南東方向に3基並列して検出されたと報告されている。各土壙墓の主軸方向は北東～南西方向を示し、上土壙墓検出面より後北C2-D式期中段階の注口付深鉢・黒曜石製石器・剥片などが出土している。また、滝沢村仏沢III遺跡ではBe5型の土壙

墓2基、D c 5型の上墳墓4基が検出され、うち1基より後北C2-D式期新段階の深鉢（口縁部～体部上半）が長軸東端埋土上面より倒立して出土している（滝沢村教育委員会の御教示）。

以上のように、東北北部では平面形が楕円形である土墳墓が主流であり、円形が根強い北海道と対照的である。なお、北海道においても後北C2-D式段階には東北北部からの影響と考えられる楕円形土墳墓も出現し、ワカオイ遺跡のように楕円形が土体となる遺跡もあり、次第に楕円形が円形と共に存するようになる。

## 変遷

永福寺山遺跡検出の十墳墓は、寒川II遺跡と類似した形態・構造を持ち、埴輪式期新段階＝後北C2-D式期中段階の構築年代となる。これらに後続する時期の例としては青森県天間林村森ヶ沢遺跡（国立歴史民俗博物館1994）がある。森ヶ沢遺跡からは南小泉式期と考えられるB a 5・B e 5型の土墳墓が多数検出され、付属する袋状ピットに須恵器・土師器・北大式土器を重ねて副葬しているものもある。これら3遺跡の土墳墓形態に大きな変化は認められないことから、東北北部では、付属施設を作り楕円形土墳墓を長軸を揃えて並列させる墓制が埴輪式期に出現し、南小泉式期まで踏襲されていたと考えられる。

一方、古墳文化が浸透している東北南部においては古墳とは別に、付属施設を伴わない長方形・方形の土墳墓による在地墓制が存在する。宮城県藏王町頭訪館前遺跡（宮城県教委1992）では南小泉式期のD e 4型上墳墓が1基検出されており、环2個体、小形甕1個体を重ねて副葬している。

楕円形土墳墓を主体とした東北北部の墓制も住社式期になると変化が現れる。岩手県滝沢村仁沢瀬IV遺跡（（財）岩手県埋文センター1993）ではE b 4型・秋田県横手市田久保下遺跡（秋田県教委1992）ではD a 4・D b 4・D c 5型の上墳墓が検出されており、東北地方南部からの影響と考えられる長方形・方形土墳墓の一般化と合口土器を長軸上に副葬するという傾向が強くなる。しかし一方では付属施設として袋状ピットを伴い、黒曜石片を散布するように、從来からの要素も残っている。

しかし、柴岡式期になると岩手県北上市岩崎台地遺跡群（（財）岩手県埋文センター1995）で見られるように黒曜石を伴いながらも古墳が出現し、以後東北北部を中心各地で終末期古墳群が造営されるようになり、從来の系統をくむ土墳墓は確認できず、その後の状況は不明である。

## 2. 土器

永福寺山遺跡から出土した土器群は、

I群土器：縄文土器、II群土器：弥生土器、III群土器：統縄文土器、IV群土器：土師器と大別できる。このうち、I群土器については、縄文早期の日計式、中期の大木8a式、後期の門前式などが出土している。以下、II～IV群土器について、土器群の特徴、編年的位置の検討を行う。

## (1) II群土器：弥生土器

### a. 器種・器形の分類

#### 甕・壺形土器

出土している弥生土器は完形のものが多く、小破片が多いことから、甕形土器と壺形土器を明確に分類することはできない。ただし、第16図1は、推定される頸部の径が比較的小さいことから、壺形土器である可能性がある。これら甕・壺形土器を口縁部の断面形によって分類すると以下のようにになる。

- ① 頸部が屈曲し、口縁部がやや受口状になるもの（第16図4,24,25）
- ② 頸部が屈曲し、口縁部がひらくもの（第16図6,28,29）
- ③ 頸部の屈曲がわずかで、口縁部にかけて緩やかに開くもの（第16図23,26,27,30）

口唇部形態は、平線のものが多いが、第16図5は波状線で頂部にキザミに入る。また底部については、平底のもの（第17図94）と上り底のもの（第8図9）がある。

#### 蓋形土器

第17図95は、蓋形土器にしては口縁部のひらきが大きく、口唇部のつくりも異質であることから、笠状の蓋形土器の辯述部と考えられる。また、第17図96も、底部にしては底面がやや盛り上がり、沈線文が施され、摩滅痕もみられないことから、笠状の蓋形土器の頂部と考えられる。該期の蓋形土器の類例は盛岡市八木田V道跡出土器（（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992）に見られる。

### b. 様様・装飾の分類

#### 口縁部文様帶

- ① 交互刺突文：平行沈線間に上下から刺突を加える典型的技法のもの（第16図1,2）。Iは上下2段に施文され、下に斜行する附加条縄文帯が施文されている。
- ② 鋸齒状刺突文：交互刺突文の退化技法と考えられ、平行沈線の間にななめに上下からの刺突を加え、鋸齒状の文様となっている（第16図4）。
- ③ 刺口状列点文：交互刺突文の退化技法と考えられ、平行沈線間に連続して横から刺突を加え、列点状の文様となっている（第24図34）。
- ④ 沈線文：2本以上の平行沈線により文様を描くもの。文様の展開が十分わかるものがないものの、第16図4,7,9は弧状沈線文、8,10は菱状沈線文、6,11はI字文風沈線文、13は同心円状沈線文、19,20は鋸齒状沈線文と考えられる。
- ⑤ 縄文帯：斜行する附加条縄文が帯状にめぐるもの（第16図23,24,25,26）。23には綾絞文が中央にみられる。
- ⑥ 無文帯：口唇部直下が無文帯となっているもの（第16図29,30）。

#### 頸部文様帶

- ① 縦位刺突列：第16図3・第24図33は、上方方向からの刺突が列状にならぶ。
- ② 縄文帯：斜行する附加条縄文が帯状に施文されるもの。第16図24,36のように無文帯の中に

斜行する附加条縄文帯が施文されるもの、31,32のように無文帯の下に斜行する附加条縄文帯が施文されるものがある。

- ③ 無文帯：第16図23,25,26など、口縁部が縄文帯となると、その下の頸部が無文帯となっている。

#### 体部文様帶

- ① 羽状構成の附加条縄文が施文されるもの（第16図38～46）。
- ② 嶺走または斜行する附加条縄文が施文されるもの（第16図1,29～35,37,第17図47～93,第24図44～53）。

#### c. 胎土

胎土については、在地に縄文時代からよく見られるもので、砂粒を比較的多く含む明るい褐色のものが多く、雲母や海綿骨針などは見られない。

#### d. 顔料

ベンガラなどの顔料の付着は観察されなかった。

#### e. 炭化物

器面に炭化物の付着が観察されるものもあるが、それらは外面上にコゲ状のこびりつきやスヌ状のわずかな炭化物がみられるもので、内面にまで炭化物の付着が観察できたものは少ない（第16図24）。また、スヌ状に比べ、コゲ状の付着が見られるものはわずかであった。

#### f. II群土器の編年的位置

本遺跡出土II群土器は、その口縁部の文様等から以下のように類型化できると考えられる。

II群a類：口縁部に典型的な交互刺突文が施文されるもの（第16図1,2）。

b類：口縁部に退化した交互刺突文が施文されるもの（第16図4）。

c類：口縁部に2本以上の平行沈線による各種沈線文が施文されるもの（第16図4～22）。

d類：口縁部に附加状縄文帯が施文されるもの（第16図23～28）。

e類：口縁部が無文帯となるもの（第16図29,30）。

さて、岩手県における弥生・終末期土器群は、交互刺突文の存在から「天王山式系」と認識され、これまで「常盤式」「湯舟沢式」「赤穴式」といった土器型式が設定されてきた（小田野1987）。齊藤邦雄（1993）は交互刺突文のバリエーションを時間軸ととらえて編年を整理し、

交互刺突文様浮線文段階 → 交互刺突文段階 → 退化交互刺突文段階 → 特殊捺糸文段階

(常盤式)

(湯舟沢式)

天王山式相当段階

赤穴式相当段階

という考え方を示した。以下では、この考え方を基準に各段階を天王山式期古段階・新段階、赤穴

式期古段階・新段階と呼称し、北上川上流域における弥生終末期土器群を検討する。

銭神沢遺跡出土土器（第32図）：武田良夫による採集資料を検討すると以下のように類型化できる。

a類：二重口縁で、上下からの縦位の刺突列やキザミが施文されるもの（第32図1,2,4）。

b類：二重口縁で、交互刺突文様浮線文が施文されるもの（第32図3,5,6,7）。

c類：口縁部または体部上半に平行沈線間の刻目状交互列点文が施文されるもの（第32図9,11,12）。

d類：列点文が重層して施文されるもの（第32図10）。

e類：1本沈線による沈線文。第32図13は縦位の鋸齒状沈線文、30は葉状沈線文である。

f類：2本以上の平行沈線による直線的な沈線文が施文されるもの（第32図14～26）。

g類：2本以上の平行沈線による弧状沈線文（第32図27～29）。

h類：口縁部に附加条縄文が施文されるもの（第32図8）。

体部破片の多くは斜行または縱走する单筆縄文が施文されている。

以上のうち、a・b・f類は天王山式期古段階、c・d・e・g・h類は赤穴式期古段階に相当すると考えられる。

湯舟沢Ⅲ・Ⅳ・Ⅹ遺跡出土土器（滝沢村教委1986）：堅穴住居跡、遺構外から出土した「湯舟沢Ⅲ類上器」は「湯舟沢式」の標式資料であり、大王山式期新段階に相当する。

磐VI遺跡出土土器（（財）岩手県埋文センター1980）：上蓋埋上より同一個体の上器群が出土しており、典型的な技法の交互刺突文の存在から天王山式期新段階に相当すると考えられる。

八木田Ⅲ・Ⅴ遺跡出土土器（（財）岩手県埋文センター1992）：遺構外から出土している第VI群土器は、退化した交互刺突文や2本以上の平行沈線による菱状・鍔齒状・連弧状などの沈線文、斜行・縱走する附加条縄文がみられることなどから、赤穴式期古段階に相当すると考えられる。

一本松遺跡出土土器（第33～36図）：武田良夫などによる採集資料を検討すると以下のように類型化できる。

a類：平行沈線間に上下から刺突を加える典型的な交互刺突文が施文されるもの（第33図1）。

b類：退化した交互刺突文が施文されるもの。第33図2～4は平行沈線間の刻目状交互列点文、

第33図5・第36図10・11は平行沈線間の刻目状列点文、第33図6～9・第36図112・113は平行沈線間の鋸齒状刺突文、第33図10～13は平行沈線間の格子状刺突文、第33図14は平行沈線間の綾杉状刺突文である。

c類：2本以上の平行沈線による沈線文（第33図15～第34図71、第36図113～136）。

d類：口縁部に格子状圧痕文が施文されるもの（第34図72～77、第36図137）。

e類：口縁部に附加条縄文帯が施文されるもの（第34図78～83、第36図138～141）。

f類：口縁部が無文帯となるもの（第35図84、第36図142）。

体部破片のほとんどは斜行または縱走する附加条縄文で、綾格文が見られるものもある。

以上のうち、a類の1点のみが天王山式期新段階の特徴を示すものの、その他はすべて赤穴式期古段階に相当すると考えられ、a類は占い要素が残って存在したものと考えられる。

八卦遺跡出土土器（第31図）：第3～5次調査において出土した土器群のうち、典型的な交

互刺突文を持つもの（第31図2）は天王山式期新段階の特徴を示すものの、口縁部に2本の平行沈線による逆弧状沈線文が施文されるもの（第31図1）、口縁部に附加条縄文帯が施文されるもの（第31図6）は、赤穴式期古段階に相当すると考えられる。

台太郎遺跡出土土器（第30図）：第3・4次調査において出土した土器群のうち、羽状の附加条縄文帯が施文されるもの（第30図4,5）は、赤穴式期新段階に相当すると考えられる。

前九年遺跡出土土器（第28図）：第3次調査において出土した土器群には附加条縄文の施文されたもののみがあり、特に第28図2は羽状構成となっている。また、第28図1は長頸壺になると考えられ、これらは赤穴式期新段階に相当すると考えられる。

オミ坂遺跡出土土器（盛岡市中央公民館1972）：昭和38年調査で出土したもので、体部に3本の平行沈線による流水状の二字文風沈線文が施文される長頸壺であることから、赤穴式期新段階に相当すると考えられる。

ここで以上の土器群と永福寺山遺跡II群土器を比較してみると、典型的技法の交互刺突文を持つa類の2点は天王山式期新段階の特徴が見られるものの、その他はすべて赤穴式古段階に相当すると考えられ、一本松遺跡出土土器群の様相と類似している。よってa類は古い要素が残ったものと考え、永福寺山遺跡II群土器は、赤穴式期古段階に編年的に位置付けられる。

## （2）Ⅲ群土器：続縄文土器

### a. 器種・器形の分類

#### 深鉢形土器

出土している続縄文土器は完形のものが多く、小破片が多いため、明確に注口付とわかるもの以外は、すべて深鉢形に分類した。口縁部の断面形を観察すると、ほとんどは体部上半がふくらみ、口縁部にかけて内溝する器形と考えられる（第10図1,2,6,第14図1,2,第18図100,101,127）。口唇部形態は、波状線のものが存在するのは確かだが（第14図2,第18図98,99,129,130,第23図3,4,5）、平縁のものもあるかどうかは、破片のみでは判断が難しい。底部は、平底のもの（第7図7,第11図21,25,第15図18,第20図236,238,第23図30,31）、上底のもの（第20図237）、平底で底面に文様のあるもの（第15図9,第23図32）がある。

#### 注口付深鉢形土器

器形的には深鉢形土器とほとんど変わらないと考えられるが、注口部分のあるもの、注口部分へのふくらみのあるものを注口付深鉢形土器と分類した。口唇部の形状は、注口部分で山形に外反している（第15図9,第23図1）。注口部は、径が大きく短いもの（第15図9,第23図1）、径が小さく長めのもの（第18図97,第23図2）がある。

### b. 文様・装飾の分類

#### 口縁部文様帯

- ① 口唇に平行な2本の降線を貼り付けて口唇と降線にキザミを加え、降線間に三角または円形刺突穴を施文するもの（第10図10,第14図2,4,第15図9,第18図123,124,第23図1,4,6,7,8,9）。波状線の頂部では縦位の隆線も貼り付けられている（第23図4）。

② ①と類似するが、降線間に刺突列のないもの（第8図1, 第10図1, 4, 8, 第14図1, 3, 4, 5, 第18図98, 100~105, 108~122, 第23図3, 5, 10, 12~16）。やはり波状線の頂部では縦位の隆線が貼り付けられている（第10図4, 第18図98, 第23図3, 5）。

③ 口唇に平行に1本の隆線を貼り付けて口唇と隆線にキザミを加えたもの（第10図5, 6, 9, 第18図126~133）。

④ 口唇に平行に微隆線に挟まれた帯縄文が施文され、口唇にキザミを加えたもの（第10図7, 第23図19）。

#### 体部上半文様帶

① 微降線に挟まれた帯縄文が弧状に組み合い、その間に三角または円形刺突列を施文するものの。文様モチーフの全体構成が明確にわかるものはないが、多くの体部上半破片はこれに分類される。

② 微隆線に挟まれた帯縄文が横位または縦位に組み合い、その間に三角刺突列を施文するもの（第10図6, 9, 第18図128）。

③ 微隆線に挟まれた帯縄文が斜位または縦位に組み合い、刺突列が施文されないもの（第18図129, 130）。

④ 微隆線のない帯縄文のみが縦位に施文されるもの（第23図19）。

#### 体部下半文様帶

① 微降線に挟まれた帯縄文が縦位に施文され、三角刺突列が加えられたもの（第15図9）。

② 微隆線に挟まれた帯縄文が縦位に施文されるもの（第20図237, 第23図30）。

③ 微隆線のない帯縄文のみが縦位に施文されるもの。多くの体部下半破片がこれに分類される。

#### 底部文様

第15図9は、底面に微隆線のない帯縄文が十字に施文され、その間に三角刺突列が加えられている。また、第23図32も類似の文様が施文されていると考えられるが、底面周縁にキザミが加えられている。

### C. 胎土

胎土については、その特徴から以下の3つに分類できる。

① 砂粒を含む硬質の胎土で、色調は暗く、やや薄手に作られているものが多い。

② 砂粒が少なく、海綿動物骨針を多く含む胎土で、色調は①に類似し、やや薄手に作られている。

③ 砂粒が少なく、土師器に類似した軟質の胎土で、色調は明るく、やや厚手に作られている。

#### d. 顔料等

赤色顔料であるベンガラが付着していたり、赤色・白色の化粧土が用いられているもののがいくつか存在する。

① ベンガラが、帯縄文を挟む微隆線に付着しているもの（第10図2, 第11図19, 第14図1, 第15図9, 第19図177）。

- ② 赤色化粧土が帯縄文を挟む微隆線に用いられているもの（第18図100, 116, 第23図15）。
- ③ 白色化粧土が帯縄文を挟む微隆線に用いられているもの（第10図6, 第15図10, 11, 第19図169, 187, 192, 193, 第20図205, 216, 第23図14, 17, 27）。

#### e. 炭化物

炭化物の付着が見られるものが多く、外内面にコゲ状のこびりつきやスス状のわずかな炭化物が観察できる。ベンガラや白色化粧土の見られる上器でも、炭化物が付着しているものもある（第10図2, 6, 第11図19, 第14図1, 第15図9, 10）。

#### f. III群土器の編年的位置

本遺跡出土III群土器は、その口縁部や体部上半の文様等から以下のように類型化できると考えられる。

- III群a類：口縁部に口唇に平行な隆線2本を貼り付けキザミを加え、体部上半は微隆線に挟まれた帯縄文が弧状に組み合い、三角形または円形刺突列が施文されるもの（第8図1, 第10図1, 2, 第14図1~5, 第15図9, 第18図98, 100~105, 123, 第23図1, 3~15）。
- b類：口縁部に口唇に平行な隆線1本を貼り付けキザミを加え、体部上半は微隆線に挟まれた帯縄文が弧状に組み合い、三角形または円形刺突列が施文されるもの（第10図5, 第18図126, 127）。
- c類：口縁部に口唇に平行な隆線1本を貼り付けキザミを加え、体部上半は微隆線に挟まれた帯縄文が横位または縦位に組み合い、三角形刺突列が施文されるもの（第10図6, 9, 第18図128）。
- d類：口縁部に口唇に平行な隆線1本を貼り付けキザミを加え、体部上半は微隆線に挟まれた帯縄文が斜位または縦位に組み合い、刺突列が施文されないもの（第18図129, 130）。
- e類：口縁部に口唇に平行に微隆線に挟まれた帯縄文が施文され、体部上半は微隆線のない帯縄文のみが縦位に施文されるもの（第10図7, 第23図19）。

さて、III群土器については、微隆線や帯縄文、刺突列などの特徴から、統縄文土器の中でも後北C2-D式期に属すると考えられる。北海道に分布の中心を持つ後北C2-D式土器については、上野秀一（1992）によって、

K135遺跡4丁目地点Ⅰ群1器→K135遺跡4丁目地点Ⅱ群1器→

石狩八幡町遺跡ワカオイ地点D地区出土土器群  
と3段階に細分する考えが示されている。

また、斎藤邦夫（1993）は、岩手県内出土の後北式土器を文様要素、文様展開、施文手法などから、

- ① 微隆線に挟まれた帯縄文による円環状・連弧状・弧状を主要なモチーフとする一群
  - ② 沈線に挟まれた帯縄文による円環状・弧状を主要なモチーフとする一群
  - ③ 口縁部にキザミを加えた隆線が巡り、帯縄文が斜位に展開する一群
- の3つにグループ化し、①を後北C2-D式隆盛期の段階、②③を後北C2-D式隆盛期より後出の段階とする考え方を示している。上野による細分をそれぞれ後北C2-D式期古段階・中段階・新段

階と呼称すると、概ね①群は古・中段階、②・③群は新段階に相当すると考えられる。

ここで永福寺山遺跡Ⅲ群土器を検討すると、d、e類が刺突列、II線部の隆線といった文様要素を欠落しているものの、各類とも微隆線に挟まれた帶繩文は存在しており、一方で明確に円環状のモチーフがないこと、口縁部のキサミを加えた隆線が2本のものが多いことなどから、永福寺山遺跡Ⅲ群土器はK135遺跡4丁目地点Ⅷ2群土器に様相が近いと考えられ、後北C2-D式期中段階に編年的に位置づけられる。

また、出土点数は少ないものの盛岡駒込出土の続繩文土器について検討してみると、台太郎遺跡出土の第30図14~22、月見山遺跡出土の第37図1~9、猪去館遺跡出土続繩文土器（盛岡市教育委員会1989）は永福寺山遺跡Ⅲ群土器と類似しており、後北C2-D式期中段階に、武道遺跡出土の第37図10、芋田遺跡出土の第37図18、仏沢Ⅲ遺跡出土続繩文土器（高橋・高橋1991）は後北C2-D式期新段階、宿田道路出土の第29図4は北大I式期に相当すると考えられる。

### （3）IV群土器：土師器

#### a. 器種・器形の分類

出土している土師器は完形のものが多く小破片が多いため、図示できた資料について、口縁部など部位的な特徴により分類を行った。

##### 器台

図示できたのは1点である（第21図239）。脚部のみで、外反しながら八字形に広がるものである。円窓は見られない。器面調整は丁寧なタテ方向のヘラミガキで、内面はナアが施される。

##### 高坏

図示できたのは3点である（第8図10、第12図27、第24図54）。3点とも内湾しながら外傾してのびる坏部のみ残存する。器面調整はヨコナデの後に丁寧なヘラミガキが施される。

##### 鉢

図示できたものは15点である。口縁部・胴部を欠損しているものが多いものの、II線部の形態から分類すると以下のようになる。

- ① 口縁部が屈曲して外上方にのびるもの（第21図244）。
- ② 口縁部が屈曲して内湾しながら外上方にのびるもの（第12図31、第21図240、246）。
- ③ 口縁部が屈曲して内湾しながら大きく外上方にのびるもの（第21図242、243）。
- ④ 口縁部が外反して大きく開くもの（第21図241）。
- ⑤ 口縁部が直線的に大きく外上方にのびるもの（第13図1、第21図250、第24図56）。第22図271はこの類型の口縁部に付く体部と考えられ、壇となる。

器面調整は外側のくびれ部に前段階のハケメやナデが残るものがある。

##### 壺・甌

図示できたのは39点である。いずれも全体形が復元できないため、口縁部の形態から分類すると以下のようになる。

- ① 複合口縁のもの（第8図11）。口縁部の折り返しが簡略化する。
- ② 有段II線のもの（第22図266~268、第24図62）。口縁部外面に棗もしくはゆるやかな段を形

成する。また、口縁部が外反して開き、体部と颈部の境にキザミのある隆帯が巡る。

③ 単純口縁のもの。

- a 口縁部がわずかに内湾しながら外上方にのびるもの（第12図28, 第15図19, 第21図249）。
- b 口縁部が内湾しながら外傾するもの（第24図57-60）。
- c 口縁部が直線的にのびるもの（第12図29, 第13図2, 3, 第21図252-259）。
- d 口縁部が外反するもの（第22図262, 263）。
- e 口縁部が外反し、口唇部に平坦面をもつもの（第22図264, 265）。
- f II縁部が外反し、口唇部に丸みをもつもの（第21図260, 261）。

b. 胎土

胎土については、その特徴から以下の3つに分類できる。

- ① 砂粒を多く含む硬質の胎土で、色調は明るい黄橙色でやや薄手に作られているものが多い。
- ② 砂粒を比較的多く含む硬質の胎土で、色調は暗く、やや薄手に作られている。
- ③ 砂粒が少なく軟質の胎土で、色調は明るく、やや厚手に作られている。

c. 顔料等

赤色顔料が多数の破片に付着しており、朱と考えられる。

- ① 高环・小形丸底鉢・壺などのII縁部破片の多くに、朱が外内面に付着している（第12図27, 第13図1, 2, 第21図245, 246, 249, 250）。
- ② II縁部以外の体部破片にも、朱が外面に付着しているものがある（第13図3, 第22図267, 271, 第24図62）。

d. 炭化物

炭化物の付着が見られるものもあるが、その多くは外面にスス状のわずかな炭化物が観察できる程度である。

e. IV群土器の編年的位置

本遺跡出土IV群土器は、器台・高环・小形丸底鉢・壺・壺という器種構成とその器形的特徴から東北地方南部の上師器編年における塩釜式期に概ね相当すると考えられる（ただし、第15図19については南小泉式期の壺である可能性がある）。

東北地方における古墳時代前期の土師器は、氏家和典（1957）により「塩釜式」が設定され以来、その後の調査成果をもとに丹羽茂（1985）が3段階4時期に、次山淳（1992）が高环・小形丸底鉢・壺の変遷を軸に6段階に区分している。

さらに辻秀人（1994・1995）は、東北南部における古墳出現に関わる畿内庄内式新段階に対応する時期から古墳時代前期を対象とした編年案を提示し、I期を畿内庄内式新段階、北陸塗編年5・6群、東海廻同編年II式に並行、II・III期を從来の塩釜式相当とし、さらに器種・器形の消長・変化などから、I・II期をそれぞれ2段階、III期を4段階に細分している。以下では、この辻編年を参考とし、本遺跡で出土点数の比較的多い壺と小形丸底鉢（小形丸底壺の系

譜に連なるものと鉢形のものを小形丸底鉢と呼称する)などの特徴について、他遺跡出土の埴輪式土器との比較検討を行う。

- ① 壺で頸部にキザミを施した隆蒂（第15図20、第24図61、62）や、口縁部に棒状浮文（高橋・武田1982）、円形浮文（伊東1974、岡牛1978、水沢市教委1978）が見られるものがある。類例としては、いわき市龍門寺遺跡第3号住居跡（いわき市教委1985）、会津坂下町男塙遺跡第1・3号周溝（会津坂下町教委1990）、仙台市戸ノ内遺跡方形周溝墓（仙台市教委1984）、仙台市野山山遺跡第19号住居跡（宮城県教委1992）出土土器等があり、辻編年Ⅰ・Ⅱ期の特徴と考えられる。

② 複合口縁・有段口縁の壺において内面の屈曲が失われるものが多く見られる（第7図10、第8図11、第22図267、268）。類例としては、仙台市今熊野遺跡第1号方形周溝墓（宮城県教委1985）、志波姫町鶴ノ丸遺跡第5・6号住居跡（宮城県教委1980）、郡山市山中日照田遺跡第22-26号住居跡出土土器等があり、辻編年Ⅲ期の特徴と考えられる。

③ 小形丸底鉢で前段階の調整がくびれ部に残るものが多い（第12図30、31、第21図240～242、246、247）。類例としては、志波姫町鶴ノ丸遺跡第5・6号住居跡、郡山市山中山日照田遺跡第1号住居跡出土上器等があり、辻編年Ⅲ期の特徴と考えられる。

④ 「I」縁部が直線的に大きく外上方にのびる辺が見られる（第13図1、第21図250、第24図56）。類例としては、いわき市龍門寺遺跡第6・7号住居跡（いわき市教委1985）、仙台市野山山遺跡第2号住居跡（宮城県教委1992）出土上器等があり、辻編年Ⅲ期の特徴と考えられる。

⑤ 器台の脚部で透孔の消失したものが見られる（第21図239）。類例としては、郡山市山中日照田遺跡第1号住居跡出土土器があり、辻編年Ⅲ期の特徴と考えられる。

以上のうち、①のキザミを施した隆蒂や棒状浮文・円形浮文については破片が少なく、また辻編年Ⅲ期にまで残存する要素でもあることから、これらは古い要素が残ったものと考えられ、小遺跡出土IV群土器は、塩釜式期新段階（辻編年Ⅲ期）に位置づけられる。

#### (4) 永福寺山遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ群土器の編年的関係

永福寺山遺跡においては、それぞれ異系統であるⅡ・Ⅳ群土器が土壤墓、トレンチより出土しており、その並行関係が問題となる。土壤墓から出土した破片数の比率からすると(第1表)、Ⅲ群土器(後北C2-D式期中段階)とⅣ群土器(塙式期新段階)が共伴もしくは並行関係にあると考えられ、またⅡ群土器(赤穴式期古段階)は、Ⅲ・Ⅳ群土器とは散布範囲がやや異なっていたという状況もあり、それらとは並行関係にはないと考えられる。以下では、永福寺山遺跡以外での弥生終末土器、続縄文土器、古式土器類の組年関係をふまえ遺跡の虫歴を検討する。

札幌市 K135遺跡4丁目地点(上野1992)：Ⅴc層において、後北C2-D式期古段階であるⅥ群土器と弥生終末土器であるⅢ群土器が分布を重複して出土。Ⅲ群土器は退化した交互刺空文の存在から赤穴式期古段階に並行すると考えられる。

札幌市 北大橋内ボプラ並木東地区遺跡（北海道大学1987）：ブロック3において、南小泉式期の壺の破片と北大I式期の土器片が出土。

吉森場天間林村 穂ヶ沢遺跡（国立歴史民俗博物館1994）：15号墓（土壙墓）内において、

南小泉式期の坏と北大I式期の片口土器が共伴して出土。

岩手県盛岡市 台太郎遺跡（第30図）：奈良・平安時代の道構埋土中から、赤穴式期新段階十器片と後北C2-D式期中段階の土器片が出土。

秋田県能代市 寒川II遺跡（秋田県教育委員会1988）：第2号土塙墓の埋土上層から後北C2-D式期中段階の土器片が、袋状ピット内から赤穴式期新段階に並行すると考えられる壺形土器が出土。

秋田県西目町 宮崎遺跡（西目町教育委員会1987）：SI02号穴住居跡の埋土中から南小泉式期の上部器片と北大I式期の土器片が集中して出土。

宮城県猿館町 伊治城跡（猿館町教育委員会1992）：SD260・261溝の堆積土第1層下面～第2層上面より塩釜式期新段階（辻編年Ⅲ・1・2期）の上部器と北大I式期の土器が出土。

宮城県多賀城市 山王遺跡（多賀城市教育委員会1981）：3号造構（土壙墓）の埋土4層以下から南小泉式期の十脚器多数と後北C2-D式期新段階の十脚器が出土。

福島県浪江町 本屋敷古墳群（法政大学1985）：第2号住居跡の床面から畿内庄内式新段階並行段階（辻編年Ⅰ-1期）の土器と赤穴式期新段階に並行すると考えられる壺形土器が出土。

新潟県巻町 南赤坂遺跡（縄文文化検討会1994）：テラス遺構とその周辺から漆町8番（辻編年Ⅲ-1期）の十脚器と後北C2-D式期新段階相当の十脚器が出土。

以上を概観すると以下のような並行関係が想定できるが、伊治城跡、山王遺跡、南赤坂遺跡の事例については整合しておらず、事例の増加を待って再検討が必要と考えられる。

#### 統繩文

#### 弥生

#### 土器

後北C2-D式期古段階	赤穴式期古段階	
後北C2-D式期中段階	赤穴式期新段階	塩釜式期古段階（辻編年Ⅰ・Ⅱ期）
後北C2-D式期新段階		塩釜式期新段階（辻編年Ⅲ期）
北大I式期		南小泉式期

### 3. アメリカ式石鎚

永福寺山遺跡からは5点のアメリカ式石鎚が採集されており、弥生終末上器であるⅡ群上器に伴うものと考えられる。アメリカ式石鎚については、石原正敏（1996）や坂本和也（1995）により出土遺跡の集成や研究がまとめられ、北は北海道江別市から西は福岡県久留米市まで全国で200遺跡以上から出土していることがわかっている。岩手県内では永福寺山遺跡を含め23遺跡の出土例があるが、1、2点の出土が多く、採集品ではあるが5点という出土数は水沢市常磐広町遺跡の8点に次ぐものである。以下ではこれらの研究成果を基に、現存する4点のア

メリカ式石鎌（第25図1～4）について検討を行う。

坂本（1995）は、アメリカ式石鎌の刃部、基部それぞれについて、

形態

刃部I類：刃部が直線的で三角形を形づくるもの。

II類：刃部が彎らみを持つもの。先端付近に肩部を有し五角形を形づくるものも含む。

基部a種：基部が直線的で、刃部幅と同幅かそれより外に突出するもの。

b種：基部が凹形で、刃部幅と同幅かそれより外に突出するもの。

c種：基部が直線又は凹形で、刃部幅より小さいもの。

と形態分類を行い、これらの組み合わせから計6タイプに分類している。これに従うと、第25図2・3がI類a種、1・4がI類b種にあたると考えられ、類例の少ないI類b種が半数を占め、特に1は基部の門みが大きいため一部が欠損しているほどで、形態的に珍しいものと言える。

現存するアメリカ式石鎌の全長は21.8～34.2mm、重量は1.1～1.9gである。石原（1996）は、長さ・重量アメリカ式石鎌の長さと重量の相關をグラフ化しており、それと比較すると、第25図1・2は大型、3・4は中型の範囲に入るようである。

また石材について観察すると、色調の違いはあるものの4点全てが頁岩製であり、東北中部・石材北部においては頁岩主体という傾向の中にあると言える。

#### 4. 勾玉・管玉

永福寺山遺跡では、発掘調査でトレンチから勾玉が1点（第26図3）出土し、管玉2点（第26図4,5）が表面採取されている。

このうち勾玉は、形態がC字形で片面穿孔、材質がメノウという特徴を持つことから、4世紀末の年代が考えられる（藤巻教氏の御教示）。勾玉の形態は、C字形から□字形へという変遷の流れがあり、岩手県において終末期古墳等から出土している7～8世紀の勾玉は□字形またはそれに近い形のものが多く、C字形の勾玉は古い形態のものといえる。管玉の石材は碧玉・管玉であり、勾玉と近い年代が考えられ、ともにIV群土器（塙釜式期新段階）に伴うものと考えられる。これらは古墳文化の浸透していた東北南部からの搬入品と考えられる。

#### 5. 鉄製品

永福寺山遺跡では刀子1点（水沢市教委1978、国生1978）、鎌2点（第26図1,2）の計3点の鉄製品が出土しており、いずれも上墳墓およびそれに近接するピットから出土していることから、土墳墓構築時期（塙釜式期新段階）の鉄製品と考えられるが、刀子は所在不明であるため詳細は不明である。鎌はとともに直刃であるが、第26図1は一側面の上縁が刀の切先状に尖っており、また第26図2は両側縁に折り返しがある。

岩手県では、東北縦貫自動車道建設に伴う発掘調査における資料の蓄積を背景に高橋義介

(1984) が奈良・平安時代における鉄製品の集成・分類を行っており、また近仁では池田明朗・高橋千晶・佐々木千鶴子 (1994) により県内の農具の集成が行われている。しかし鉄製農具の出土が多いのは奈良・平安時代であり、弥生時代～古墳時代における鉄製農具の具体的様相はわかっていないのが現状である。鉄製鎌については、弥生時代中期以降、古墳時代前期にかけ直刃鎌が使用されると言われており、5世紀になって新たに曲刃鎌が発達し、先端は鉤状に作られることから、永福寺山遺跡出土の2点の直刃鎌は確かに古い形態を持つ鉄製鎌と言えよう。県内出土の奈良時代以降の鉄製鎌は曲刃鎌が一般的で、着柄部の折り返しは刃の先端に向かって傾斜する角度が時期が下るに従って大きくなる。また、出土した鉄製鎌はともに手鎌であるが、特に第26図2は鉄板の両端を折り曲げることによって木柄に固定した「装着式手鎌」と呼ばれるタイプにあたると考えられる。

## VII まとめ

永福寺山遺跡からは古墳時代初頭の土塚墓7基が検出され、土塚墓裡土およびトレンチから弥生終末土器、続縄文後期土器、古式土師器、アメリカ式石鎌、勾玉、管玉、鉄鎌、刀子が出土した。

土塚墓は、丘陵頂部南縁に北西—南東方向へ並列して検出され、北東—南西方向に長軸線を **土塚墓** 持っている。土塚墓の平面形は楕円形で、長軸端に袋状ビットと小ビットを対に、または両端に小ビットを持っている。土塚墓群の周囲に検出されたとされる小ビット群は大半が木楔など自然の搅乱のようであるが、一部埋納施設としてのビットも存在し、鉄鎌が出土している。永福寺山遺跡検出の土塚墓はこれまで北海道の類例との共通性が指摘されてきたが、北海道から東北北部の土塚墓形態を検討したところ、北海道では縄文晩期以降、十勝茂寄式期まで円形土塚墓が主流である中で、後北C2-D式期に楕円形土塚墓が主体もしくは円形土塚墓と共存すること、東北北部では該期の円形土塚墓が確認されていないことから、楕円形土塚墓は東北北部独自の墓制である可能性がある。

土器については、弥生Ⅱ群であるⅡ群土器が赤穴式期古段階、続縄文土器であるⅢ群土器が **土器** 後北C2-D式期中段階、土師器であるⅣ群土器が塙釜式期新段階（辻編年Ⅲ期）に相当すると考えられる。上塚墓内出土の土器はⅢ群土器とⅣ群土器がほとんどであり、これらが共存もしくは並行関係にあると考えられる。また、他遺跡の事例から弥生終末土器、続縄文土器、古式土師器の編年関係を以下のように想定した。

続縄文	弥生	土師器
後北C2-D式期古段階	赤穴式期古段階	
後北C2-D式期中段階	赤穴式期新段階	塙釜式期古段階（辻編年Ⅰ・Ⅱ期）
後北C2-D式期新段階		塙釜式期新段階（辻編年Ⅲ期）
北大I式期		南小泉式期

上記の時期変遷について続縄文土器を中心に概観してみると、後北C2-D式期古段階では、札幌市K135遺跡のように北海道に赤穴式期古段階の弥生終末土器が出土しているに対し、東北北部には該期の続縄文土器はほとんど見られない。後北C2-D式期中段階になると、秋田県能代市寒川II遺跡などにより東北北部全域に続縄文土器が南下しており、同時に永福寺山遺

跡のように古式土師器も東北南部から北上している。また北海道では東北北部からの影響で、それまで円形土壙墓が主体であったものが梢円形土壙墓も作られるようになる。後北C2-D式期新段階では新潟県巻町南赤坂遺跡のように北陸地方にまで続縄文土器が南下している。北大I式期になると、北大構内ボブア並木東地区遺跡のように北海道にまで南小泉式土師器が北上し、・方宮城県など東北南部に北大式土器や黒曜石製石器が南下している。

このように東北北部における弥生時代終末から古墳時代初頭の変化は複雑な状況を呈しており、その変化のあり方も遺跡によって異なっている。永福寺山遺跡においては、赤穴式期古段階の弥生土器のみを所有する集団の生活域から、後北C2-D式期中段階の続縄文土器と塩釜式期新段階の土師器を所有する集団の生活域に変化し、鉄鎌・刀子を副葬して梢円形土壙墓を構築している。一方、寒川II遺跡においては、赤穴式期新段階の弥生土器と後北C2-D式期中段階の続縄文土器を所有する集団が、それぞれの土器と鉄斧を副葬して、永福寺山遺跡に類似した梢円形土壙墓を構築している。

東北北部では、弥生時代中期には青森県田舎館村垂柳遺跡検出の整然とした水田跡が示すように、稻作農耕が発達し、土器などの地域性は強いものの、東北南部と同様に安定した農耕社会が成立していたと考えられる。その後の弥生時代後期～終末期には「天王式系十器」と呼ばれる斎的な弥生土器が東北全域に広がる一方、東北北部では遺跡数が減少し、丘陵地に立地が片寄る傾向がある。弥生時代後期の生業については、「沖積地での水稻農耕がこの時期に一層発達するとともに、耕地が山間部、丘陵地にもいとなまれ、農耕の内容も多様に発達したこと」を示唆している（須藤1990）との考えが示されている。しかし、3世紀半ばから8世紀前半にかけては「古墳寒冷期」と呼ばれる低温・多雨の時代であった（坂口1984）ことを考えると、東北北部では気候悪化のため高乾地での畑作を中心とした雜穀栽培など粗放な農耕に頼って細々と集落が営まれていたのではないだろうか。北海道では、札幌市K135遺跡において花粉分析などから後北C2-D式段階でオオムギやソバ属の栽培を行っていたことが明らかとなっており、終末期弥生文化の影響で生業の変化が起きていることが指摘されている（上野1992）。弥生終末土器の北上が先行していることからも、続縄文土器が東北北部に南下する以前の段階から東北北部の人々と積極的な交流を行い、生業の転換を図ったと考えられる。

弥生時代終末から古墳時代初頭において、北海道石狩低地帯から東北北部にかけて共通の文化圏が形成されていたことは確かであろう。それは東北北部の終末期弥生文化の影響を受け、悪化した気候変化にも適応した後北文化が東北北部へ南下したためと考えられる。しかしその中においても北上川上流域の永福寺山遺跡においては確実に古墳文化を持つ人々が存在しており、東北南部との交流もあったことは確かである。該期の実態については今後の類例の増加を待ってさらに検討されるべきである。

## 引用・参考文献 (五十音順)

(ア)

- 愛知県歴史文化財センター 1990 「総開港地」愛知県歴史文化財センター調査報告書10  
会津坂下町教育委員会 1990 「中西道跡」「古賀温泉」「埋蔵遺物」河野町地区遺物貯蔵庫報告書会津坂下町文化財調査報告書16  
会津坂下町教育委員会 1990 「越流石橋跡」「志賀地区溝野松原跡高寒井内古」会津坂下町文化財調査報告書  
会津坂下町教育委員会 1991 「坂下西第一地区埋蔵文化財」作谷吉信・稻荷麻理子「会津坂下町文化財調査報告書22  
青森県教育委員会 1984 「岩ヶ崎町古墳群考古挖掘調査報告書」  
秋田県教育委員会 1984 「大原寺跡」「駒川温泉」駒川温泉水道施設調査報告書31「秋田県文化財調査報告書170  
秋田県教育委員会 1986 「糸川古墳群」「一般古墳」「八ヶ堀古墳」秋田県教育委員会による歴史文化財発掘調査報告書」秋田県文化財調査報告書167  
秋田県教育委員会 1990 「はりま鉱道跡」秋田県文化財調査報告書192  
秋田県教育委員会 1992 「川尻古墳跡」「秋田なること村岡城跡に係る歴史文化財発掘調査報告書」秋田県文化財調査報告書220  
阿賀野市 1989 「上野畠からみた東北地方古墳式古墳の變遷」「富京史学」4  
片山 勉・木戸直美編 1984 「東日本の古墳の出現」山川出版社  
神田明郎・吉野千晶・佐々木千穂子 1994 「古代における農兵の集成、岩手県の概要」「古代における農兵の変遷」  
石井 谷 1994 「東北地方北部における扶桑文化の歴史的考察」「越後大学史学論、考古学研究」5  
石狩町教育委員会 1975 「Wakakao!」石狩・八幡町道路跡ワカオ立地點緊急発掘調査報告書  
石狩町教育委員会 1976 「Wakakao!」石狩・八幡町道路跡ワカオ立地点緊急発掘調査報告書  
石巻市教育委員会 1980 「田淵古墳跡」「久保川流域古墳群」石巻市文化財調査報告書4  
右原正敏 1996 「アメリカ式古墳研究」「考古学と遺跡の佔拠」甘利就先生誕生日記念集  
伊永宗昭 1974 「第5回 上野原文化」「水沢市」1 原始~古代  
井上 達 1994 「P.T.Xによる秋葉山古墳の上部塗分層」「NMC共用有田研究結果報告文集」1  
いわき市教育委員会 1981 「朝日長者造跡、夕日長者造跡、いわき市埋蔵文化財調査報告書6  
いわき市教育委員会 1983 「内浦遺跡」いわき市摩鹿山文化財調査報告書7  
いわき市教育委員会 1985 「御内浦跡」いわき市埋蔵文化財調査報告11  
若狭原教育委員会 1981 「西大畠古墳」「東北復興自衛隊埋蔵文化財調査報告書1-1」「水沢湖(4)」若狭原文化財調査報告書60  
石手原教育委員会 1981 「東北復興自衛隊埋蔵文化財調査報告書1-1」「石田湖(4)」若手原文化財調査報告書61  
石手原考古学研究会 1982 「岩手の土器」  
石手原立博物館 1997 「九戸瀬戸形引丹内土塙跡発掘調査報告書」石手原立博物館調査研究報告書13  
石手原考古学研究会 1991 「第7回石手考古学研究大会」発表資料  
石手原考古学研究会 1996 「第16回石手考古学研究大会」発表資料  
石手原教育委員会 1995 「川根赤道跡・佐倉赤道跡報告書」若手原立埋蔵文化財調査報告書4  
石手原教育委員会 1995 「『門内浦跡発掘調査』『人波古墳遺跡』」若手原立埋蔵文化財調査報告書5  
上野耕一 1992 「北陸道における大山式古墳について」「加藤修先生晋祥記念 東北文化論のための先史学歴史学論」  
ウツクシマイ道跡調査団 1975 「鳥羽跡」雄山閣  
武井和典 1992 「気象と細胞の周期式分類とその癡年」「歴史」14  
茨城県教育委員会 1981 「船木古墳跡」  
鹿嶼郡教育委員会 1987 「カラバン(2)遺跡」  
滋賀県教育委員会 1983 「岩手県南部(北上川中流域)における所蔵品T型式の土器類、崩壊土器類の内容について」「考古学論叢」  
大庭忠志 1982 「後北式土器」『純文学者大成 3 織物文』講談社  
磐野正房 1991 「族の古代史」筑摩書房  
磐野正房 1991 「跡の古代史 内塙跡時代」白水社  
小田野吉重 1987 「岩手の跡式古墳年次試験」「岩手県立博物館研究報告」3  
小城市教育委員会 1991 「福島通跡II地点」  
(シ)  
細田修司 1978 「小形石台・小石高尾村の遺跡をめぐる諸問題」『物質文化』29  
刈田町教育委員会 1984 「火葬古墳」刈田町埋蔵文化財調査報告書6  
寺原雄一郎 1987 「手代木沢石塚遺跡」「遺産」3  
小村 高 1994 「東北地方一帯盆地の土器、北大1土器類の関連」「北海道考古学」30  
刈野義一 1983 「宮城縣における黒瀬石頭小型円形灰坑と其伴件として北大式土器を出土する遺跡について」「北東古代文化」16  
草間俊一 1970 「第一幕の歴史」先史時代「考古街史」  
工藤研治 1994 「統合文化時代」「北海道考古学」30

- 見城敏子、浅井俊雄 1988 「古代赤色筋模について」『考古学推進』73-3
- 河野賛廣 1968 「先史時代器 黒田山 銀物」『兩市史』上巻
- 田中 伸 1978 「第三章 古代」「一四市史 第一章通史」
- 国文歴史民俗博物館 1994 「歴史の名も悉く鉄道発展と鐵道車両技術」
- 小牛町教育委員会 1976 「山並道路」
- 小林 克 1992 「『北東紀範文式』(字説史的記述書)」『北東古代文化』22
- 小林 克 1993 「江別二式土器の本州分布をめぐって」『先史考古研究』4  
(サ)
- 彦郷那岐 1993 「春手根にみられる後式土器と在地外生土器について」『想手考古学』5
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1980 「伊所ダム建設開拓道路発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化センター・文化財調査報告書13
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1981 「伊所ダム建設開拓道路発掘調査報告書(昭和49年度・54年度)」岩手県埋蔵文化センター・文化財調査報告書16
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1981 「伊所ダム建設開拓道路発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化センター・文化財調査報告書21
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1983 「小舟川遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化センター・文化財調査報告書69
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1984 「下内川・IV・V遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化センター・文化財調査報告書71
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1984 「H10丁遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化センター・文化財調査報告書83
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1986 「竹内川遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化センター・文化財調査報告書107
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1986 「佐竹遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化センター・文化財調査報告書109
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1987 「我久保1号」「I・II・III・IV遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書116
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1988 「前進跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書172
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1992 「八木田川I・II・III・IV遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書177
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1993 「七沢遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書185
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1993 「八木田川II・III・IV遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書191
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1994 「佐野I・II・III・IV遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書199
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1995 「阿賀遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書206
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1995 「阿賀遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書214
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1995 「人見向I・II・III・IV遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書223
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1995 「八木田I・II・III・IV遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財調査報告書227
- (社)岩手県埋蔵文化財センター 1996 「恩賜御園遺跡発掘調査報告書」(財)北海道埋蔵文化財センター・調査報告書75
- (社)北海道埋蔵文化財センター 1996 「函館市 石呂貝塚」(財)北海道埋蔵文化財センター・調査報告書109
- 坂口 伸 1984 「日本の先史・歴史時代の気候」「自然」39-p
- 坂本和也 1995 「アメリア式石縄文」「みんなのくじく」(著)吉川弘文堂記念版
- 札幌市教育委員会 1987 「T 3.6 1 路線」札幌市文化財調査報告書 22
- 札幌市教育委員会 1987 「K 1.3.5 路線」4丁目地点・5丁目地点」札幌市文化財調査報告書 33
- 佐藤浩行 1976 「新北条の後式文化」「新北条の問題」
- 佐藤浩行 1983 「宮城県内の北海道古遺物」「北東古代文化」14
- 純文化出版会 1994 「第5回純文化賞得主セレモニー」「北日本純文化の実像」資料集
- 須賀市立教諭会議会 1989 「仲」「当」項目解説
- 須賀 龍 1990 「東北地方における先史文化」「考古学古代史論」
- 仙台市教育委員会 1984 「伊古田遺跡」仙台市高瀬浜田浜遺跡調査報告書」仙台市文化財調査報告書89
- 仙台市教育委員会 1984 「丁の内遺跡発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書90
- 仙台市教育委員会 1985 「西小屋遺跡第1次発掘調査報告」仙台市文化財調査報告書91
- (タ)
- 多賀城市教育委員会 1981 「山王・高畠遺跡発掘調査報告」多賀城市文化財調査報告書2
- 高橋義介 1984 「岩手県における古墳・平安時代の新製品について」(財)岩手県埋蔵文化調査事業団體藏文化財センター・記要: IV
- 高橋義介 1985 「岩手町切削出土品」
- 高橋昭一、武川良人 1986 「岩手県における後北条文化」「北条古代文化」13
- 高橋信也 1982 「東北地方北部の土器群と古代北海道系土器の対比」「北東古代文化」13
- 高橋信也 1987 「岩手県における岩手古墳の再検討」「北東古代文化」18
- 高橋信也 1993 「東北北部の古墳文化と越後文化」「二ノ塚原への考古学 横井謙蔵先古記念文庫」
- 高橋典右衛門・高橋信也 1991 「北津道の鐵道文化と北東」「北からの反応」日本考古学会会誌・仙台大会シンポジウム資料編
- 高沢村教育委員会 1986 「湯舟汎遺跡」高沢村文化財調査報告書2
- 高沢村教育委員会 1986 「耳取遺跡」高沢村文化財調査報告書3
- 高沢村教育委員会 1987 「佐沢遺跡」高沢村文化財調査報告書5
- 高沢村教育委員会 1989 「佐沢村大字佐沢・佐沢村文化財調査報告書」高沢村文化財調査報告書12
- 高沢村教育委員会 1991 「佐沢村大字志原・高沢村文化財調査報告書16
- 高沢村教育委員会 1991 「高沢村内野遺跡詳細分部分調査報告書」高沢村文化財調査報告書17
- 高沢村教育委員会 1993 「大石遺跡」高沢村文化財調査報告書24

- 清沢村教育委員会 1995 「清沢の春祭－清沢村造等台帳」 清沢村文化財調査報告書28
- 武田直夫 1978 「岩手県における赤字式土器について」『考古風土記』3
- 川才雅志 1983 「北大刀器」『北夷古代文化』14
- 鍋 真光 1983 「下北半島の古代における北海岸系土器の追跡」『北夷古代文化』13
- 田中 敏 1987 「福島県内における古墳時代前期土器群の松原について」『福島県立博物館紀要』1
- 要町町教育委員会 1992 「伊达城第一平成3年度発掘調査報告書」 要町文化財調査報告書5
- 次山 哲 1992 「福島式土器の変遷とその作成」『研究』『福島文化財研究会第15周年記念文集』
- 辻 秀人 1988 「東北地方同時期の古墳について(その1)－中間開拓の面影とその意義」『福島県立博物館紀要』3
- 辻 秀人 1992 「古墳の変遷と時期」『新説 古代の日本 東北・北海道』角川叢書
- 辻 秀人 1993 「東北南部の古墳出現期の種類「シンポジウムと 東日本における古墳出現順位の再検討」日本考古学会新潟大会実行委員会
- 辻 秀人 1994 「東北南部における古墳出現期の土器群－その2－」『東北学院大学歴史学・地理学』26
- 辻 秀人 1995 「東北南部における古墳出現期の土器群－その3－」『東北学院大学歴史学・地理学』27
- 辻 秀人、常泽秀明 1993 「会津足跡の省略地図」『越後地方における古墳文化形成過程の研究』
- 郡上高岡市 1987 「鳥取縣器物の二つの開拓」『考古学研究』13-3
- 桑ヶ谷古墳研究会 1991 「桑ヶ谷古墳群」『福島県企画報告』1990年発掘調査報告
- 桑ヶ谷古墳調査会 1992 「桑ヶ谷古墳群」『福島県企画報告』1992年発掘調査報告
- 若小牧鹿教委員会 1984 「タコボ」
- (少)
- 中村五郎 1982 「後醍醐天皇御代をめぐる篠岡史」『北夷古代文化』13
- 中村五郎 1990 「弘安ノ元から御前著」『福島考古』31
- 中村五郎 1992 「古代十種器・新羅銅十種銅をめぐって」『北海道考古学』28
- 七北町教育委員会 1979 「磐山」
- 新潟市教育委員会 1986 「八咫山石器－180年登録歴全を中心」 新潟市文化財調査報告書
- 西日町教育委員会 1987 「宮崎御跡発掘調査報告書」
- 日本考古学会編 1994 「北日本の考古学 南と北の地域性」吉川弘文館
- 野田村教育委員会 1987 「古墳一堵田45年三日市塙出張所調査報告書(遺物側)一」 野田村文化財調査報告書
- 野村 勉・大鳥秀彦 1992 「北浦透選木付フリッパ調査出土の土器(1)」『北浦透選木付金鉢調査長報』31
- (少)
- 森井 敦 1992 「引田式再論」『誕生』79
- 森井 敦 1996 「仙台平野における古墳の変遷」『考古学と遺跡の復興』昭和健先生追憶記念論集
- 福島県立博物館 1994 「金曲輪 会津大坂山古墳の時代」
- 江戸大学 1985 「本庄豊古墳群の研究」
- 北浦透 1987 「磐山」草 ポラエ木黒地区走跡の調査「北大構内の走跡」昭和62年度
- (少)
- 松井和幸 1982 「大河原磨製石器の概略とその伝播化をめぐって」『考古学誌』68-2
- 松井和幸 1987 「日本古代の族制統領「軒」」『考古学誌』72-3
- 松井和幸他 1991 「「我と武者」を「境域時代」の研究」第3卷 生産と経営』蓬山閣
- 光井行文 1990 「居了服にみられる古代の服装進歩十種について」(財)石手原文化振興会事業団文化財センター紀要』X
- 赤沢市教育委員会 1978 「高山寺」『赤沢文化史調査報告書』
- 宮城県教育委員会 1974 「岩切山ノ風説』『岩切山風説』『北北洋新風説』『岩切山風説』『宮城県文化財調査報告書』35
- 宮城県教育委員会 1980 「福島県等」『北北洋新風説』『宮城県文化財調査報告書』63
- 宮城県教育委員会 1988 「大糸道路」『北北洋新風説』『宮城県文化財調査報告書』71
- 宮城県教育委員会 1989 「女川遺跡」『北北洋新風説』『宮城県文化財調査報告書』72
- 宮城県教育委員会 1990 「清水の丸遺跡」『北北洋新風説』『宮城県文化財調査報告書』V
- 宮城県教育委員会 1991 「清水浜跡」『北北洋新風説』『宮城県文化財調査報告書』V
- 宮城県教育委員会 1983 「宮城県東北地方の古墳群分布と調査研究(昭和57年版)」『宮城県文化財調査報告書』95
- 宮城県教育委員会 1983 「首殿遺跡」『宮城県文化財調査報告書』96
- 宮城県教育委員会 1988 「今熊野遺跡」－李紇遺跡－馬鹿頭原』『宮城県文化財調査報告書』101
- 宮城県教育委員会 1992 「伊豆山遺跡」『宮城県文化財調査報告書』145
- 宮城県教育委員会 1992 「鶴巣城前遺跡」『下草之城跡ほか』『宮城県文化財調査報告書』146
- 宮城県教育委員会 1993 「北原遺跡」『宮城県文化財調査報告書』
- 盛岡市教育委員会 1972 「匂別文化財包藏地所在地名」
- 盛岡市教育委員会 1985 「盛岡市有形文化財調査行動計画(昭和55～58年度)」
- 盛岡市教育委員会 1986 「盛岡市歴史文化財調査年報－昭和59年度－」
- 盛岡市教育委員会 1986 「忠次城跡－利根川の年度別調査報告書－」
- 盛岡市教育委員会 1987 「盛岡市埋蔵文化財調査年報－昭和60～61年度－」
- 盛岡市教育委員会 1988 「盛岡市埋蔵文化財調査年報－昭和62年度－」
- 盛岡市教育委員会 1989 「上北内造跡」『雄物川遺跡 昭和63年度発掘調査報告』
- 盛岡市教育委員会 1991 「猪苗代跡－平成2年度発掘調査報告－」
- 盛岡市教育委員会 1995 「猪苗代跡－平成5、6年度発掘調査報告書」

- 盛岡市中央公民館 1972 「日で見る盛岡今と古」  
(下)
- 安田博幸 1984 「古代赤色顔料と漆塗の材質ならびに技法の伝統に関する二三の考察」『福原考古学研究会論集』
- 久市町教育委員会 1985 「斐川地区新規分田制度調査報告書・源沢地区古墳群の発掘調査」久市町文化財報告書8
- 余市町教育委員会 1971 「天内山」
- 余市町教育委員会 1995 「1994年度 大川遺跡発掘調査概況」
- 余市町教育委員会 1988 「新庄尾手遺跡」余市町埋蔵文化財調査報告書
- 古田義則 1963 「盛岡市永福寺山古墳発見の土器」『東北史蹟』38
- 青田義則・武田良夫 1970 「江刺吉式土器の分布」『東北史蹟』35
- 橋山秀介 1965 「北海道の時代区分」『考古学研究』32-2
- 余生時代研究会 1990 「天王山式期をめぐって」の核討会 記録集
- ワカオイ御委団 1977 「Wakaoi no Ichi 石狩・八幡町道路ワカオイ地點D地区発掘調査報告書」

# 報告書抄録

ふりがな	えいふくじやまいせき		しょうわ40・41ねんはくつちょうさほうこくしょ					
書名	永福寺山遺跡		—昭和40・41年発掘調査報告書—					
副書名								
巻次								
シリーズ名								
編著者名	津崎知弘・神原雄一郎・黒須靖之・武田良夫ほか							
編集機関	盛岡市教育委員会							
所在地	〒020 岩手県盛岡市津志田14地割37-2		TEL 019-651-4111					
発行年月日	1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査機関	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
えいふくじやまいせき 永福寺山遺跡	岩手県盛岡市 やまとし 山岸三丁目・ じまない てらみ 下米内字寺前	03201		39度 42分 51秒	141度 10分 34秒	第1次 19650329～ 19650402 第2次 19651105～ 19651110 第3次 19660406～ 19660411		学術調査 学術調査 学術調査
						計 400		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
永福寺山遺跡 第1～3次	集落跡	縄文時代	環穴住居跡 1棟	縄文土器、石器				
			陥し穴 1基					
			フラスコ形土器 1基					
		弥生～ 古墳時代	土壙墓 7基	弥生土器、縄文土器、土器器、 アメリカ式石器、勾玉、管玉、 鉄鏃、刀子				
		時期不明	土壙 焼土 9基 2基					

写 真 図 版



写真1 永福寺山遺跡土壙墓(1)

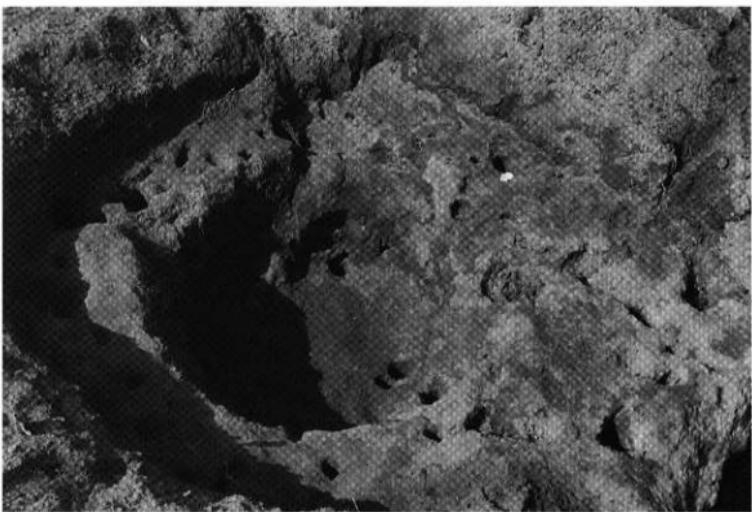


写真2 永福寺山遺跡土壙墓(2)

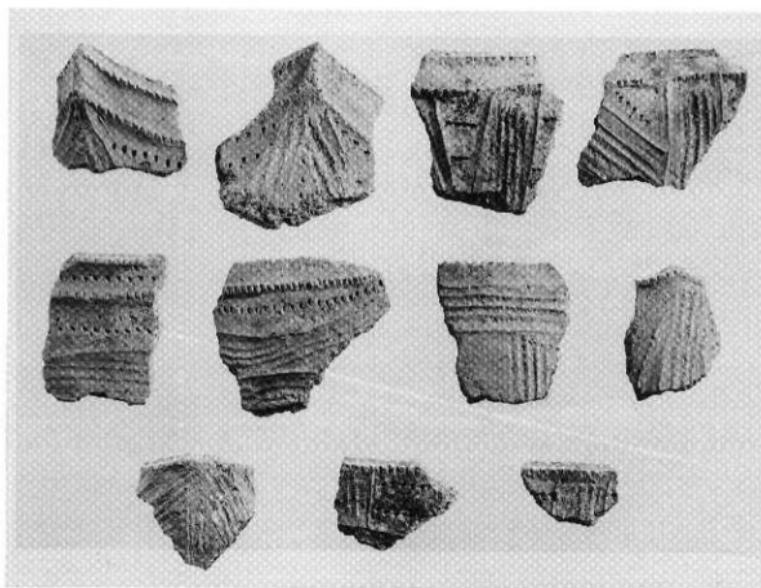


写真3 永福寺山遺跡出土繩文土器(1)

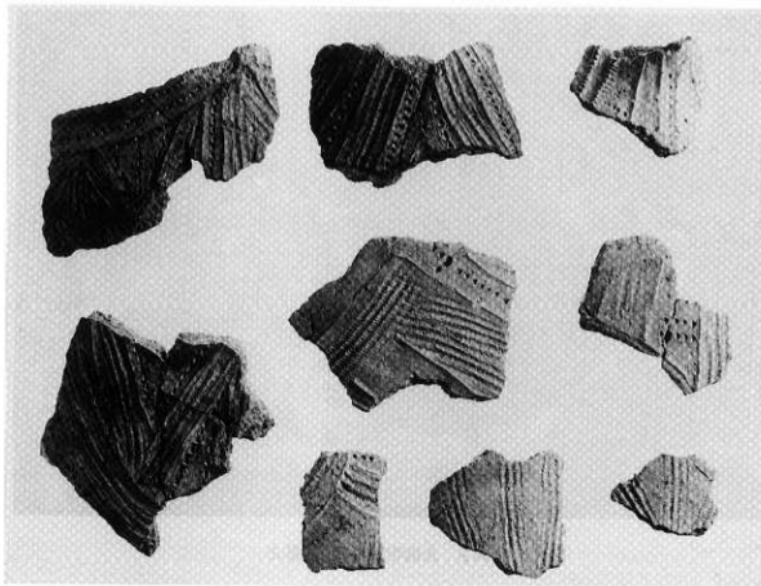


写真4 永福寺山遺跡出土繩文土器(2)



写真5 永福寺山遺跡出土鉄鎌

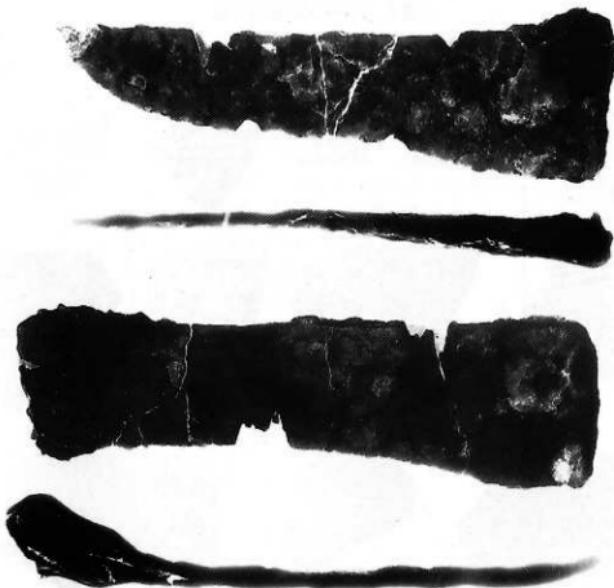


写真6 永福寺山遺跡出土鉄鎌（X線）

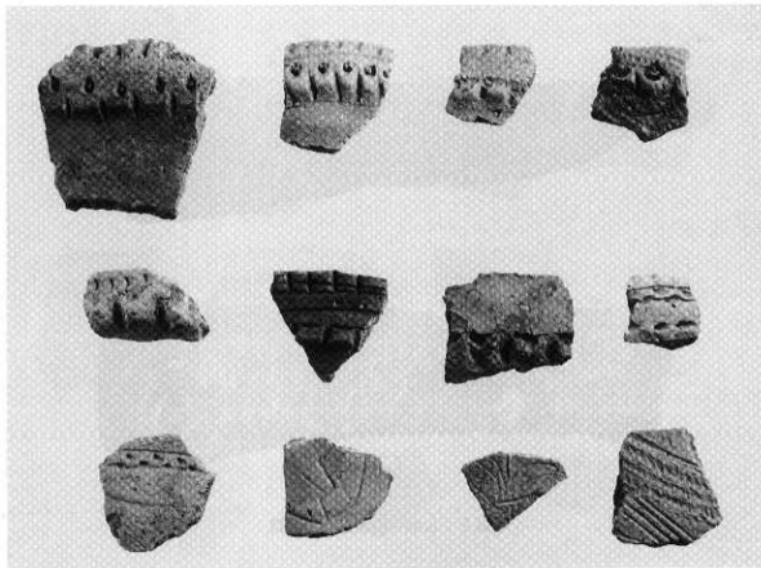


写真7 錢神沢遺跡探集土器

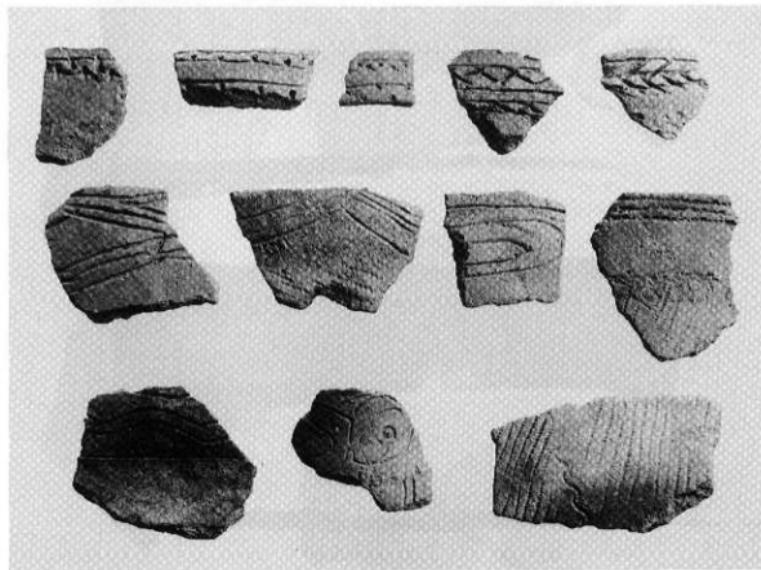


写真8 一本松遺跡探集土器

## 永福寺山遺跡

—昭和40・41年発掘調査報告書

平成9年3月31日

発行 盛岡市教育委員会

〒020 盛岡市津市田14-37-2

Tel. 019-651-4111 (内線 7353)

印 刷 第一印刷有限会社

〒020-01 盛岡市みたけ4 6 40